

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator 管理者ガイド

12.3

Enterprise Vault™ Discovery Accelerator 管理者ガイド

最終更新日: 2018-03-12。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	Discovery Accelerator の概要	11
	Discovery Accelerator の主な機能	11
	Discovery Accelerator のコンポーネントについて	12
	Discovery Accelerator の処理	12
	Discovery Accelerator の重複排除機能について	14
	製品のマニュアル	14
	Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー	15
	Discovery Accelerator トレーニングモジュール	16
第 2 章	Discovery Accelerator クライアントの概要	17
	Discovery Accelerator クライアントについて	17
	Discovery Accelerator クライアントを開く	17
	Discovery Accelerator クライアントの使い方	19
第 3 章	ロールの設定と割り当て	21
	Discovery Accelerator の事前定義済みのロールについて	21
	Discovery Accelerator の権限について	23
	権限を許可または拒否する機能について	26
	Discovery Accelerator ロールの作成	27
	Discovery Accelerator ロールのプロパティの編集	28
	ユーザーへの Discovery Accelerator ロールの割り当て	28
	Discovery Accelerator ロールの削除	29
第 4 章	ケースを使った操作	31
	Discovery Accelerator ケースについて	31
	新しい Discovery Accelerator ケースのオープン	32
	Discovery Accelerator ケースの進捗状況のチェック	34
	Discovery Accelerator ケースの分析の実装	36
	Discovery Accelerator ケースの分析の有効化	36
	分析データコレクションの進捗状況の監視	38
	Discovery Accelerator ケースの分析の一時停止と再開	40
	狭帯域幅環境での分析データコレクションの高速化	40
	Discovery Accelerator ケースの分析の無効化	41
	Discovery Accelerator ケースの削除	41

第 5 章	レビューマークとタグの設定	43
	レビューマークについて	43
	レビューマークの作成	44
	保持されるマークの動作	46
	レビューマークの編集	47
	個々のケースと関連付けされるレビューマークのカスタマイズ	47
	タグの作成	48
	タググループの作成	49
	単一選択タググループの作成	50
	複数選択タググループの作成	51
第 6 章	アイテムに自動的にマーク付けまたはタグ付けする ルールの使用	53
	分析ルールについて	53
	分析ルールの作成	54
	検索属性について	57
	演算子について	67
	SQL Server のストップワードについて	69
	手動分類の上書き	70
	分析ルールの編集	70
	マーク付けルールの優先度レベルの変更	71
	タグ付けルールについて	71
	手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集	72
	カッコの使用による分析 RDL のブールの優先度の設定	72
	分析 RDL でのステミングの使用	73
	分析 RDL でのカストディアンと対象値の指定	74
	分析ルールの削除	75
第 7 章	カストディアンマネージャの使用	76
	カストディアンマネージャについて	76
	カストディアンマネージャの使用のガイドライン	77
	カストディアンの設定	78
	カストディアングループの設定	79
	カスタムのカストディアン属性の設定	80
	プライマリカストディアン属性の設定	81
	カストディアンを同期するユーザーアカウントの指定	82
	Active Directory ドメインと Domino サーバー全体との同期	83
	カストディアンマネージャの設定オプションの設定	84

第 8 章	アイテムの検索	86
	Discovery Accelerator を使った検索について	86
	特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項	87
	Discovery Accelerator 検索の作成と実行	87
	検索基準オプションについて	90
	効果的な検索の実行に関するガイドライン	99
	Discovery Accelerator 検索の一時停止と再開	100
	[検索の監視] タブについて	101
	検索対象のアーカイブの選択	102
	カスタム検索属性の詳細の指定	105
	アドレスマネージャを使った対象電子メールの定義	108
	対象の設定	108
	対象グループへの対象の追加	110
	Discovery Accelerator 検索スケジュールの作成	112
	新しい検索スケジュールの設定	112
	検索の反復スケジュールの例	114
	Discovery Accelerator を使ってアーカイブされた Skype for Business コンテンツの検索	115
第 9 章	手動によるアイテムのレビュー	116
	Discovery Accelerator を使ったレビューについて	117
	特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項	117
	レビューペインについて	117
	レビューペインのアイテムのフィルタ処理	122
	レビューセット内での検索	126
	クイック検索の実行	127
	詳細検索の実行	128
	同じ対話のすべてのアイテムの検索	131
	アイテムへのレビューマークとタグの割り当て	132
	コメントのアイテムへの追加	133
	アイテムの履歴の表示	133
	アイテムの印刷可能バージョンの表示	134
	元のアイテムのダウンロード	135
	クリップボードへのアイテムリストのコピー	135
	Enterprise Vault アーカイブからのアイテムの削除	136
	削除した後にアイテムをレビューする場合の制限事項	137
	レビューペインの概観の変更	137
	レビューペインのユーザー設定の設定	138

第 10 章	リサーチフォルダを使った作業	141
	リサーチフォルダについて	141
	リサーチフォルダの作成	142
	リサーチフォルダのプロパティの編集	144
	アイテムのリサーチフォルダへのコピー	144
	リサーチフォルダのアイテムのレビュー	145
	リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート	145
	リサーチフォルダへのアクセス権の付与	146
	リサーチフォルダからのアイテムの削除	147
	リサーチフォルダのケースへの変換	147
	フォルダの削除	148
第 11 章	アイテムのエクスポートと提出物生成	149
	アイテムのエクスポートと提出物生成について	149
	特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項	149
	エクスポートと提出物生成の違い	150
	エクスポート実行または提出物生成実行	150
	同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について	155
	特定のアイテムの重複を含んでいるアーカイブの識別	155
	エクスポート実行と提出物生成実行を最適化する方法	157
	エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示	157
第 12 章	レポートの作成と表示	159
	Discovery Accelerator レポートについて	159
	Discovery Accelerator レポートの作成	159
	利用可能な Discovery Accelerator のレポート	160
	[アーカイブソース]レポート	161
	[ケースの履歴]レポート	162
	[エクスポート実行の重複]レポート	164
	[アイテムの詳細]レポート	165
	[リーガルホールド]レポート	165
	[提出物生成実行]レポート	167
	[提出物生成実行の重複]レポート	168
	[提出物生成]レポート	168
	[検索]レポート	169
	[セキュリティ]レポート	171
	既存のレポートの表示	171
	レポートの削除	172
	OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表	
	示について	173
	利用可能な Discovery Accelerator データセット	173

Discovery Accelerator データベースへのアクセス	174
Microsoft Excel での OData サービスの使用	174
Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS)での OData サービスの使用	175

付録 A Discovery Accelerator のカスタマイズ 177

Discovery Accelerator システム設定オプションの設定	177
アドホック検索の設定オプション	179
分析の対話分析の設定オプション	180
分析のデータコレクションの設定オプション	180
API の設定オプション	180
監査の設定オプション	181
診断の設定オプション	181
文書の変換の設定オプション	183
エクスポートまたは提出物生成の設定オプション	183
全般設定オプション	186
ホームページの設定オプション	188
アイテムのプリフェッチキャッシュの設定オプション	188
アイテムのプリフェッチキャッシュ (詳細) の設定オプション	190
リーガルホールドの設定のオプション	193
ポリシーの統合の設定オプション	194
権限がある削除の設定オプション	194
プロファイルの同期の設定オプション	195
レビューの設定オプション	196
検索の設定オプション	198
セキュリティの設定オプション	203
システム設定オプション	204
ボルトのディレクトリの同期の設定オプション	205
レビューペインの列のカスタマイズ	207

付録 B XML ファイルからの設定データのインポート 210

設定データのインポートについて	210
サンプル XML ファイル	210
Dataload.xml ファイルの形式	211
カスタディアンマネージャのデータロード XML ファイルの形式	212
設定データのインポート	212
ImportExport コマンドについて	213
ImportExport の構文	213
ImportExport コマンドの例	215

付録 C

Discovery Accelerator 検索で使う Enterprise Vault のプロパティ	217
Enterprise Vault の検索のプロパティについて	217
システムプロパティ	218
Enterprise Vault のカスタムプロパティ	225
ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロ パティ	226
SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ	226
Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカス タムプロパティ	228
ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ	228
Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ	229

付録 D

トラブルシューティング	230
Discovery Accelerator クライアントのレビューペインで特定のアイテムをブ レビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある	231
Windows 8 以降で Discovery Accelerator クライアントを開くときの表示 の問題	231
Internet Explorer 10 以降で Discovery Accelerator Web サイトを開くと きの表示の問題	231
Discovery Accelerator クライアントで表示されないボルトストア	231
Discovery Accelerator の検索で予期しない結果が返される	232
SQL Server ではデフォルトでフルテキスト検索インデックス作成が無効に なる	232
Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートする際のエラー	233
インターネットメール (.eml) メッセージをレビューセットからエクスポートした 後に、その TNEF エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある	234
SQL Server コンピュータ名の変更後の同期エラー	235
Accelerator マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー	235
カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに SQL Service Broker で警告が発生する	236
カストディアンマネージャに関する問題	236
カストディアンマネージャを使うと複数のカストディアンを同じ Active Directory アカウントで同期できる	236
カストディアンマネージャで、ユーザーがカストディアングループを削 除して Active Directory と同期することによってグループを復元 した後に、そのグループのメンバーが一覧表示されない	237

カストディアンが 1 つの Active Directory ドメインに属していて、別のドメイン内のグループのメンバーである場合に、カストディアンマネージャがその別のドメインと同期するときにカストディアンの詳細を更新しないことがある	237
カストディアンマネージャが特定の 2 バイト文字を名前に含む Domino LDAP ユーザーとグループとの同期に失敗する	237
Discovery Accelerator のレポートに関する問題	238
レポートを生成しようとするメッセージ[レポートの作成中にエラーが発生しました]が表示される	238
レポートの初回印刷時に SQL Server のインストールを要求するメッセージが表示される	239
CSV としてエクスポートしたレポートを Microsoft Excel で正しく開けない場合がある	239
Acrobat 形式でレポートをエクスポートするときに日本語で文字化けが発生する	240
OData エラーのトラブルシューティング	240
権限がある削除エラーのトラブルシューティング	241

Discovery Accelerator の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator の主な機能](#)
- [Discovery Accelerator のコンポーネントについて](#)
- [Discovery Accelerator の処理](#)
- [Discovery Accelerator の重複排除機能について](#)
- [製品のマニュアル](#)

Discovery Accelerator の主な機能

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault のサービスやアーカイブと統合された、開示とレビューを行う電子システムです。Discovery Accelerator は、主任弁護士の調査や法廷で必要な提出物を迅速に費用対効果の高い方法で用意するために、電子メール、文書、その他の電子的なアイテムを検索し、取り込み、保存し、分析し、レビューし、マーク付けし、エクスポートまたは生成する権限をユーザーに与えることができます。

大量のアイテムのレビューを法律の専門家や外部の弁護団に依頼すると、非常にコストがかかります。Discovery Accelerator を使うと、1 つの開示処理またはケースにレビューアの階層を作成し、レビューアのレベルごとに特定のレビューマークを割り当てることができます。この方法を使えば、弁護士補助のスタッフや法律専門以外のスタッフが検索結果や収集結果の初期レビューを行うことができ、特別なアイテム、関連するアイテム、問題のあるアイテムのみを弁護士に任せることができます。その後、必要に応じて関連するアイテムに適切な通し番号を生成するか、または単に Discovery Accelerator からこれらのアイテムを各種の形式でエクスポートできます。

Discovery Accelerator のコンポーネントについて

Discovery Accelerator の主なコンポーネントを表 1-1 に示します。

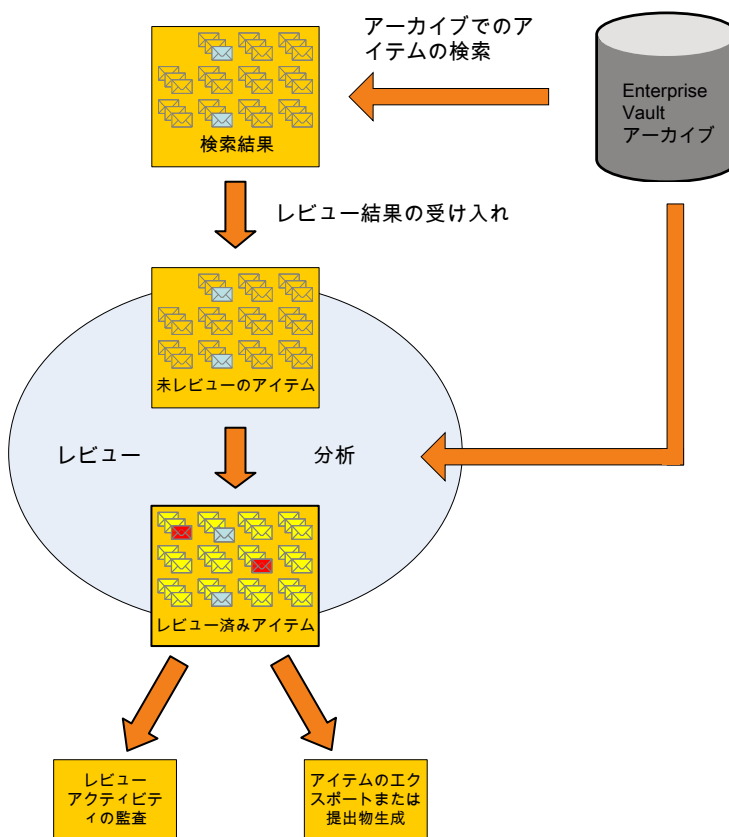
表 1-1 Discovery Accelerator のコンポーネント

コンポーネント	メモ
Discovery Accelerator クライアント	クライアントは、Discovery Accelerator の管理者がシステムの設定と管理を行い、レビューアがアイテムにアクセスしてマーク付けする場合に使われます。
Accelerator マネージャ Web サイト	この Web サイトでは、データを格納する複数の Discovery Accelerator データベースの設定を行うことができます。
Enterprise Vault Accelerator マネージャサービス	このサービスは、Discovery Accelerator クライアントからの要求を処理し、Enterprise Vault コンポーネントと連動してアーカイブへのアクセスや検索などを実行します。
カスタマーデータベース	カスタマーデータベースは、ケースの詳細、ユーザーロール、検索結果、レビューマーク、タグなどを Discovery Accelerator が格納する SQL データベースです。 複数のカスタマーデータベースを設定できます。
設定データベース	設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する SQL Server、データベースファイル、ログファイルの詳細を格納する SQL データベースです。
カストディアンマネージャ Web サイト(オプション)	この Web サイトでは、Discovery Accelerator で検索するカストディアン(個々の従業員)とカストディアングループの詳細を格納できます。カストディアングループは、Windows グループまたは Domino グループと配布リスト、Active Directory 検索または Domino LDAP 検索、Active Directory コンテナなどの従業員の任意の集まりです。
Discovery Accelerator API Web サイト(オプション)	この Web サイトでは、Discovery Accelerator API を使って他社のツールとソフトウェアを統合し、データを Discovery Accelerator カスタマーデータベースから取り込んだり、カスタマーデータベースにエクスポートしたりすることができます。 Discovery Accelerator API について詳しくは Veritas 社のサポートにお問い合わせください。

Discovery Accelerator の処理

図 1-1 に、検出プロセスの手順の概要を示します。

図 1-1 Discovery Accelerator の処理手順



通常は Discovery Accelerator の処理手順を次の順序で実行します。

- Discovery Accelerator のシステム管理者がケースを設定します。
そのケースに関連するすべてのメッセージとファイルは、すでに Enterprise Vault アーカイブに格納されています。一般的に、メールボックスアーカイブはジャーナルメールボックスアーカイブですが、検索に個々のユーザーメールボックスを含めることができます。パブリックフォルダ、ファイルシステム、SharePoint アーカイブも検索できます。
- 検索権限を持つユーザーがジャーナルメールボックスやファイルシステムアーカイブの検索を作成します。
Discovery Accelerator を使って作成する検索では、高度な設定が可能です。指定する基準には、検索対象の単語とフレーズ、日付範囲、メッセージのサイズと種類、作成者と受信者の詳細、添付ファイルの詳細などを設定できます。

- 検索が終了したら、検索を実行したユーザーは結果が予想どおりであるかを確認できます。ユーザーが結果を受け入れた場合、Discovery Accelerator はそれらをケースレビューセットに追加します。
- 管理者は、ケースレビューセット内のアイテムをレビューアに割り当て、表示やマーク付けができるようにします。
必要に応じて、管理者はケースの分析を有効にすることができます。この機能によって、ケース内に収集したアイテムのメタデータと内容をさらに分析できます。分析による他の利点は、必要に応じて次の操作を実行できることです。
 - Discovery Accelerator が、ケースに追加するアイテムに自動的にマーク付けし、分類する際のルールを設定します。人間による操作を少なくして大量のアイテムを分類すると、最終的には、手動レビューの対象となるレビューセットは効率のよい小規模なレビューセットになります。
 - すべての対話スレッドを 1 つの画面で確認、レビューします。
 - ケースのアイテム内でクイック検索または詳細検索を実行します。
これらの機能は、ガイド付きレビューと呼ばれる新しいレビュー操作を提供します。
- マーク付けされたアイテムが適切な形式で発行されます。利用可能な形式には、PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などがあります。
アイテムを生成するか、エクスポートするかを選択できます。提出物生成処理では、各アイテムに対して通し番号が生成されます。また、この処理ではアイテムがロックされるため、レビューアは割り当てられているマークを変更できません。エクスポート処理では、アイテムの通し番号の生成やアイテムのロックは行われず、レビューアは引き続きそのアイテムを処理できます。

Discovery Accelerator の重複排除機能について

Discovery Accelerator は重複排除機能を提供します。この機能の目的は、類似アイテムや重複アイテムを判別して排除することによって、レビュー、エクスポート、提出物生成の回数を最小限にすることです。Discovery Accelerator では、メタデータのプロパティ (作成者の表示名、件名、添付ファイル数など) が同じ場合はアイテムを類似と見なします。重複アイテムは、メタデータのプロパティが同じだけでなく内容もまったく同じです。重複アイテムを判別して除外するオプションは、分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能です。ただし、これは類似アイテムには該当しません。類似アイテムでは、すべての場合に判別して除外できます。

製品のマニュアル

表 1-2 に、Discovery Accelerator に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-2 Discovery Accelerator のマニュアルセット

マニュアル	コメント
インストールガイド	Discovery Accelerator サーバーソフトウェアとクライアントソフトウェアの初回インストールを実行する方法について説明します。
アップグレードの手順	インストールされている既存の Discovery Accelerator をアップグレードする方法について説明します。
管理者ガイド	ロールの設定と割り当て、レビューセットに追加するアイテムの検索、オフラインレビューのためのアイテムのエクスポート、レポートの作成などの方法について、Discovery Accelerator の管理者に情報を提供します。
レビューアガイド	レビューアが利用可能な Discovery Accelerator クライアントの機能について説明します。
ヘルプ	Discovery Accelerator のすべてのアプリケーションに付属し、それらの機能を使う方法の広範な情報を提供します。
リリースノート	Discovery Accelerator をインストールして使う前に注意する必要がある最新情報について説明しています。
ベストプラクティス	Discovery Accelerator の最適な計画と実装を行う方法に関する広範な情報を提供します。このマニュアルを入手するには、Veritas サポート Web サイトの次のページを参照してください。 https://www.veritas.com/docs/100024378

Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

Veritas サポート Web サイトの次のホワイトペーパーには、このガイドで説明する機能の詳細が記載されています。

表 1-3 Veritas サポート Web サイトのホワイトペーパー

ホワイトペーパー	説明
Accelerator Deduplication	Discovery Accelerator の重複排除機能
Effective Searching	Discovery Accelerator で検索を実行する方法
Effective Reviewing	Discovery Accelerator レビューアが利用できる機能およびツール
Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting	OData (Open Data) プロトコルを使用して Discovery Accelerator レポートを作成する方法

Discovery Accelerator トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Discovery Accelerator の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Discovery Accelerator トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Discovery Accelerator クライアントの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator クライアントについて](#)
- [Discovery Accelerator クライアントを開く](#)
- [Discovery Accelerator クライアントの使い方](#)

Discovery Accelerator クライアントについて

このクライアントは豊富な機能を持つ Windows アプリケーションです。Discovery Accelerator ユーザーはこのクライアントを使って、レビューするアイテムにマークとコメントを追加することができます。また、管理者は Discovery Accelerator クライアントを使ってアプリケーションの管理とカスタマイズを行うことができます。Discovery Accelerator ユーザーが割り当てられているロールによって、各ユーザーがアクセスできるクライアントの機能が決まります。

このガイドで説明するすべての処理は Discovery Accelerator クライアントで実行してください。

Discovery Accelerator クライアントを開く

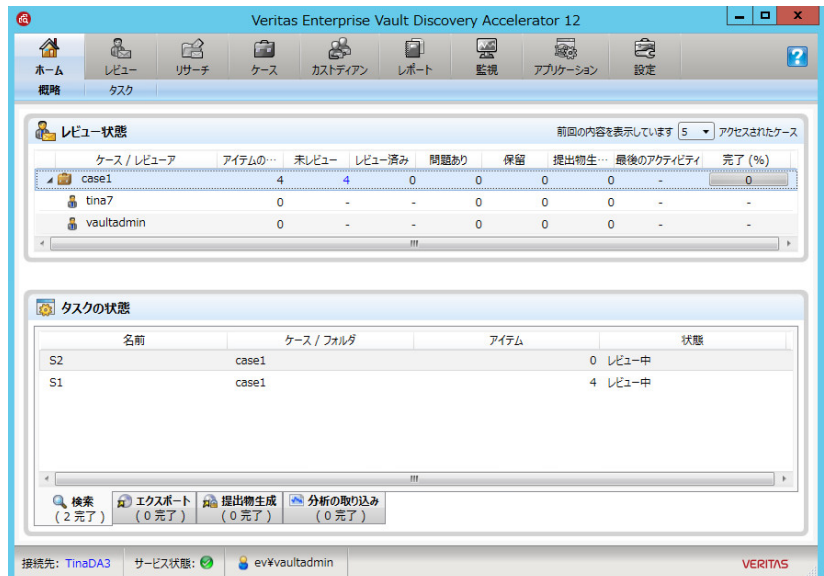
次の点に注意してください。

- Discovery Accelerator クライアントを頻繁に使用していると、Windows デスクトップに起動ショートカットを作成することが考えられます。
- Windows 8/8.1/10 コンピュータ上で Discovery Accelerator クライアントを実行する場合、最適なパフォーマンスのために Windows 7 または Windows XP の互換性

モードで実行することをお勧めします。これをする方法のガイドラインについては、Windows のマニュアルを参照してください。

Discovery Accelerator クライアントを開くには

- 1 Discovery Accelerator クライアントのショートカットをクリックします。
しばらくして、「接続する Discovery Accelerator インスタンスの選択」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [サーバー]フィールドで、Discovery Accelerator サーバーのソフトウェアが実行されているコンピュータの名前または IP アドレスを入力します。
IP アドレスは、IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも入力できます。
- 3 [インスタンス]フィールドで、アクセスする Discovery Accelerator インスタンス(カスタマーデータベース)を選択します。利用可能なインスタンスが一覧表示されるフィールドの右側にある下矢印をクリックします。
各インスタンスには、レビューするケースセットの詳細が格納されます。また、関連付けされたユーザーロール、検索結果、リサーチフォルダなども格納されます。したがって、選択するインスタンスが複数ある場合もあります。
- 4 [接続する Discovery Accelerator インスタンスの選択]ダイアログボックスを最初に表示せずに常に同じインスタンスに接続する場合は、「アプリケーションを開くたびに確認する」をクリアします。
- 5 [接続]をクリックします。
しばらくして、Discovery Accelerator クライアントのホームページが表示されます。



Discovery Accelerator クライアントをクローズする方法

- ◆ ウィンドウの右上にある[クローズ]ボタンをクリックします。

Discovery Accelerator クライアントの使い方

Discovery Accelerator クライアントでは、割り当てられたロールによってユーザーがアクセスできる機能が決まります。表 2-1 は、最も権限が強いロールのユーザーがアクセスできる機能を示しています。Discovery Accelerator 管理者は、ユーザーへの複数の異なるロールの割り当てと、そのロールに関連付けされた権限の変更を行うことができます。

表 2-1 Discovery Accelerator クライアントの主なタブ

アイコン	タブ	説明
	ホーム	このタブは Discovery Accelerator で実行するアクティビティの状態の主な項目を表示します。また、Discovery Accelerator で頻繁に実行される可能性のあるアクティビティにすばやいアクセスを提供します。
	レビュー	このタブでは、レビューセットのアイテムを確認し、マークを割り当ててコメントを付けることができます。
	リサーチ	このタブでは、他の Discovery Accelerator レビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できるリサーチフォルダを設定できます。
	ケース	このタブでは、ケースをオープンし、管理することができます。また、ケースの分析を有効にし、ケース内に収集したアイテムのメタデータと内容をさらに分析することもできます。
	カストディアン	<p>このタブでは、対象となる電子メールを設定することができます。この電子メールは Discovery Accelerator の検索基準に含めることが可能です。対象は、従業員のすべての電子メールアドレスを指定する簡単な方法で、検索の設定時にアドレスをすべて入力する必要がなくなります。</p> <p>このタブにはカストディアンマネージャ Web サイトへのリンクも表示されます。この Web サイトでは、Discovery Accelerator で検索するカストディアンとカストディアングループの詳細を指定できます。</p>
	レポート	このタブでは、レビューアの進捗状況、ロール、担当など、Discovery Accelerator のさまざまな面に関するレポートを生成できます。

アイコン	タブ	説明
	監視	このタブでは、すべての Discovery Accelerator の検索の状態を監視し、必要に応じて検索を一時停止または再開することができます。
	アプリケーション	<p>このタブから、よく使われるさまざまな管理機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [ロール]。ユーザーに割り当て可能なロールの設定と修正を行い、Discovery Accelerator の機能へのユーザーによるアクセスを管理します。 ■ [ロールの割り当て]。ユーザーに Discovery Accelerator ロールを割り当てます。 ■ [マーク]。レビューアが各アイテムに対して付けることができるマークを設定したり編集したりします。このマークは、ケースに関連しているかどうかを示します。 ■ [タグ]。レビューアがレビューセットのアイテムに割り当てることができるタグと呼ばれるマークの補助セットを定義します。 ■ [アーカイブ]。Discovery Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズします。 <p>また、選択したボルトストアをケース管理者に対して非表示にするように選択できます。これにより、ケース管理者はそのボルトストア内でアーカイブの検索を実行できません。</p>
	設定	<p>このタブから、使用頻度が少ないさまざまな設定機能にアクセスできます。このタブをクリックしたときに利用可能なオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [検索スケジュール]。設定時刻に繰り返し Discovery Accelerator の検索が実行されるスケジュールを設定します。 ■ [検索属性]。検索基準に含めることが可能なカスタム属性の詳細を指定します。 ■ [インポート設定]。XML ファイルから Discovery Accelerator に設定データをインポートします。 ■ [アカウント情報]。新しいユーザーを Discovery Accelerator システムに追加するときに選択できる複数の Windows ドメインの詳細を指定します。 ■ [設定値]。Discovery Accelerator の外観とパフォーマンスをカスタマイズする何百もの設定オプションを設定します。

ロールの設定と割り当て

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator](#) の事前定義済みのロールについて
- [Discovery Accelerator](#) の権限について
- [Discovery Accelerator](#) ロールの作成
- [Discovery Accelerator](#) ロールのプロパティの編集
- ユーザーへの [Discovery Accelerator](#) ロールの割り当て
- [Discovery Accelerator](#) ロールの削除

Discovery Accelerator の事前定義済みのロールについて

ユーザーに割り当てられたロールによって、[Discovery Accelerator](#) 内のアクセス可能な場所と実行可能なアクティビティが決まります。一部のロールはアプリケーションレベルで有効で、[Discovery Accelerator](#) システム全体に適用されます。それ以外のロールはケースレベルまたはフォルダレベルでのみ適用されます。

ケースを作成した場合にそれにアクセスできるのは所有者のみです。そのケースに関連する 1 つ以上の権限を所有者が付与するまで、他のユーザーはケースを表示できません。[Discovery Accelerator](#) ロールは、複数の特定の権限をジョブの機能に従ってグループ化する論理的な方法を提供します。

[表 3-1](#) に [Discovery Accelerator](#) に用意されている事前定義済みロールを示します。これらのロールがニーズを正確に満たさない場合は、独自のロールを作成できます。

表 3-1 事前定義済みロール

ロール	説明	デフォルトの権限
ケース管理者	このロールは特定のケース内の管理上のアクティビティを実行できます。これらのアクティビティには、ケースの管理とロールの割り当てが含まれます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ケースプロパティ設定 ■ ロールの割り当て
ディスカバリシステム管理者	このロールは Discovery Accelerator 内のすべての管理上のアクティビティを実行できます。ケースの作成と管理、ユーザーへのアプリケーション全体のロールの割り当て、XML ファイルからの設定データのインポートを実行できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ケースの作成と設定 ■ 設定データエクスポート ■ 設定データのインポート ■ 管理用セキュリティ管理 ■ アーカイブ管理 ■ グローバル対象と対象グループ管理 ■ マーク管理 ■ ロール管理 ■ スケジュール管理 ■ 検索属性管理 ■ システム設定修正 ■ 検索監視 ■ システム設定表示
フォルダメッセージキャプチャ	このロールはリサーチフォルダに追加する新しいアイテムを検索することを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検索
フォルダエクスポート	このロールはオフラインレビューのためにリサーチフォルダからアイテムをエクスポートしたり、アイテムの提出物を生成したりすることを可能にします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 提出物生成
フォルダフルコントロール	<p>このロールは新しいアイテムを検索し、リサーチフォルダへの追加、アイテムのレビュー、オフラインでレビューするためのアイテムのエクスポートまたはアイテムの提出物の生成を行います。</p> <p>他のユーザーがレビュー処理に参加できるように、該当するユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 割り当て ■ フォルダプロパティ設定 ■ フォルダの削除 ■ 分析の管理 ■ 自動分類管理 ■ 提出物生成 ■ レビュー ■ ロールの割り当て ■ 検索

ロール	説明	デフォルトの権限
フォルダレビュー	このロールはリサーチフォルダのアイテムのレビューとマーク付けを行うことができます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ レビュー
規制レビューア	このロールでは、 Enterprise Vault アーカイブに対してアイテムの検索、プレビュー、レビュー、削除、レポートの表示を実行できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 権限がある削除 ■ レビュー ■ 検索 ■ 検索プレビュー ■ 検索中のアーカイブの選択 ■ レポート表示

Discovery Accelerator の権限について

次の表はユーザーロールと関連付けできる権限のより多くの情報を提供します。

表 3-2 アプリケーション権限

権限	説明
リサーチフォルダのアーカイブ選択	リサーチフォルダの検索を行うときに使うボルトストアとアーカイブを選択します。
リサーチアイテムをコピー	リサーチフォルダからケースレビューセットにアイテムをコピーします。
ケースの作成と設定	新しいケースを作成してそれらを所有者に割り当て、既存のケースのプロパティを編集します。
リサーチフォルダを作成	ケースにリンクされないリサーチフォルダを設定します。
ケース削除	選択したケース、それに関連付けされているすべてのオブジェクト(ケース指定検索、ユーザーフォルダ、対象、対象グループなど)の削除を行います。
設定データエクスポート	<p>ImportExport コマンドラインユーティリティを使って、Discovery Accelerator データベースから XML ファイルへ設定データをエクスポートします。</p> <p>p.213 の「ImportExport コマンドについて」を参照してください。</p>
リサーチアイテムのエクスポート	オフラインレビューのためにリサーチフォルダのアイテムをエクスポートします。

権限	説明
設定データのインポート	XML ファイルから Discovery Accelerator データベースへ設定データをロードし、インポートログを表示します。
管理用セキュリティ管理	ユーザーにアプリケーション全体のロールを割り当てます。ただし、ユーザーにケースロールを割り当てることができるのはケース管理者のみであるため、アプリケーション管理者はユーザーにこれらのロールを割り当てることができません。
アーカイブ管理	Discovery Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズします。また、選択したボルトストアをケース管理者に非表示にするように選択できます。これにより、ケース管理者はそのボルトストア内でアーカイブの検索を実行できません。
グローバル対象とグローバル対象グループ管理	アプリケーション全体の対象と対象グループを作成、編集、削除します。これにより、検索基準の定義時に複数の電子メールアドレスを簡単に入力できます。
マーク管理	すべてのケースで利用可能なマークを作成、編集します。ただし、この権限では、ケース内で作成されたマークへのアクセス権は付与されません。
ロール管理	アプリケーションロールとケースロールを追加、削除し、各ロールに割り当てる権限を選択します。
スケジュール管理	スケジュールを作成、編集、削除します。これにより、今後の検索や反復検索を実行するタイミングを定義できます。
検索属性管理	検索で利用可能な追加属性やカスタマイズした属性を作成します。
システム設定修正	Discovery Accelerator システムプロパティを変更します。Discovery Accelerator の外観、パフォーマンス、機能もカスタマイズできます。
検索監視	関連付けされているケースへのアクセス権が通常はない場合でも、すべてのケース全体の検索の状態の監視、検索の一時停止と再送信を行います。ただし、通常のアクセス権限がなければ、検索基準または検索結果を表示できません。
リサーチをケースに移行	リサーチフォルダをケースに変換します。

権限	説明
システム設定表示	アプリケーションの外観、パフォーマンス、機能を決定する Discovery Accelerator システムプロパティと設定オプションを表示します。

表 3-3 ケース権限とフォルダ権限

権限	説明
割り当て	個々のレビューアにケースまたはリサーチフォルダのアイテムを割り当てます。
ケースプロパティ設定	名前、状態、所有者などのケースのプロパティを変更します。
フォルダプロパティ設定	フォルダのプロパティ (名前やエクスポートの場所など) を変更します。
ケース削除	現在のケース、それに関連付けられているすべてのオブジェクト (ケース指定検索、ユーザーフォルダ、対象、対象グループなど) の削除を行います。
フォルダの削除	ユーザーがレビューを行うためにアイテムを格納したリサーチフォルダを削除します。
分析の管理	ケースまたはフォルダの分析の機能の有効と無効を切り替えます。分析を一時停止または再開することもできます。
アーカイブ管理	検索対象のアーカイブの一覧を設定します。
自動分類管理	Discovery Accelerator がアイテムにマークとタグを自動的に適用する際の分析ルールを作成、編集、削除します。
リーガルホールド管理	ユーザーによるアイテムの削除を防止するためにケース内にアイテムを保存します。
マーク管理/タグ管理	レビューアがケースまたはリサーチフォルダで利用可能なレビューマーク、タグ、タググループを選択します。
対象管理	検索基準に含めることが可能な対象と対象グループとなる電子メールを作成、編集、削除します。
アドホック検索実行	リサーチフォルダを作成、編集、削除し、フォルダに格納するアイテムを検索し、それらのアイテムをレビューするという完全リサーチ権限を所有します。

権限	説明
権限がある削除	アイテムがリーガルホールドに指定されていない限り、Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除します。
提出物生成	エクスポート実行と提出物生成実行を行います。
レビュー	アイテムをレビューし、マークを割り当て、コメントを付けます。
ロールの割り当て	ケース内のユーザーにロールを割り当てます。
検索	レビューセットに格納するためのアイテムを検索します。
検索プレビュー	検索結果を受け入れる前に検索結果をプレビューします。この権限には、検索権限が必要です。
検索でのアーカイブの選択	ケースレベルかフォルダレベルの検索の基準を定義するときに、検索する特定のアーカイブを選択します。この権限がないと、検索を作成し、実行するときに、ケースに選択されているボルトストアのすべてのアーカイブを検索する必要があります。この権限には、検索権限が必要です。
ホームページのレビューア概略の表示	Discovery Accelerator クライアントのホームページに、レビューアのアクティビティの概略を表示します。
レポート表示	レポートの作成と表示を行います。

権限を許可または拒否する機能について

ロールに関連付ける権限を選択するだけでなく、そのロールを占有するユーザーに対して特定の権限を拒否することもできます。権限を拒否すると、その権限を許可する他のロールにユーザーが割り当てられた場合に、ユーザーはその権限を取得できません。

たとえば、検索機能を除く Discovery Accelerator クライアントのすべての機能に、一部のユーザーがアクセスできないようにするとします。これを実現するには、検索権限と検索プレビュー権限を許可に設定し、他のすべての権限を拒否に設定したロールにユーザーを割り当てます。追加の権限を付与する他のロールにユーザーが割り当てられても、拒否権限が優先されるため、ユーザーは追加の権限を行使できません。

一部の事前定義済みロールには、ロールに必須であるため取り消すことができない権限があります。たとえば、ケース管理者ロールのロールの割り当て権限を拒否に設定することはできません。Discovery Accelerator クライアントの[ロールの詳細]ペインでは、変更できないことを示すためにこれらの権限はグレー表示されます。

Discovery Accelerator ロールの作成

ユーザーに割り当てる権限が事前定義済みロールに含まれていない場合は、独自のロールを作成できます。

ロールを作成するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

ロールを作成する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[ロールの詳細]ペインが表示されます。

	許可	拒否
アーカイブ管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アドホック検索実行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ケースのプロパティの設定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ケースの削除	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
フォルダの削除	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ホームページのレビューア概略の表示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
マーク/タグ管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
リーガルホールド管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
レビュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
レビュー済みフォルダメッセージコミット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 3 右ペインで、重複しないロール名と、必要に応じて説明を入力します。
ロール名には最大 50 文字まで入力できます。説明には最大 250 文字まで入力できます。

- 4 [範囲]フィールドで、ロールに関連付けされた権限をアプリケーション全体で有効にするか、ケースレベルでのみ有効にするかを選択します。アプリケーションロールは、カスタマーデータベース全体の全構造と全設定に関連する権限を付与します。ケースロールは、関連付けされているケース固有の権限を付与します。

アプリケーションロールを持つユーザーは、特定のケースで適切なロールが割り当てられている場合にのみ、そのケースでタスクを実行できます。1 つ以上のケースでタスクを実行するには、アクセスする必要があるすべてのケースの適切なロールを割り当てる必要があります。

ここで選択した内容によって、利用可能な権限が決まります。

- 5 ロールに関連付ける権限を選択します。
p.23 の「[Discovery Accelerator の権限について](#)」を参照してください。
- 6 [保存]をクリックします。

Discovery Accelerator ロールのプロパティの編集

Discovery Accelerator ロールに関連付けられた権限を変更できます。カスタムロールを作成した場合は、その名前や説明を変更することもできます。ただし、事前定義済みロールの名前を変更することはできません。

ロールを編集するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

Discovery Accelerator ロールのプロパティを編集する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するロールをクリックします。
- 3 右ペインで、必要に応じてロールの名前と説明を変更し、ロールに関連付ける権限を選択します。
ロール名は一意である必要があり、50 文字まで含むことができます。説明には最大 250 文字まで入力できます。
- 4 [保存]をクリックします。

ユーザーへの Discovery Accelerator ロールの割り当て

従業員または従業員グループに割り当てられたロールによって、Discovery Accelerator 内のアクセス可能な場所と実行可能なタスクが決まります。

ユーザーにアプリケーション全体のロールを割り当てるには、アプリケーションの管理用セキュリティ管理権限が必要です。ケース固有のロールを割り当てるには、ケースのロールの割り当て権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者のユーザーには前者の権限があり、ケースの管理者のユーザーには後者の権限があります。ケースをまだオープンしていない場合、それらのケースのユーザーにロールを割り当てるにはケースをオープンする必要があります。

p.32 の「[新しい Discovery Accelerator ケースのオープン](#)」を参照してください。

ユーザーにロールを割り当てる方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーションロールを割り当てるためには、**Discovery Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロールの割り当て]タブをクリックします。
 - ケースロールを割り当てるには、[ケース]タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。次に[ロールの割り当て]タブをクリックします。
Discovery Accelerator によって大量のケースが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。ケースを名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けされるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。
- 2 ロールを割り当てるユーザーの名前をクリックします。
ユーザーがリストに表示されなければ、ペインの先頭で[追加]をクリックし、次にそれに追加するユーザーを選択します。
- 3 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 新しいロールを割り当てるために[追加]をクリックします。
 - 選択したロールを削除するために[削除]をクリックします。
- 4 [保存]をクリックします。

Discovery Accelerator ロールの削除

ロールが不要になった場合、そのロールを削除できます。従業員に割り当てられているロールを削除しても、ロールに関連付けされた権限は保持されます。ロールを削除する前にロールの割り当てがあるかどうかを調べ、解除します。

続行する前に次の点に注意してください。

- 事前定義済みロールではないカスタムロールのみ削除できます。
- ロールを削除するには、ロール管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

ロールを削除する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[ロール]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するロールをクリックします。
- 3 [削除]をクリックします。
- 4 続行する場合は、再び[削除]をクリックします。

ケースを使った操作

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator ケースについて](#)
- [新しい Discovery Accelerator ケースのオープン](#)
- [Discovery Accelerator ケースの進捗状況のチェック](#)
- [Discovery Accelerator ケースの分析の実装](#)
- [Discovery Accelerator ケースの削除](#)

Discovery Accelerator ケースについて

ユーザー権限、アイテムのレビューア、マーク付けスキーム、タグ付けスキーム、検索、分析、レビュー対象のアイテムのセットなどの開示処理に関するすべてが、ケースでグループ化されます。レビューアは、1 つの **Discovery Accelerator** システムで複数のケースを同時に作業できます。

Discovery Accelerator では、ケースまたはリサーチフォルダで分析を有効にできる追加のオプションが提供されます。このオプションによって、ケース内に収集したアイテムのメタデータと内容をさらに分析できます。

Discovery Accelerator 10.0.1 以降で作成された新しいケースはすべて、データのエンコードと暗号化に関する米国政府の連邦情報処理標準 (**FIPS**) に準拠しています。これは、**FIPS** に準拠していない **Discovery Accelerator** の古いバージョンで作成したケースでも、ケースで分析を有効にしなかった場合は同様です。これらの古いケースで分析を有効にした場合は、**Discovery Accelerator 10.0.1** 以降にアップグレードした後にケースの分析を無効にし、再びケースの分析を有効にすることによって **FIPS** 準拠にすることができます。

新しい Discovery Accelerator ケースのオープン

新しいケースをオープンするには、ケースの作成と設定権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

p.23 の「[Discovery Accelerator の権限について](#)」を参照してください。

新しい Discovery Accelerator ケースをオープンする方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのケース]をクリックします。
- 3 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。

ケースのプロパティペインが表示されます。

- 4 ケースのプロパティを設定します。次の表に、利用可能なフィールドを示します。

ケース

名前	ケースを指定します。ケースまたはクライアントの性質を示す名前を選択します。
----	---------------------------------------

ケースの状態	ケースの管理者およびレビューアがケースにアクセスできる ([オープン]) かできない ([クローズ]) かを判別します。
所有者	<p>ケースを管理する特権を持つユーザーの Windows アカウントを指定します。一覧から所有者を選択するには、[所有者の選択] をクリックします。ケースに複数の所有者は指定できません。</p> <p>ケース所有者の名前を変更しても、元の所有者は引き続き管理権限を保持します。これを回避するには、ケースで [ロールの割り当て] 機能を使用して、割り当てられたロールを元の所有者から削除します。</p> <p>p.28 の「ユーザーへの Discovery Accelerator ロールの割り当て」を参照してください。</p>
リーガルホールド	
アイテムを保留にする	<p>このオプションを選択すると、ユーザーがコピー元の Enterprise Vault のアーカイブからアイテムを削除できないようにケースでアイテムが保留されます。</p> <p>ケースのアイテムを保留にするには、リーガルホールド管理権限が必要です。デフォルトでは、すべてのケース管理者にこの権限が割り当てられています。</p>
理由	アイテムを保留している理由を記述する領域です。
状態	Discovery Accelerator が現在ケースでリーガルホールドを適用しているかどうかを示します。
アイテムの数	ケース内のアイテムの合計数を示します。
保留の数	Discovery Accelerator が保留しているアイテムの数を示します。
エラー数	Discovery Accelerator が一時的に保留に失敗しているアイテムの数を示します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はリーガルホールドスキャンを実行するたびにアイテムの保留を 2 回試行します。
検出されなかったアイテムの数	コピー元の Enterprise Vault のアーカイブにもはや存在しないため、 Discovery Accelerator が保留できないアイテムの数を示します。
残りのアイテム	Discovery Accelerator がまだ保留していないアイテムの数を示します。
情報	Discovery Accelerator によるアイテムの保留の進行状況に関する情報メッセージが含まれます。
提出物生成の詳細	

エクスポート ID のサイズ	エクスポートまたは生成する各アイテムのファイル名のエクスポート番号に使う桁数を指定します。デフォルトは 6 です。
次のエクスポート番号	エクスポートまたは生成する次のアイテムのファイル名に含めるエクスポート番号を指定します。
接頭辞	エクスポートまたは生成する各アイテムのファイル名で接頭辞として使うテキストを指定します。アイテムを識別する文字は、法令または企業内の規則に従った設定が必要になる場合があります。 接頭辞には 10 文字まで含めることができますが、スペースや ¥ / * ? < > などの記号を含めることはできません。
例を表示	次のエクスポート ID のプレビューを表示します。
出力フォルダ	エクスポートまたは生成したアイテムを格納するフォルダを指定します。デフォルトでは、このフォルダは、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを実行しているサーバーの C:¥ です。アイテムを別のコンピュータにエクスポートするには、共有ネットワークドライブのパス (¥165;¥165;my_computer¥165;exports など) を指定します。 フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。
検索の詳細	
検索可能なボルトストア	ケースに関連するアイテムを検索するボルトストアを指定します。ボルトストアを検索に含めるか除外するには、各ボルトストアの横のボックスを選択またはクリアします。

5 [保存]をクリックします。

Discovery Accelerator ケースの進捗状況のチェック

ケースのアイテムをレビューする権限をユーザーに付与した後、進捗状況を監視できます。必要に応じて、レビューアに割り当てたアイテムの数を変更できます。

レビューアの進捗状況を監視し、レビューの割り当てを変更するには、ケースの割り当て権限が必要です。

Discovery Accelerator ケースの進捗状況を確認する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの [ケース] タブをクリックします。
- 2 左ペインで、進捗状況を確認するケースをクリックします。

- 3 [レビューの割り当て] タブをクリックします。
レビューの割り当てペインが表示されます。

レビューア	割り当...	マーク付...	マーク...	% マーク付け済み
tina7	0	0	0	0
vaultadmin	4	0	4	0

ケースの概略	マーク付...	マーク付けさ...	% マーク付け...
ケース合計	4	0	4
割り当て済み	4	0	4
未割り当て	0	0	0

- 4 レビューアの進捗状況を評価します。

レビューアに割り当てたアイテムの数を変更する方法

- 1 [レビューの割り当て] タブの [レビューア] フィールドで、割り当てたアイテムの数を変更するレビューアの名前をクリックします。

複数の隣接したレビューアを選択するには、最初のレビューアをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のレビューアをクリックします。隣接していないレビューアを選択するには、最初のレビューアをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のレビューアをクリックします。すべてのレビューアを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 2 次の 1 つ以上の操作をします。

- 選択したレビューア間ですべての未割り当てのアイテムとマーク付けされていないアイテムを均等に割り当てるには、[自動割り当てアイテム] をクリックし、[アイテムの割り当て] をクリックします。
- 選択したレビューアに特定の数のアイテムを割り当てるには、右ペインで [割り当て n/m] をクリックし、必要なアイテムの数を入力します。
- Discovery Accelerator がアイテムに適用した 1 つ以上の日付範囲または 1 つ以上のタグなど、カテゴリでアイテムを割り当てるには、右ペインで [アイテムの属性によって割り当てる] をクリックし、次に目的のオプションを選択します。
- 特定の数のアイテムを選択したレビューアから別のレビューアに移動したり、ケースレビューセットに戻したりするには、右ペインで [移動] をクリックし、必要なアイテムの数を入力します。

- 選択したレビューアに割り当てたすべてのアイテムを削除してケースレビューセットに戻すには、[割り当てられているアイテムの削除] をクリックし、[アイテムの削除] をクリックします。

3 [適用] をクリックします。

Discovery Accelerator ケースの分析の実装

分析機能を使うと、ケースで見つかるアイテムに関する情報をできるだけ多く収集することができます。Discovery Accelerator によってこの情報はカスタマーデータベースに格納されます。カスタマーデータベースでは、SQL Server のフルテキストインデックス機能を活用できます。格納されてインデックス付けされた情報を使って、効率的に情報を分析して何に関連しているかを正確に判別することができます。

Discovery Accelerator による分析データの収集とインデックス付けが行われると、Discovery Accelerator で多数の追加機能を利用できるようになります。次の操作を実行できます。

- Discovery Accelerator が、ケースに追加するアイテムに自動的にマーク付けし、分類する際のルールを設定します。
p.53 の「分析ルールについて」を参照してください。
- ケースの特定のアイテム内で検索を実行します。
p.126 の「レビューセット内での検索」を参照してください。
- すべての対話スレッドを 1 つの画面で確認、レビューします。
p.131 の「同じ対話のすべてのアイテムの検索」を参照してください。

Discovery Accelerator ケースの分析の有効化

ケースの作成時、分析はデフォルトでは有効ではありません。これは、分析に必須の SQL Server リソースのプロビジョニングと制御が必要な場合があり、これらはすぐには利用できないことがあるためです。分析に対してケースを有効にすると、内容、添付ファイル、アイテムのメタデータ(件名、受信者、その他の属性など)を含むケースアイテムは、カスタマーデータベースにフェッチされます。ケースを有効にする前にケースの分析ルールをすでに構築した場合は、アイテムの自動分類がコレクションの開始直後に開始されます。分析に対してケースを有効にするには、次の点に注意してください。

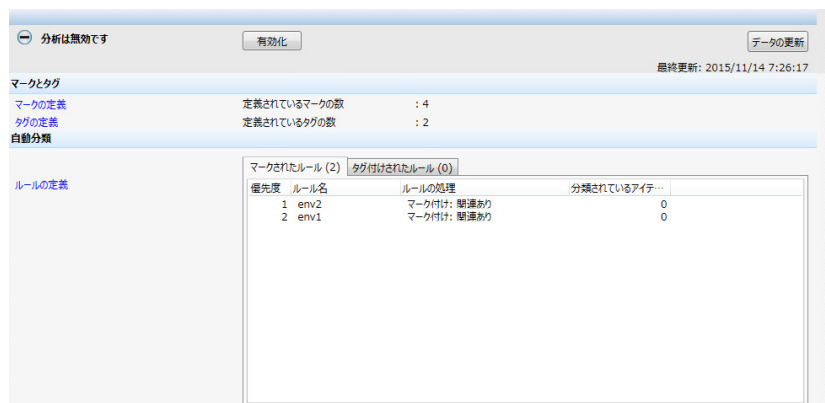
- 分析を有効にするには、分析の管理権限が必要です。
- 分析に対してケースを有効にすると、カスタマーデータベースのサイズを大幅に増加できます。この情報について、詳しくは Veritas サポート Web サイトの次のページで入手できる『ベストプラクティスガイド』を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100024378>

- Vault サービスアカウントには、msdb システムデータベースの各種の権限が必要です。これらの権限の割り当て方法については、『インストールガイド』を参照してください。
- ケースの分析を有効にする Discovery Accelerator のバージョンでは、ケースのアイテムを識別して重複を排除するために、Discovery Accelerator が FIPS 準拠アルゴリズムを使うかどうか判断されます。(FIPS、つまり連邦情報処理標準は、データのエンコードおよび暗号化のための米国政府の標準です。)つまり、次のようになります。
- Discovery Accelerator 10.0.1 以降で分析を有効にしたケースは、Discovery Accelerator のFIPS に準拠していない古いバージョンで作成した場合でも FIPS 準拠です。
- 分析を有効にしていた 10.0.1 以前のケースは、Discovery Accelerator 10.0.1 以降でケースの分析を無効にし、再びケースの分析を有効にすることによって FIPS 準拠にできます。
- SQL AlwaysOn 可用性グループに属するカスタマーデータベースにこのケースが含まれる場合に可用性グループからデータベースを削除すると、ケースの分析を再び有効にするとときに問題が発生することがあります。これらの問題を解決する方法については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。
<https://www.veritas.com/docs/100022235>

Discovery Accelerator ケースの分析を有効にする方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
 - 2 左ペインで、分析に対して有効にするケースを選択します。
 - 3 [分析]タブをクリックします。
- 分析ペインが表示されます。



- 4 分析に対してケースを有効にする前にケース固有のレビューのマークまたはタグを定義する場合、適切なハイパーリンクをクリックして詳細を入力します。

p.43 の「[レビューマークについて](#)」を参照してください。

- 5 ケースのアイテムを自動分類するルールを定義する場合、[ルールの定義]ハイパーリンクをクリックして必要なマーク付けルールとタグ付けルールを設定します。

p.53 の「[分析ルールについて](#)」を参照してください。

- 6 [有効化]をクリックします。

最初に、データのコレクションが準備されている間、ケースの状態は[分析を有効にしています]に変わります。続いて、状態は[分析は有効です]に変わり、データのコレクションとインデックス付け、そしてアイテムの自動分類が始まります。

分析データコレクションの進捗状況の監視

分析用のケースまたはフォルダを有効にした後、Discovery Accelerator がアイテムを収集して分析する間の進捗状況を監視できます。Discovery Accelerator クライアントの [分析] タブを表示してこれを行うことができます。表 4-1 に、このタブの各領域に表示される情報を示します。

表 4-1 [分析]タブの領域

領域	説明
データコレクション	<p>[データコレクション]領域は分析データコレクションの進捗状況を示します。次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [開始]と[完了]。Discovery Accelerator がデータコレクションを開始した日時を示します。 ■ [正常に収集されたアイテム]。Discovery Accelerator が Enterprise Vault アーカイブから収集したアイテムの数と、収集されるアイテムの合計数を示します。 ■ [永続エラーのアイテム]。Discovery Accelerator が永続的に収集に失敗したアイテムの数を示します。 ■ [一時的なエラー]。Discovery Accelerator が一時的に収集に失敗したアイテムの数を示します。たとえば、これらは収集時に利用できなかったテーブルにあるアイテムなどです。 ■ [インデックス付け可能なコンテンツのないアイテム]。Discovery Accelerator による収集が可能なコンテンツがないアイテムの数を示します。これらのアイテムは暗号化されたアイテムであるか、Enterprise Vault が HTML に変換できない形式である可能性があります。 ■ [Enterprise Vault から削除されたアイテム]。Enterprise Vault アーカイブにもはや存在しないため、Discovery Accelerator が収集できないアイテムの数を示します。これらの種類のアイテムは、永続的なエラーのアイテムとマーク付けされます。 <p>Discovery Accelerator が特定のアイテムの収集に失敗した場合、次のステップに従ってアイテムの収集を再び試行できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [エラーの詳細]をクリックします。 2 [エラーの管理]ウィンドウで、[失敗したアイテムの再試行]をクリックします。 <p>収集されたアイテムの一部のフルテキストインデックス作成が失敗すると、Discovery Accelerator の詳細検索、自動分類などの機能が正しく動作しなくなる場合があります。この問題を解決するためには、この記事の手順に従ってフルテキストインデックスを再構築しなければならない場合があります。</p> <p>https://www.veritas.com/docs/100024614</p>
対話分析	<p>[対話分析]領域は同じ対話スレッドのアイテムを識別するときの Discovery Accelerator の進捗状況を示します。次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [分析済みアイテム]。Discovery Accelerator が対話のために分析したアイテムの数を示します。 ■ [検出された対話スレッド]。Discovery Accelerator が識別したスレッドの数を示します。

領域	説明
マークとタグ	ケースまたはフォルダに定義したマークとタグの数を示します。追加のマークやタグを設定するには[マークの定義]や[タグの定義]のハイパーリンクをクリックします。
自動分類	<p>[自動分類]領域はアイテムの自動分類中の Discovery Accelerator の進捗状況の概略を示します。分析に対してケースまたはフォルダを有効にする前に分析ルールを定義した場合、この処理はデータのコレクションと並行して行われます。Discovery Accelerator がアイテムを分類すると、適用されるマークとタグはただちに[レビュー]タブで利用できるようになります。</p> <p>作成したルールで一致するアイテムがあまりにも多いか、またはあまりにも少ない場合は、よりよい結果になるようにルールを変更できます。</p> <p>Discovery Accelerator はマーク付けルールとタグ付けルールを別々に一覧表示します。いずれの場合も、Discovery Accelerator は各ルールの名前と処理を、ルールが分類したアイテムの数とともに一覧表示します。マーク付けルールの場合、Discovery Accelerator は各ルールの優先度レベルも一覧表示します。</p> <p>メモ: 分析に対してケースまたはフォルダを有効にした後、自動分類が始まる前に 1 時間の遅延が発生します。このため、Discovery Accelerator がデータの収集を開始した後でも、[自動分類]領域にはルールによってマーク付け、タグ付けされたアイテムがないと表示される場合があります。</p>

Discovery Accelerator ケースの分析の一時停止と再開

複数のケースを分析に対していつでも有効にできます。複数のケースでは大量のデータコレクションと分析が必要となるため、すべての有効なケースを処理するには非常に長い時間がかかることがあります。優先度が高いケースのデータのコレクションを高速化する場合はケースごとに分析を一時停止できます。後で、これらのケースの分析を再開できます。

分析の一時停止と再開を行うには、分析の管理権限が必要です。

Discovery Accelerator ケースの分析の一時停止と再開を行うには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]ペインで、一時停止または再開するケースを選択します。
- 3 [分析]タブをクリックします。
- 4 目的に応じて、タブの先頭で[一時停止]または[再開]をクリックします。

狭帯域幅環境での分析データコレクションの高速化

Discovery Accelerator と Enterprise Vault 間と、Discovery Accelerator と SQL Server 間が狭帯域幅接続 (1 GB 以下) である場合、メモリ使用量が多く、サービスが再起動さ

れるために分析データのコレクションは低速になることがあります。これらの接続が遅いとわかっている場合またはこれらの現象が発生している場合、次の手順を実行してデータコレクションを高速化できます。

狭帯域幅環境での分析データコレクションを高速化する方法

- 1 分析データのコレクションを一時停止します。
- 2 **Discovery Accelerator** プログラムフォルダの
AnalyticsIngesterTask.exe.config ファイルを検索します。
- 3 **Windows** のメモ帳などのテキストエディタでファイルを開きます。
- 4 次の設定変更を行います。

```
<add key="numECMThreads" value="1" />
<add key="maxThreadsPerVaultServer" value="1" />
<add key="numDBThreads" value="2" />
```
- 5 ファイルを保存して閉じます。
- 6 分析データのコレクションを再開します。

Discovery Accelerator ケースの分析の無効化

ケースの分析を無効にした後、マークとタグは現在のアイテムに残ります。ただし、新しいアイテムは自動的に分類されません。

分析を無効にするには、分析の管理権限が必要です。

Discovery Accelerator ケースの分析を無効にするには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]のペインで、分析を無効にするケースを選択します。
- 3 [分析]タブをクリックします。
- 4 [無効化]をクリックします。

Discovery Accelerator ケースの削除

ケースが不要になった場合、そのケースと関連付けされたオブジェクトをすべて削除することがあります。これらのオブジェクトにはケース指定検索、リサーチフォルダ、対象と対象グループが含まれています。ケースの削除には、次のような影響もあります。

- ケースの分析を有効にすると、**Discovery Accelerator** は自動的にそれを無効にしてすべての分析情報を削除します。
- ケースのアイテムをリーガルホールドにすると、**Discovery Accelerator** はその保留を自動的に解除します。

ただし、これらの機能を実装したケースを削除する前に分析を無効にし、その処理が完了するまで待機してからリーガルホールドを解除し、その処理が完了するまで待機するのがベストプラクティスです。

ケースを削除するには、適切な権限が必要です。アプリケーション全体のケース削除権限を持つユーザーはシステムのケースを削除できます。同等のケース固有の権限を持つユーザーはこの権限を持つケースを削除できます。

Discovery Accelerator ケースを削除する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのケース]をクリックします。
- 3 削除する 1 つ以上のケースをクリックします。

Shift キーを押しながら範囲の最初と最後のケースをクリックすると、隣接した複数のケースを選択できます。隣接していない複数のケースを選択するには、Ctrl キーを押しながら目的のケースをクリックします。すべてのケースを選択するには、Ctrl+A を押します。

- 4 [削除]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[ケースの削除]をクリックします。

レビューマークとタグの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [レビューマークについて](#)
- [レビューマークの作成](#)
- [保持されるマークの動作](#)
- [レビューマークの編集](#)
- [個々のケースと関連付けされるレビューマークのカスタマイズ](#)
- [タグの作成](#)
- [タググループの作成](#)

レビューマークについて

アイテムをチェックする場合に、レビューアは各アイテムに対して、ケースに関連しているかどうかを示すマークを付けます。標準の **Discovery Accelerator** インストール環境で事前定義済みマークは[関連あり]、[関連なし]、[クエリー]ですが、これらのマークを修正したり、新しいマークを追加したりすることができます。また、あるケースでマーク付けされたアイテムが別のケースで出現したときに、そのマークを保持するかどうかを選択することもできます。

各マークには[問題あり]や[レビュー済み]のようなマークと関連付けられた状態があります。エクスポートまたは提出物生成実行を実行するときに、アイテムのマークまたは状態、またはアイテムにマーク付けしたレビューアの名前によってアイテムをフィルタ処理できます。たとえば、レビューアが[関連あり]としてマーク付けしたアイテムのみをエクスポートするように選択できます。

[表 5-1](#) に、**Discovery Accelerator** でデフォルトのレビューマークに関連付けされている状態を示します。

表 5-1 デフォルトのレビューマークと関連付けされている状態

マーク	関連付けされている状態
関連あり	レビュー済み
関連なし	レビュー済み
クエリー	問題あり

3 つの利用可能な状態 ([保留]、[問題あり]、[レビュー済み]など) は **Discovery Accelerator** に組み込まれ、修正できません。また、新しい状態を作成することもできません。

レビューマークの作成

事前定義済みレビューマークがニーズを正確に満たさない場合は、新しいマークを作成できます。事前定義済みのマークとユーザーが作成するカスタムマークはレビューマークのグローバルなセットを構成します。このグローバルなセットはすべてのケースで使用できますが、ケースバイケースで各マークを使うかどうか選択できます。

注意: 新しいマークは作成後に削除できないため、作成する際には注意してください。

マークを作成するには、マーク管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

レビューマークを作成する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの [アプリケーション] タブをクリックし、次に [マーク] タブをクリックします。
- 2 [新規作成] をクリックし、[マーク] をクリックします。または、既存のマークを選択し、古いマークのプロパティに基づく新しいマークを作成するために [コピー] をクリックします。
- [マークの詳細] ペインが表示されます。

- 3 新しいマークの名前と、必要に応じて説明を入力します。
マーク名はレビューペインの右下にボタンラベルとして表示されるため、短い名前にすることを推奨します。マークボタンの上にマウスポインタを置くと、**Discovery Accelerator** はツールのヒントとして説明を表示します。
- 4 [状態]フィールドで、マークに関連付ける状態を選択します。
すべてのマークが状態([問題あり]、[レビュー済み]など)に関連付けられる必要があります。状態は、アイテムをグループ化して提出物生成セットに含めるものを判断するために使われます。
- 5 [アクセスキー]フィールドで、マークに関連付けるショートカットキーの組み合わせを入力します。
レビューアは、アクセスキーの組み合わせを押すとき、レビューペインのアイテムに特定のマークを割り当てることができます。
- 6 [ロール]フィールドで、レビューマークに関連付けするデフォルトユーザーロールを選択します。これらのロールを占有するユーザーはレビューするアイテムにこのマークを適用することができます。

後で、個々のケースと関連付けられるマークをカスタマイズするときに、関連付けられたロールのリストを絞り込みできます。

- 7 複数のケースでマークが機能するように設定する場合は、[他のケースで使えるようにアイテムでこのマークを保持]を選択します。このオプションを選択すると、1 つのケースでアイテムに適用するマークは他のケースでも表示されます。通常、迷惑メールを示すマークのような一般的で汎用的なマークにこのオプションを選択します。

アイテムのマークは複数の **Discovery Accelerator** カスタマーデータベースにわたって保持されないことに注意してください。

- 8 [適用]をクリックします。

保持されるマークの動作

Discovery Accelerator は、いずれかのケースに受け入れられたすべてのアイテムのマスターコレクションを保持します。レビューアがアイテムにマーク付けすると、そのマークの定義に応じて、マークはそのケースのみに適用されるか、またはそのケースに適用された後に他のケースで使えるようにマスターコレクションにコピーされます。

たとえば、「**Spam**」というマークをマスターコレクションのアイテムに付けたままにすると効率的です。これらのアイテムが別の検索で検出された場合は、すでに「**Spam**」とマーク付けされているため、再度レビューする必要がない可能性があります。

新しい検索を実行してその結果を受け入れるときは、受け入れる各アイテムに対して、**Discovery Accelerator** では次の操作が行われます。

- そのアイテムがこれまで受け入れられたことがない場合、**Discovery Accelerator** はアイテムをマスターコレクションに追加し、ケースからのリンクをマスターコレクション内のアイテムに作成します。
- そのアイテムがこれまで受け入れられたことがある場合、**Discovery Accelerator** はケースからのリンクをマスターコレクション内のアイテムに作成します。また、既存のマークをチェックします。

検索結果を受け入れるときに既存のマークを保持することを選択する場合、**Discovery Accelerator** は既存の保持されるマークをケースに追加します。既存のマークを保持することを選択しない場合、**Discovery Accelerator** は既存のマークをケース内のアイテムから削除します。ただし、マスターコレクション内のアイテムから既存のマークは削除しません。

レビューアが[他のケースで使えるようにアイテムでこのマークを保持]プロパティが設定されたマークをアイテムに追加すると、将来のケースで使えるように、マスターコレクションのアイテムにマークが付いたままになります。マークにこのプロパティが設定されていない場合、マークはケース内部で適用され、他のケースでは利用できません。

レビューマークの編集

既存のマークの名前を変更したり、説明、アクセスキー、関連付けされたロールと状態を変更したりすることができます。

マークを編集するには、マーク管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

レビューマークを編集する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[マーク]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するマークの名前をクリックします。
- 3 右ペインに新しい詳細を入力します。
- 4 [適用]をクリックします。

個々のケースと関連付けされるレビューマークのカスタマイズ

デフォルトで、レビューマークのグローバルなセットのすべてのマークはあらゆるケースと関連付けされます。ただし、各ケースで使用するために利用可能なマークを選択できます。また、各マークと関連付けしたユーザーロールを変更できます。

ケースに関連付けされるレビューマークをカスタマイズするには、マーク管理/タグ管理権限が必要です。

個々のケースと関連付けされるレビューマークをカスタマイズする方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、レビューマークをカスタマイズするケースを選択します。

Discovery Accelerator によって大量のケースが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。ケースを名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けされるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。
- 3 [マーク]タブをクリックします。
- 4 次の 1 つ以上の操作をします。
 - ケースと新しいレビューマークを関連付けするには、[追加]をクリックし、次に右側にある[アプリケーションマーク]フィールドの目的のマークを選択します。
 - レビューマークを関連付けしたユーザーロールを変更するには、中央ペインのマーク名をクリックします。それから[ロール]フィールドの詳細を修正します。

- ケースからレビューマークを分離するには、中央ペインのマーク名をクリックし、[削除]をクリックします。

5 [適用]をクリックします。

タグの作成

また、レビューアがレビューセットのアイテムに割り当てることができるタグと呼ばれるマークの補助セットを設定できます。以前のバージョンの **Discovery Accelerator** では、タグはその他のマークと呼ばれていました。

タグはレビューアがアイテムに複数のタグを割り当てることができるマークとは異なり、1 つのマークのみを割り当てることができます。さらに、アイテムにマークをまた割り当ててレビューアはそれに関連付けされた状態も割り当てます。これは関連付けされた状態がないタグの場合には適用されません。

すべてのケースで利用可能なタグを作成するには、アプリケーションのマーク管理権限が必要です。ただし、1 つのケースのみで利用可能なタグを作成するには、そのケースのマーク管理/タグ管理権限が必要です。

タグを作成する方法

1 次のいずれかの操作を行います。

- すべてのケースで利用可能なタグを作成するには、**Discovery Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[タグ]タブをクリックします。
- 1 つのケースでのみ利用可能なタグを作成するには、[ケース]タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。その後で[タグ]タブをクリックします。

2 [新規タグ]をクリックします。または、既存のタグを選択し、古いタグのプロパティに基づく新しいタグを作成するために[コピー]をクリックします。

[タグの詳細]ペインが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled 'タグの詳細' (Tag Details). It has four main input areas: '名前' (Name) with a single-line text field, '説明' (Description) with a multi-line text area, 'アクセスキー' (Access Key) with a single-line text field, and 'ロール' (Role) with a list of roles. Under 'ロール', there are two checked items: 'full a' and '管理'. At the bottom right of the dialog are two buttons: '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel).

- 3 新しいタグの名前と説明を、必要に応じて入力します。

タグ名はレビューペインの下部にポップアップウィンドウのオプションとして表示されます。したがって、名前を短くすることを推奨します。タグラベルの上にマウスポインタを置くと、**Discovery Accelerator** はツールのヒントとして説明を表示します。
- 4 [アクセスキー]フィールドで、タグに関連付けるショートカットキーの組み合わせを入力します。

レビューアは、アクセスキーの組み合わせを押すとき、レビューペインのアイテムに特定のタグを割り当てることができます。
- 5 [ロール]フィールドで、タグに関連付けるデフォルトユーザーロールを選択します。これらのロールを占有するユーザーはレビューするアイテムにこのタグを適用することができます。
- 6 [適用]をクリックします。

タググループの作成

関連のタグをグループ化し、レビューアがアイテムにマーク付けするときに選択できるリストにそれらを表示することができます。この機能はオプションですが、多数の利点があります。

- 作成可能なタグの数は無制限です。理論上、レビューアは 100 以上のタグから選択できます。関連するタグをグループ化すると構造が作成され、レビューアは表示と選択をより行いやすくなります。
- タググループはタグの用途を示します。たとえば、主要なタグを「x に関する重要なタグ」という名前のグループにグループ化すると、タグの機能についてのヒントとなります。
- タググループを使って「このアイテムの適用先カスタマーは？」などの質問をレビューアに示し、適切にラベル付けされたタグから選択することで回答させることができます。単一選択グループと複数選択グループの 2 つの種類のタググループが利用可能です。

単一選択タググループの作成

レビューアは単一選択グループからは 1 つのタグのみを選択できます。たとえば、単一選択グループを使って「このアイテムは外部電子メールか内部電子メールか？」と質問するとします。アイテムはどちらか一方であるため、「内部」と「外部」とラベル付けされたタグを提供することによって、レビューアに 2 つのオプションから選択させることができます。

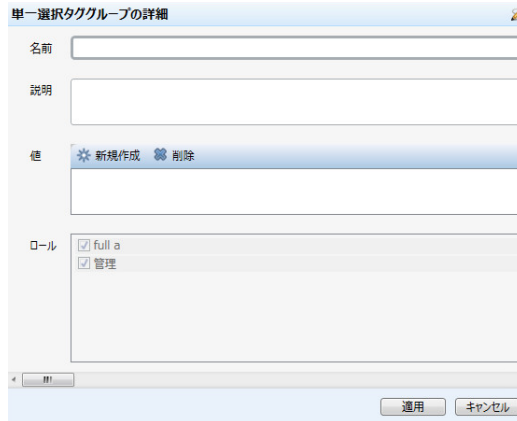
単一選択グループはグループを作成するときに定義する新しいタグを含んでいます。複数選択タググループとは異なり、ケースの既存のタグから単一選択タググループを作成できません。

単一選択タググループを作成するには、ケースのマーク管理/タグ管理権限が必要です。

単一選択タググループを作成するには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで必要なケースをクリックします。
- 3 [タグ]タブをクリックします。

- 4 [新規単一選択タググループ]をクリックします。
[単一選択タググループの詳細]ペインが表示されます。



- 5 新しいタググループの名前と説明を、必要に応じて入力します。
- 6 [値]フィールドの[新規作成]をクリックし、次にグループに含める最初のタグの名前を入力します。
- 7 リストが完成するまでさらにタグを追加します。
- 8 [ロール]フィールドで、タググループを関連付けするデフォルトユーザーロールを選択します。これらのロールを占有するユーザーはレビューアイテムにタグを適用することができます。
- 9 [適用]をクリックします。

複数選択タググループの作成

レビューは複数選択グループの一部のタグまたはすべてのタグを選択できます。たとえば、複数選択グループを使って「このアイテムは自動車のどの部分に関連するか?」と質問するとします。この種類の質問には複数の回答があることがあります。この場合、「ブレーキ」、「タイヤ」、「フロントガラス」などのラベルを付けたタグを作成します。

ケースの既存のタグから複数選択グループを作成します。

複数選択タググループを作成するには、ケースのマーク管理/タグ管理権限が必要です。

複数選択タググループを作成するには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで必要なケースをクリックします。
- 3 [タグ]タブをクリックします。

- 4 グループに含めたいすべてのタグが中央ペインのリストにあることを確認します。
新しいタグを作成するには、[新規タグ]をクリックし、次に新しいタグの詳細を入力します。以前にアプリケーションレベルのタグを作成し、ケースにそれを追加したい場合は、[追加]をクリックし、そして次に必要なタグを選択します。
- 5 [新規タググループ]をクリックします。
[タググループの詳細]ペインが表示されます。

- 6 必要に応じて、新しいタググループの名前と説明を入力します。
- 7 [タグ]フィールドで、グループに含めるタグを選択します。
- 8 [適用]をクリックします。

アイテムに自動的にマーク付けまたはタグ付けする ルールの使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [分析ルールについて](#)
- [分析ルールの作成](#)
- [手動分類の上書き](#)
- [分析ルールの編集](#)
- [マーク付けルールの優先度レベルの変更](#)
- [タグ付けルールについて](#)
- [手動での分析ルール定義言語 \(RDL\) のクエリーの編集](#)
- [分析ルールの削除](#)

分析ルールについて

各ケース内に分析ルールを作成して、検索基準に一致するアイテムを識別できます。また、一致したアイテムに自動的にマークとタグを適用するようにこれらのルールを設定することもできます。これによって、レビューペインで手動でレビューする前に、基準に一致するアイテムを自動的に分類できます。

すべてのインデックス付きのメールの属性と各メッセージの内容は、作成した分析ルールで検索可能です。たとえば、送信者の名前やメッセージの件名に表示される語句などの

属性に基づいて、すべてのメッセージを自動的に分類できます。各ケースには多くのルールを、各ルールには複数の条件を設定できます。

同様に、ルールを削除するか、または無効にすると、新しい処理が開始され、以前にルールによって分類したアイテムからマークとタグが削除されます。

次の点に注意してください。

- 分析ルールを構築して管理するには、自動分類管理権限が必要です。
- 分析ルールを使用してアイテムに自動的にマーク付けまたはタグ付けする場合は、SQL Server エージェントサービスが実行されていることを確認する必要があります。

分析ルールの作成

使用する検索基準がわかっている場合、分析に対してケースを有効にする前に、ケースのルールを定義できます。その場合、分析を有効にするとデータコレクションとインデックス付けが開始され、一致したアイテムのマーク付けとタグ付けに並行してルール処理が適用されます。また、分析に対してケースを有効にした後も、ルールを作成、編集できます。このインスタンスでは、一致したアイテムのマーク付けとタグ付けが新しいルールによってただちに開始されます。

分析ルールを作成するには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]ペインで、ルールを作成するケースを選択します。
- 3 [ルールビルダー]タブをクリックします。
- 4 タブの先頭で[新規作成]をクリックします。または、既存のルールに基づくルールを作成するために、[ルールのマーク付け]領域または[ルールのタグ付け]領域のルールをクリックして[コピー]をクリックします。

[ルールの詳細]ペインが表示されます。

ルール名:

☒ 有効なルール

ルールの説明:

ルール条件

-選択属性-

クエリーの編集(Q)

ルール条件の設定

カस्टディアンを検索基準:

電子メールアドレス

グループの配布リストを検索基準:

電子メールアドレス

☐ 配布リストを展開してメンバーを含める

ルールの処理

☐ アイテムのマーク付け

ルールの優先度

☐ アイテムのタグ付け

グループなし

適用(A)

キャンセル(N)

- 5 ルールの名前と説明を入力します。
- 6 当分の間はルールを無効にする場合を除いて、[有効なルール]を選択します。
- 7 [ルール条件]領域で、ルールに一致するためにアイテムが満たす必要のある 1 つ以上の条件を定義します。すべてのルールに 1 つ以上の条件を設定する必要があります。

条件を定義するには、次の手順を実行します。

- [選択属性]ドロップダウンリストで、検索するアイテムの属性を選択します。たとえば、アイテムの件名を検索する場合は[件名]を選択します。
p.57 の「[検索属性について](#)」を参照してください。
- 次のドロップダウンリストで、選択した属性に適用する演算子を選択します。たとえば、属性を[件名]に設定した場合、**Contains** 演算子を選択して件名に特定の語句が含まれるアイテムを検索できます。
p.67 の「[演算子について](#)」を参照してください。
- 属性に目的の値を設定します。たとえば、属性が[件名]で演算子が **Contains** の場合は、**Secret** と入力して件名にこの単語を含むアイテムを検索できます。次の点に注意してください。
 - 検索文字列には、アンダースコア文字以外の区切り文字を含めることはできません。

- 検索文字列の末尾にワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を追加できます。
- **SQL Server** では、「the」や「and」などのよく出現する語句はインデックス付けされないため、検索文字列にこれらの語句があっても、**Discovery Accelerator** は無視します。**SQL Server** のストップワードファイルを編集すると、この動作を上書きできます。
p.69 の「**SQL Server のストップワードについて**」を参照してください。

- 属性を[件名]、[内容]、[件名または内容]に設定した場合、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択します。
ステミングを使うと、指定した単語から派生した単語に一致させることができます。たとえば、単語「run」は「running」と「ran」に一致します。ステミングを使う条件ではワイルドカード文字を使うことはできません。
- 必要に応じて、[+]ボタンをクリックして条件を保存して別の条件を追加します。[および]または[または]ボタンを使って2つの条件の関係を定義します。[および]はアイテムが両方の条件に一致する必要があることを示し、[または]はアイテムが1つの条件に一致してももう一方の条件に一致するとは限らないことを示します。
- 条件を削除する場合は、行の右にある[-]ボタンをクリックします。

条件を追加すると、条件は[ルールクエリー]領域に表示されます。クエリー言語に詳しい場合は、構文を手動で編集してより複雑なクエリーを構築できます。

p.72 の「**手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集**」を参照してください。

- 8 カストディアンマネージャを使って1つ以上のカストディアンまたはカストディアングループを定義した場合、それらの検索方法を指定するには[ルール条件の設定]領域のフィールドを使います。各ケースで、電子メールアドレス、表示名、またはその両方を検索できます。カストディアングループの場合、リストの名前や電子メールアドレスだけでなく、検索にメンバーを含めるようにグループの配布リストを展開できます。

メモ: Near 演算子を属性[件名]、[内容]、[件名または内容]、[作成者]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[作成者または受信者]に使うと、**Discovery Accelerator** は配布リストを展開しません。

[ルール条件の設定]領域の下で入力する条件は、ルールの構築時に利用可能なカストディアン情報を使います。この情報は、ルールを再び編集しないと更新されません。たとえば、ルールを作成し、[配布リストを展開してメンバーを含める]オプションを選択する場合、その時点でのリストのメンバーがルールとともに保存されます。リストに所属するメンバーがその後変更されても、ルールを編集して再び保存するまでその変更は適用されません。

9 [ルールの処理]領域で、ルール条件に一致するアイテムにマーク付けまたはタグ付けする方法を選択します。オプションは次のとおりです。

- アイテムのマーク付け

選択したマークをルールに一致するアイテムに適用します。このルールが、マークに適用される複数のルールの1つである場合、[ルールの優先度]フィールドを使ってルールに優先度レベルを設定できます。数字が低いほど、優先度レベルは高くなります。

p.71の「マーク付けルールの優先度レベルの変更」を参照してください。
- アイテムのタグ付け

選択したタグをルールに一致するアイテムに適用します。必要に応じて、関連付けされたタグを参照するためにタググループを展開します。

10 [適用]をクリックします。

検索属性について

表 6-1 は利用可能なすべての属性をリストします。各属性に対して、表は属性と一緒に使うことができる演算子を示し、その目的を記述しています。

表 6-1 検索属性

属性	種類	有効な演算子	説明
AttachmentsCount	数字	= > >= < <=	AttachmentsCount は電子メールの添付ファイルの数に基づく条件を追加するために使います。

属性	種類	有効な演算子	説明
Author	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>Authorは電子メールの送信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
AuthorOrRecipients	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>AuthorOrRecipients は次の属性のいずれかの送信者そして受信者に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ From ■ To ■ CC ■ BCC <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
BCC	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>BCC は電子メールの BCC 受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
CC	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>CC は電子メールの CC 受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
内容	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Content は電子メールの本文の文字列またはファイルのコンテンツに基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Custom	文字列	= NOT = CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Custom はアーカイブ時に作成されたあらゆるカスタム属性に基づく条件を追加するために使います。演算子を選択して検索文字列を入力する前にカスタム属性の名前を入力してください。</p> <p>次に例を示します。</p> <p><code>Custom.Veritas.MyAttribute CONTAINS "Veritas"</code></p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
Direction	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	<p>Direction は電子メールの方向に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Internal ■ External Inbound ■ External Outbound ■ Not Specified
FileExtension	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	<p>FileExtension は電子メールの拡張子の種類とファイルの種類に基づく条件を追加するために使います。複数のファイルの種類をリストとして入力します。次に例を示します。</p> <p><code>DOC PDF MSG</code></p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。 ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Importance	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	<p>Importance は電子メールの重要度の設定に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Low ■ Normal ■ High
MailDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	<p>MailDate は電子メールが送信された日付と、電子メールの添付ファイルの修正日に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。</p>
MessageClass	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	<p>MessageClass は電子メールの MAPI メッセージクラスの設定に基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。</p> <p>IPM.Note.</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p>
MessageType	リスト	= ANYOF NOT = NOT ANYOF	<p>MessageType は電子メールの種類に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ Domino Mail ■ Exchange Mail ■ Fax ■ File ■ Instant Messaging ■ SharePoint ■ SMTP Mail ■ ソーシャル

属性	種類	有効な演算子	説明
ModifiedDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	<p>ModifiedDate は電子メールかファイルが前回修正された日付に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。</p>
OriginalLocation	文字列	ANYOF CONTAINS NOT ANYOF NOT CONTAINS	<p>OriginalLocation は電子メールまたはファイルの元の場所に基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Inbox ■ Sent items ■ ¥¥server¥share¥Sales <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>ANYOF または NOT ANYOF 演算子を選択すると、複数の値をカンマで区切ることができます。</p>
Recipients	文字列	CONTAINS ANYOF NOT CONTAINS NOT ANYOF	<p>Recipients は次の属性のいずれかの受信者に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ To ■ CC ■ BCC <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p>
RetentionCategoryDisplayName	文字列	CONTAINS NOT CONTAINS	<p>RetentionCategoryDisplayName はアイテムがアーカイブされた保持カテゴリに基づく条件を追加するために使います。次に例を示します。</p> <p>General retention category</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
RetentionExpiryDate	日付	= > >= < <= BETWEEN NOT BETWEEN	<p>RetentionExpiryDate は電子メールかファイルが期限切れになる日付に基づく条件を追加するために使います。アイテムがアーカイブされた保持カテゴリによって有効期限が決まります。</p> <p>BETWEEN と NOT BETWEEN 演算子を使うとき、開始日と終了日を指定する必要があります。</p>
Sensitivity	リスト	= ANYOF NOT =	<p>Sensitivity は電子メールの機密性に基づく条件を追加するために使います。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Normal ■ Personal ■ Private ■ Confidential
Size	数字	= > >= < <=	<p>Size は電子メールまたはファイルのサイズに基づく条件を追加するために使います。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
Subject	文字列	CONTAINS ALLOF ANYOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>Subject は電子メールの件名とファイル名の文字列に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

属性	種類	有効な演算子	説明
SubjectOrContent	文字列	CONTAINS ALLOF ANYOF NEAR NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>SubjectOrContent は次の属性のいずれかの文字列に基づく条件を追加することを可能にする複合属性です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Subject ■ Body <p>この属性はファイルの名前またはコンテンツの文字列で一致させる場合にも使われます。</p> <p>フレーズは二重引用符 (") で囲みます。</p> <p>NEAR 以外のすべての利用可能な演算子に対して、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択できます。NEAR 演算子を使う場合、配布リストを展開するようにルールビルダーのどこかでこのオプションを選択しても、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>
To	文字列	CONTAINS ANYOF ALLOF NOT CONTAINS NOT ALLOF NOT ANYOF	<p>To は電子メールの受信者に基づく条件を追加するために使います。</p> <p>フルネームは二重引用符 (") で囲みます。名、姓、ミドルネームを個別に入力することもできます。</p> <p>対象 (T:)、対象グループ (TG:)、カストディアン (C:)、カストディアングループ (CG:) に対応する値は、別の行にする必要があります。T: や TG: などの接頭辞は大文字にする必要があります。</p> <p>カストディアンはカストディアンのプライマリ属性値によって識別し、カストディアングループ、対象と対象グループはそれらの表示名によって識別します。</p>

演算子について

演算子は次のカテゴリに分類されます。

- 1 つの検索値のみを受け入れる単一値演算子
- 複数の検索値を受け入れる複数値演算子

表 6-2 は利用可能なすべての単一値演算子をリストします。

表 6-2 単一値演算子

演算子	説明
=、NOT =	数字、日付、一覧に使います。次に例を示します。 AttachmentsCount = 2
<, <=, >, >=	数字と日付に使います。
CONTAINS、NOT CONTAINS	文字列に使います。検索値にはワイルドカードを使うことができます。 例 1: Subject CONTAINS 'james' この検索では、件名に「james」と完全一致する単語を含むすべてのアイテムが一致します。 例 2: Subject CONTAINS 'james*' この検索では、「A quick hello from James」と「A quick hello from Jamestown」のいずれも一致します。 検索文字列の先頭にワイルドカード文字を使うことはできません。

表 6-3 は利用可能なすべての複数値演算子をリストします。

表 6-3 複数値演算子

演算子	説明
ALLOF、NOT ALLOF	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定したすべての値を含む (または含まない) アイテムが一致します。次に例を示します。</p> <p>CC ALLOF 'bill@example.com ted@example.com'</p> <p>この検索では、[CC]フィールドに両方のアドレスを含むアイテムのみが一致します。</p> <p>ワイルドカードがサポートされています。</p>
ANYOF、NOT ANYOF	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定した任意の値を含む (または含まない) アイテムが一致します。次に例を示します。</p> <p>CC ANYOF 'bill@example.com ted@example.com'</p> <p>この検索では、[CC]フィールドにアドレスのいずれか、または両方のアドレスを含むアイテムが一致します。</p> <p>ワイルドカードがサポートされています。</p>
BETWEEN、NOT BETWEEN	<p>日付に使用します。次に例を示します。</p> <p>MailDate BETWEEN "01/05/2010","31/05/2010"</p> <p>古い日付から新しい日付の順にする並べ必要があります。</p>
NEAR	<p>文字列に使用します。</p> <p>検索では、指定した語句がそれぞれの語句から 50 語以内にある語句が一致します。次に例を示します。</p> <p>Content NEAR 'contract money'</p> <p>この検索では、本文に「contract」と「money」という単語がそれぞれの語句から 50 語以内に含まれるアイテムが一致します。</p> <p>p.69 の「Discovery Accelerator ルールでの NEAR 演算子条件の使用に関するガイドライン」を参照してください。</p>

複数値演算子を含む検索の構文は次のとおりです。

```
attribute operator 'value1  
"John Doe"  
value3  
T:Jane Smith'
```

各カストディアンや各対象値は、別の行にする必要があります。

Discovery Accelerator ルールでの NEAR 演算子条件の使用に関するガイドライン

ルールで NEAR 演算子条件を使う場合は、いくつかのガイドラインに従う必要があります。

- NEAR 演算子条件には入力として複数の値を指定する必要があります。
- NEAR 演算子を使う条件と他の 1 つ以上の条件を組み合わせる場合は、OR 演算子ではなく、AND 論理演算子のみを使って前と後ろの条件に NEAR 演算子条件を結合できます。たとえば、次のルールを考えてみます。

```
Subject contains 'Veritas'  
AND  
Content Near 'Veritas Investment'  
AND  
MailDate = '17/03/2010'  
OR  
Importance = 'Normal'
```

OR 演算子は、Subject と Content 条件の間、または Content と MailDate 条件の間には挿入できません。ただし、MailDate と Importance 条件の間に OR 条件を挿入することはできます。

- ルールに複数の NEAR 演算子条件を含める場合は、それらすべてに同じ検索属性 (Subject、Content、SubjectOrContent) を使う必要があります。たとえば、2 つの NEAR 演算子条件を含むルールでは、一方の条件の属性を Subject に設定し、もう一方を Content に設定することはできません。
- NEAR 演算子を使うルール条件にはカッコを挿入できません。
- ルールに複数の NEAR 演算子条件を含める場合に異なる言語で検索値を指定すると、Discovery Accelerator がそのルールで実行するすべての検索に使う言語は、最初の NEAR 演算子条件の言語によって決まります。

SQL Server のストップワードについて

フルテキストインデックスが過剰にならないように、「the」や「and」などのよく出現する語句を破棄する機構が SQL Server にはあります。破棄されたこれらのワードをストップワードと呼びます。インデックスの作成中、SQL 全文検索エンジンは全文インデックスからストップワードを省略するため、Discovery Accelerator を使ってこれらのワードを検索することはできません。たとえば、フレーズ「the lazy dog」を検索すると、フレーズ「one lazy dog」が一致したという結果が返されます。

SQL Server のストップワードファイルを編集すると、この動作を上書きできます。次の Microsoft サポート技術情報の記事では、実行方法を説明しています。

<https://msdn.microsoft.com/library/ms142551.aspx>

ストップワードは、SQL インスタンスのすべての全文カタログに共通であることに注意してください。

手動分類の上書き

デフォルトでは、アイテムがレビューペインですでに手動でマーク付けされるか、またはタグを付けられている場合、分析ルールはルールの条件に一致するアイテムを分類しません。ただし、この動作を上書きし、条件と一致するすべてのアイテムをルールエンジンで分類することができます。

メモ: 手動分類を上書きする機能は注意して使ってください。これを使うのは、レビューアが手動で適用した不適切なマークとタグを上書きする場合のみにしてください。また、このオプションが有効な場合、ケースのアイテムに手動でマーク付けまたはタグ付けする前に、自動分類が完了するまで待つ必要があります。

手動分類を上書きする方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]ペインで、手動分類を上書きするケースを選択します。
- 3 [ルールビルダー]タブをクリックします。
- 4 タブの先頭近くで[手動分類を上書き]をクリックします。

この機能は、現在のすべてのルールのベースになっている実行をルールエンジンが完了するまで有効になっています。ルールエンジンが処理を完了したら、手動分類を上書き機能は自動的に再びオフになります。

分析ルールの編集

既存のルールを編集して検索基準を変更するか、またはそれを一時的に無効にすることができます。

分析ルールを編集するには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]ペインで、ルールを編集するケースを選択します。
- 3 [ルールビルダー]タブをクリックします。

- 4 [ルールのマーク付け]領域または[ルールのタグ付け]領域で、編集するルールをクリックします。
- 5 必要な変更をルールに行います。たとえば、ルールを一時的に無効にする場合は[ルールの詳細]領域の[有効なルール]をクリアします。
- 6 [適用]をクリックします。

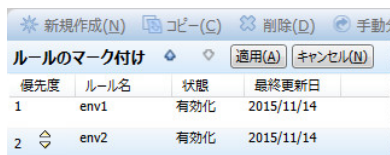
マーク付けルールの優先度レベルの変更

各マーク付けルールには優先度レベルがあり、マーク付けルールを作成するときに割り当てます。最も優先度が高いルールがアイテムにマークを付ける場合、優先度が低いルールは同じアイテムにマークを付けることはできません。優先度が低い値であるルールの条件がアイテムに一致しても、そのアイテムはこのルールの下での自動分類から除外されます。

また、アイテムにマークとタグの両方を適用するように設定したルールにも優先度レベルがあります。マークとタグの両方を適用するルールが自動的にアイテムを分類した後に、優先度が低いルールによってこれらのアイテムが分類されることはありません。

マーク付けルールの優先度レベルを変更する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左の[ケース]ペインで、ルールの優先度レベルを変更するケースを選択します。
- 3 [ルールビルダー]タブをクリックします。
- 4 [ルールのマーク付け]領域では、優先度を変更するルールを選択します。



優先度	ルール名	状態	最終更新日
1	env1	有効化	2015/11/14
2	env2	有効化	2015/11/14

- 5 ルールの横にある上矢印または下矢印を正しい優先度になるまでクリックします。
- 6 [適用]をクリックします。

タグ付けルールについて

タグ付けルールの動作はマーク付けルールとは異なります。タグ付けルールには優先度レベルがなく、1つのアイテムに一致するタグ付けルールはいくつ存在してもかまいません。ただし、タグ付けルールによって単一選択タググループのタグが適用されると、その他のルールによっては同じグループのタグを適用できません。

単一選択タググループのタグを適用したタグ付けルールを無効にすると、ルールエンジンによってそのタグが削除され、別のルールで設定された単一選択タググループのタグが適用されることがあります。最初のタグ付けルールを再度有効にすると、ルールを無効にする前に存在した結果とは異なる結果がルールエンジンによって生じる可能性があります。

たとえば、次のタググループがあるとします。

- SS1 という単一選択グループには TagA と TagB というタグが含まれています。
- SS2 という単一選択グループには TagY と TagZ というタグが含まれています。

次の 2 つのタグ付けルールが設定され、これらの単一選択グループのタグが適用されます。

- Rule1 は TagA と TagY を適用します。
- Rule2 は TagB と TagZ を適用します。

両方のルールの基準に一致する 100 のアイテムが存在します。この場合、ルールエンジンは Rule1 を処理し、TagA と TagY を 100 のアイテムに適用します。アイテムは Rule2 の基準にも一致しますが、ルールエンジンは TagB と TagZ を 100 のアイテムに適用しません。これらのアイテムは、すでに両方の単一選択タググループの別のタグでタグ付けされているためです。

Rule1 を無効にした場合、ルールエンジンはアイテムから最初に TagA と TagY を削除し、次に Rule2 によって TagB と TagZ を適用します。Rule1 を再度有効にした場合、TagB と TagZ は 100 のアイテムに保持されます。ルールエンジンは TagA と TagY を適用できなくなります。100 のアイテムは、すでに両方の単一選択タググループの別のタグでタグ付けされているためです。

手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集

[ルールビルダー] タブの [ルール条件] 領域で構築するルールは [ルールクエリー] 領域に分析ルール定義言語 (RDL) で表示されます。ルール定義言語の構文に詳しい場合は、直接クエリーを編集できます。これはビジュアルルールビルダーでは使うことができないルールを作成することを可能にします。

メモ: 手動でクエリーを編集し、保存したら、もはや同じルールを編集するためにビジュアルクエリービルダーを使うことができません。

カッコの使用による分析 RDL のブールの優先度の設定

ブールの優先度をルールに設定するためにカッコを使うことができます。次の条件と一致するアイテムにマーク付けする、またはタグ付けするとします。

- 送信者が **John Doe** です。または、受信者が **Jane Smith** です。
- 電子メールの件名は「**Veritas**」という用語を含まなければなりません。

これらのアイテムと一致させるために、あるユーザーがビジュアルルールビルダーを使い、次のルールを構築することがあります。

```
Author CONTAINS '"John Doe"'
OR
To CONTAINS '"Jane Smith"'
AND
Subject CONTAINS 'Secret'
```

ただし、他のユーザーは、別のルールを構築して、次の記述を作成することがあります。

```
To CONTAINS '"Jane Smith"'
AND
Subject CONTAINS 'Secret'
OR
Author CONTAINS '"John Doe"'
```

いずれの場合も、ルールエンジンがルールを処理するときどんな結果が生成されるかは明白ではありません。ルールで希望どおりの結果が生成されるようにするには、**RDL** にそれらを直接書き込み、そしてカッコを使って一緒に属する条件をグループ化します。カッコによって、関連する条件が意図どおりに確実に評価されるため、目的が明白になります。次に例を示します。

```
(
Author CONTAINS '"John Doe"'
OR
To CONTAINS '"Jane Smith"'
)
AND
Subject CONTAINS 'Secret'
```

分析 RDL でのステミングの使用

[件名]、[内容]、[件名または内容]の属性を検索する場合は、ステミングを使うことができます。次の構文を使います。

```
attribute {STEM} operator value
```

メモ: ステミングを使うルール条件ではワイルドカード文字を使うことはできません。

検索に追加するフレーズの値は、二重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
subject contains "the purchase order"
```

RDL 複合検索の値は、二重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

```
SubjectOrContent AllOf
'
    "the purchase order"
    Stock Investment
'
```

この場合、クエリーでは、件名または本文中の「the purchase order」、「stock」、「investment」を含むアイテムが一致します。

分析 RDL でのカストディアンと対象値の指定

表 6-4 に示す形式で、手動により編集した分析ルールでカストディアン値か対象値を指定する必要があります。

表 6-4 分析 RDL でカストディアン値と対象値を指定する方法

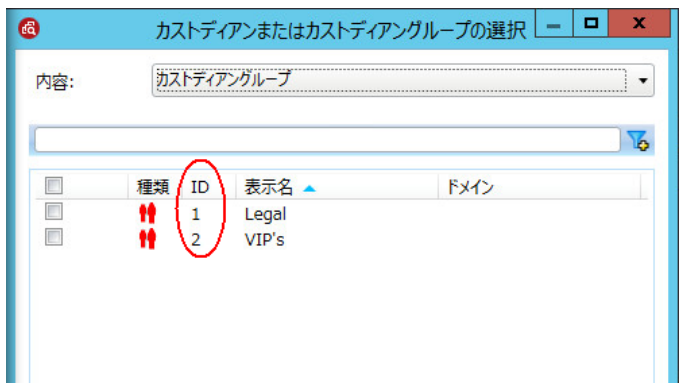
アイテム	入力する内容	例
カストディアン	C: ID: <i>primary_attribute_value</i>	C: 11: E12345
カストディアングループ	CG: ID: <i>display_name</i>	CG:3:Employees-ALL
対象	T:ID: <i>display_name</i>	T:4:Jane Smith
対象グループ	TG:ID: <i>display_name</i>	TG:23:VIP - Executives

カストディアンのプライマリ属性値がアポストロフィを含んでいるとき、アポストロフィの前にバックスラッシュ (¥) を入力する必要があります。たとえば、プライマリ属性値が「Sean O'Casey」の場合、このように分析ルールに追加します。

```
Author CONTAINS 'C:8:Sean O¥'Casey'
```

[ルールビルダー] タブの [ルールクエリー] 領域の [クエリーの編集] をクリックした後、[対象選択ツールの起動] ボタンが領域の右側に表示されます。正しい形式で目的のカストディアン値か対象値を選択し、入力するためにこのボタンをクリックします。また、[図 6-1](#) に示すように、この方法を使ってカストディアンまたは対象の目的の ID 値を入手できます。

図 6-1 対象選択ツールの使用によるカストディアンまたは対象の ID 値の入手



分析ルール of 削除

ルール of 処理を停止する場合はルール of 削除できます。

分析ルール of 削除するには

- 1 Discovery Accelerator クライアント of [ケース] タブをクリックします。
- 2 左 of [ケース] ペインで、ルール of 削除するケースを選択します。
- 3 [ルールビルダー] タブをクリックします。
- 4 [ルール of マーク付け] 領域または [ルール of タグ付け] 領域で、削除するルールをクリックします。
- 5 [削除] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、ルール of 削除することを確定します。

カストディアンマネージャの使用

この章では以下の項目について説明しています。

- [カストディアンマネージャについて](#)
- [カストディアンマネージャの使用のガイドライン](#)
- [カストディアンの設定](#)
- [カストディアングループの設定](#)
- [カスタムのカストディアン属性の設定](#)
- [プライマリカストディアン属性の設定](#)
- [カストディアンを同期するユーザーアカウントの指定](#)
- [Active Directory ドメインと Domino サーバー全体との同期](#)
- [カストディアンマネージャの設定オプションの設定](#)

カストディアンマネージャについて

カストディアンマネージャを使用して、Discovery Accelerator Searchの実行時に検索対象としたいカストディアンおよびカストディアングループの詳細を提出することができます。カストディアンとは個人の従業員、カストディアングループとは従業員の集合です。カストディアングループの例としては、NT のグループ、配布リスト、Active Directory コンテナ、Domino LDAP クエリー、および Domino グループなどがあります。

カストディアンマネージャにカストディアンまたはグループの詳細をいくつか提出すると、それらを Active Directory または Domino LDAP ディレクトリなどの外部ソースに同期させることができます。この処理によりカストディアンマネージャのデータを最新に保ち、カ

ストディアンまたはグループについての追加情報を、外部ソースから取り込むことができます。

またカストディアンマネージャを使用すると、カストディアンおよびカストディアングループに追加のカスタム属性を割り当てることができます。これらの属性は **Discovery Accelerator** で検索の対象となるカストディアンおよびグループのリストをフィルタ処理するために使用します。たとえば、「**Cost Center 1**」というカスタム属性を作成し、それをコストセンターに属するカストディアンに割り当て、**Discovery Accelerator** を使用して検索対象を定義するときに属性を選択できるようになります。

メモ: カストディアンマネージャに追加するデータがすでに存在し、XML 形式に変換可能であれば、それを XML ファイルから **Discovery Accelerator** にインポートすることができます。

p.210 の「[設定データのインポートについて](#)」を参照してください。

Windows デスクトップからカストディアンマネージャを開始する方法

- ◆ Web ブラウザを開いて、次の場所に移動します。

`http://server_name/EVBACustodianManager`

ここで、**server_name** は **Discovery Accelerator** サーバーソフトウェアをインストールしたサーバーの名前です。

Discovery Accelerator クライアントからカストディアンマネージャを開始する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[カストディアン]タブをクリックし、次に[カストディアンマネージャ]タブをクリックします。
- 2 [カストディアンマネージャ Web サイトを開くにはここをクリックします]というハイパーリンクをクリックします。

カストディアンマネージャの使用のガイドライン

カストディアンマネージャを実行して最良の結果を得るには、以下の点に注意してください。

- ページ間を移動するには、ショートカットキーやブラウザのツールバーボタンではなくハイパーリンクを使います。ほとんどのページでは、ページを閉じて前のページに戻るには、ページ下部の[OK]と[閉じる]ボタンをクリックします。**Backspace** キーやツールバーの[戻る]ボタンは使わないようにしてください。
- ホームページに戻るには、ページの先頭で[Veritas Enterprise Vault Custodian Manager]のバナーをクリックしてください。

- ほとんどの場合、現在のページを右クリックし、[更新]を選択するとページを再ロードできます。ブラウザのツールバーの[更新]ボタンをクリックすると、カストディアンマネージャのホームページを表示します。
- カストディアンマネージャが、ページに入力された情報を検証する際にエラーを見つけると、感嘆符を表示します。エラーの情報を表示するには、感嘆符にマウスポインタを移動してください。

カストディアンの設定

カストディアンの詳細を少数入力すると、対応する **Active Directory** または **Domino LDAP** ディレクトリアカウントとの同期によって残りをポピュレートできます。

カストディアンを設定する方法

- 1 カストディアンマネージャのホームページで、[カストディアン]をクリックします。
- 2 カストディアン管理ページで、[新規カストディアン]をクリックします。
- 3 カストディアン作成ページで、従業員の名前と対応する表示名を入力します。
- 4 [組織]セクションで、従業員の会社の詳細を入力します。各ボックスで次のように入力します。

[タイトル]	カストディアンの職名を指定します。
[部門]	会社内のカストディアンの部門を識別します。
[開始日]	会社のポリシーはこのボックスがどのように使われるか指定する必要があります。たとえば、開始日は従業員が会社にいつ入社したかを示す場合があります。
[終了日]	開始日と同様、会社のポリシーはこのボックスがどのように使われるか指定する必要があります。たとえば、終了日は従業員が会社をいつ退職したかを示す場合があります。この日付は正確なシステム情報を保存するために重要です。
[従業員 ID]	会社の経営部門または財務部門が各従業員に固有の会社IDを発行している場合は、ここに入力します。
[ユーザー名]と [Domino ユーザー 名]	これらの名前は情報を Active Directory または Domino LDAP ディレクトリと同期したい場合には必須です。 domain\login_name の形式で名前を入力するか、[参照]をクリックしてアカウントの一覧を表示し、この従業員のアカウントを選択します。名前は両方とも省略可能です。ただし、 Windows アカウントを Domino アカウントに関連付けたい場合は両方を設定する必要があります。

- 5 カストディアンに割り当てるカスタム属性値を設定済みの場合は、[カスタム属性]領域のその値を追加します。

[追加]をクリックして事前定義済みの属性値のリストから選択します。フリーテキストの値を受け入れる属性については、値をボックスに入力します。[削除]をクリックすると、属性から既存の値を削除することができます。
- 6 [自動同期プロパティ]セクションで、関連付けられた **Windows** または **Domino** ユーザーアカウントの値を使用してカストディアンの詳細を定期的に更新するかどうかを指定します。このセクションは[組織]セクションにユーザー名を入力するまでは利用できません。

デフォルトでは、**Discovery Accelerator** はカストディアンとグループを 8 時間毎に、および **Discovery Accelerator** サービスが開始するたびに同期します。このスケジュールを変更するには、カストディアンマネージャのホームページの[設定]をクリックし、ドロップダウンリストの[プロフィールの同期]を選択して、必要な同期間隔を設定します。
- 7 [電子メール表示名アドレス]セクションで、現在カストディアンの電子メールアドレスに関連付けられている表示名を一覧表示します。
- 8 [電子メールアドレス]セクションで、カストディアンに関連付けられているすべての電子メールアドレスを 1 行に 1 つずつ入力します。このカストディアンとの間で送信されるアイテムを検索すると、**Discovery Accelerator** には検索内のすべての一覧表示されたアドレスが含まれます。関連するすべてのアイテムを確実にキャプチャするには、必ず古い電子メールアドレスを追加してください。
- 9 [OK]をクリックします。

カストディアングループの設定

カストディアンの設定と同様、カストディアングループを設定し、以下を含む様々なソースグループと同期できます。

- **Windows** および **Domino** グループと配布リスト
- **Active Directory** と **Domino LDAP** 検索
- **Active Directory** コンテナ

カストディアングループを使うと、カストディアンの管理が簡素化されます。**Windows** または **Domino** ユーザーグループとカストディアングループを同期することによって、複数のカストディアンを自動的に設定できます。

Domino グループまたは配布リストとカストディアングループを同期したい場合は、**Domino** 管理者の匿名アクセスに対する次の **Domino LDAP** 属性を有効にしてください。

- **cn**
- **dominocertificate**

- mail
- maildomain
- member
- objectclass

匿名アクセスの属性を有効にする方法については、**Domino** のマニュアルを参照してください。

カストディアングループを設定する方法

- 1 カストディアンマネージャのホームページで、[カストディアングループ]をクリックします。
- 2 カストディアングループ管理ページで、[新規カストディアングループ]をクリックします。
- 3 グループ作成ページのフィールドを完了し、[OK]をクリックします。

カスタムのカストディアン属性の設定

カストディアンマネージャは、複数の標準カストディアン属性を、**Active Directory** などの外部ソースの対応する値と自動的に同期します。これらの標準属性は、カストディアンの名と姓、部門、開始および終了日を含みます。追加の属性を同期したい場合は、カスタム属性を定義し、それらを外部ソースの対応する属性にマップします。

カスタムカストディアンの属性を設定する方法

- 1 カストディアンマネージャのホームページで、[カストディアン属性]をクリックします。
- 2 カストディアン属性ページで、[新規カストディアン属性]をクリックしてください。
- 3 カスタムカストディアン属性のページで、属性の名前とオプションの説明を入力してください。
- 4 カストディアンの詳細を追加または編集するときに属性を表示する場合は、[カストディアンの詳細ページでこの属性を表示します]を選択します。属性を可視状態としてマーキングしない場合、属性はこれらのページには表示されず、カストディアンに割り当ててはできません。
- 5 この属性を **Discovery Accelerator** クライアントでカストディアンを識別するために使うプライマリ属性にする場合は、[プライマリ属性として設定]を選択します。クライアントユーザーが検索基準または分析ルールを定義するとき、プライマリ属性値を指定することで検索対象のカストディアンを指定することができます。

すべてのカストディアンにプライマリ属性の値がある必要があり、すべての値は一意である必要があります。

- 6 [同期]ボックスで、新しい属性と同期する **Active Directory** または **Domino LDAP** ディレクトリの属性の詳細を指定します。

- 7 属性を **Active Directory** と **Domino LDAP** ディレクトリの両方の属性と同期する場合は、どちらを優先するかを選択します。
- 8 用意された値のリストから属性値を選択する代わりに、属性に任意のテキスト値を入力する場合は、[任意のテキスト値の入力を許可]を選択します。
- 9 カストディアンプロパティページに属性を設定するときに選択する値を追加または変更するには、以下を実行します。
 - 新しい値を追加するには、[新規の値]をクリックし、必須の名前と説明を入力します。
 - 既存の属性値を一覧表示するには、[検索]ボックスで値の名前または部分名を入力します。[すべての属性値をダウンロード]をクリックして、値を一覧表示するカンマ区切り (CSV) ファイルを作成することもできます。
 - 既存の値を編集するには、行の右側で[編集]をクリックし、必要な変更を行います。カストディアンマネージャは、値を割り当てたカストディアンのプロパティを自動的に更新します。
 - 既存の値を削除するには、行の右側で[削除]をクリックします。カストディアンマネージャは、値を割り当てたカストディアンのプロパティから自動的に値を削除します。
- 10 [OK]をクリックします。

プライマリカストディアン属性の設定

Discovery Accelerator クライアントユーザーは検索の基準または分析ルールを定義するときに、カストディアンのプライマリ属性値を指定することによって検索対象のカストディアンを指名できます。たとえば、デフォルトのプライマリ属性は[表示名]であるため、検索を作成するユーザーは対象カストディアンの表示名の指定によって対象カストディアンを指名します。すべてのカストディアンにプライマリ属性の値がある必要があり、すべての値は一意である必要があります。

表示名以外の属性によってカストディアンを検索したい場合は、別の属性をプライマリに設定することができます。表示名と従業員 ID の属性はプライマリ属性として設定できる唯一の標準カストディアン属性であることに注意してください。ただし、カスタム属性はすべてプライマリ属性として設定できます。

プライマリのカストディアン属性を設定する方法

- 1 カストディアンマネージャのホームページで、[カストディアン属性]をクリックします。
- 2 カストディアン属性ページで、プライマリ属性として設定したい属性の名前をクリックします。
- 3 [カストディアン属性]ページで、[プライマリ属性として設定]を選択します。
- 4 [OK]をクリックして、新しい属性をプライマリ属性として設定することを確認します。

- 5 [OK]をクリックして変更を保存し、カストディアン属性ページに戻ります。
- 6 すべての **Discovery Accelerator** サーバーの **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスを再起動します。
- 7 すべての **Discovery Accelerator** クライアントユーザーにクライアントソフトウェアを再起動するよう指示します。

カストディアンを同期するユーザーアカウントの指定

デフォルトでは、カストディアンマネージャは、カストディアンとカストディアングループを、対応する **Active Directory** アカウントと同期させているときに **Accelerator** マネージャサービスが実行しているアカウントを使います。好みに応じて、ドメインごとに別のアカウントを指定できます。

指名された同期アカウントは **Active Directory** のある特定の権限がなければなりません。これらの権限を割り当てる方法についてはインストールガイドを参照してください。

カストディアンを同期するユーザーアカウントを指定する方法

- 1 [カストディアンマネージャ]のホームページで[同期アカウント]をクリックします。
- 2 [同期アカウント]ページで[新規アカウント]をクリックします。
- 3 [同期アカウント]ページで、同期する **Active Directory** ドメインの **NetBIOS** 名を入力します。
- 4 ドメインに対する **Active Directory** アクセスを実行するユーザーアカウントを指定します。指定するアカウントには、**Active Directory** ドメインへのクエリー権限が必要です。

指定したユーザーアカウントに必要な権限があることを検証するには[アカウントの確認]をクリックします。
- 5 環境に複数のドメインコントローラがあり、カストディアンマネージャが接続する優先コントローラを指定する場合は、[優先ドメインコントローラ]フィールドに完全修飾ドメイン名を入力してください。

優先ドメインコントローラを指定した場合は、次のことが発生します。

- カストディアンマネージャによって、優先ドメインコントローラへの接続と、**Active Directory** ドメインとの最初の完全同期が実行されます。以降の差分同期はこのドメインコントローラに対して実行されます。
- 優先ドメインコントローラを利用できない場合、カストディアンマネージャは指定期間を待機してから、同じドメインコントローラの完全同期をもう一度試行します。遅延期間は[プロファイルの同期]のオプション[完全同期前の待機時間(時間)]によって設定されます。このオプションは、[カストディアンマネージャ]のホームページで[設定値]をクリックすることによってアクセスできます。デフォルトは **36** 時間です。

p.84 の「カストディアンマネージャの設定オプションの設定」を参照してください。

- 指定時間を過ぎても優先ドメインコントローラに接続できない場合、カストディアンマネージャは次の利用可能なコントローラに接続して完全同期を実行します。以降の同期では、カストディアンマネージャは最初に優先コントローラとの完全同期を試行します。ただし、このサーバーを利用できない場合、カストディアンマネージャは最後に使用したコントローラに対して差分同期を実行します。

優先ドメインコントローラを指定しない場合は、次のことが発生します。

- カストディアンマネージャによって、最初に利用可能なドメインコントローラへの接続と、Active Directory ドメインとの最初の完全同期が実行されます。
- 以降の差分同期では、カストディアンマネージャは、最初の完全同期で使ったドメインコントローラに対して接続を実行します。ただし、このドメインコントローラを利用できない場合、カストディアンマネージャは次に利用可能なドメインコントローラに接続して、完全同期を実行します。以降の差分同期では、利用できるかぎりはこの新しいドメインコントローラが使用されます。利用できない場合、処理は開始時に戻ります。つまり、カストディアンマネージャは、次に利用可能なドメインコントローラに接続して、完全同期を実行します。

6 NetBIOS 名にマップする DNS 完全修飾ドメイン名を入力します。

7 [OK]をクリックします。

Active Directory ドメインと Domino サーバー全体との同期

カストディアンマネージャに対して、見つかったユーザーとグループに対して自動的にカストディアンおよびカストディアングループを作成するように指示できます。

カストディアンマネージャを **Active Directory** ドメインまたは **Domino** サーバーと同期する方法

- 1 [カストディアンマネージャ]のホームページで[ディレクトリ同期]をクリックします。
- 2 [ディレクトリ同期]ページで[新規ディレクトリ同期]をクリックします。
- 3 カストディアンマネージャを**Active Directory** ドメインまたは **Domino** サーバーのどちらと同期するかを選択します。次に必須のドメインまたはサーバー名を入力します。
- 4 [同期の有効化]を選択します。
- 5 カストディアンマネージャ、指定されたドメインまたはサーバー内のいくつかのコンテナと同期するか、またはすべてのコンテナ同期するかに応じて以下のいずれかを実行します。

- すべてのコンテナと同期するには[ドメイン/サーバー全体]をクリックし、オプションとして、メールが有効なユーザーまたはメールが有効なグループのみのどちらと同期するかを選択します。
- 選択したコンテナのみと同期させるには、[次のコンテナ]をクリックしてから[コンテナを追加]をクリックしてコンテナの詳細を入力します。

[メールが有効なグループとメンバーを同期]のみを選択し、[メールが有効なユーザーを同期]を選択しない場合、同期処理は次の変更のみを反映するためにカストディアンマネージャレコードを更新します。

- グループへのメンバーの追加
- グループからのメンバーの削除
- グループの LDAP のプロパティへの変更

グループメンバーの LDAP のプロパティへの変更を反映するためにカストディアンマネージャレコードも更新する場合は、[メールが有効なユーザーを同期]を選択します。

- 6 [OK]をクリックします。

カストディアンマネージャの設定オプションの設定

カストディアンマネージャの多くの部分は設定可能です。たとえば、以下を指定することができます。

- カストディアンマネージャが、カストディアンの詳細を対応する Active Directory アカウントまたは Domino LDAP ディレクトリアカウントと同期させる間隔。
- 利用可能な Active Directory アカウントまたは Domino LDAP ディレクトリアカウントがないカストディアンを、カストディアンマネージャによって非アクティブとマーク付けするまでに待機する日数。
- カストディアンを対応する Active Directory または Domino LDAP ディレクトリのアカウントに同期する前にカストディアンに関連付けられた電子メールアドレスを削除するかどうか。

カストディアンマネージャのシステム構成オプションを設定する方法

- 1 カストディアンマネージャのホームページで、[設定]をクリックします。
- 2 設定ページの [設定] フィールドで、カスタマイズしたい設定のカテゴリをクリックします。

全般的なカストディアンマネージャオプション ([全般]) を設定できます。また、カストディアンとそれに対応する Active Directory アカウントまたは Domino LDAP ディレクトリアカウントのカストディアンマネージャによる同期方法を制御することもできます (プロファイルの同期)。

- 3 値を変更したいオプションについて、次の手順を記載順に実行します。
 - 行の右側にある [編集] をクリックします。
 - 必須の値を設定してください。
 - 行の右側にある [OK] をクリックします。
- 4 すべての必須オプションを設定したら、前のページに戻るためにページの一番下の [OK] をクリックします。
- 5 必要であれば、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動して変更を有効にします。

アイテムの検索

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator](#) を使った検索について
- [Discovery Accelerator](#) 検索の作成と実行
- [検索基準オプション](#)について
- [効果的な検索の実行に関するガイドライン](#)
- [Discovery Accelerator](#) 検索の一時停止と再開
- [\[検索の監視\]タブ](#)について
- [検索対象のアーカイブ](#)の選択
- [カスタム検索属性の詳細](#)の指定
- [アドレスマネージャ](#)を使った対象電子メールの定義
- [Discovery Accelerator](#) 検索スケジュールの作成
- [Discovery Accelerator](#) を使ってアーカイブされた [Skype for Business](#) コンテンツの検索

Discovery Accelerator を使った検索について

ケースまたはフォルダを作成したら、そのケースまたはフォルダに含める情報を検索する必要があります。この処理には次のものが含まれます。

- 関連するボルトストアでの 1 回以上の検索実行による適した情報の検索。[Discovery Accelerator](#) では、検索対象の単語とフレーズ、日付範囲、メッセージのサイズ、作成者と受信者のアドレスなどの選択可能なさまざまな検索基準が用意されています。
- 検索結果の適合性評価と、結果の受け入れまたは拒否。

- 必要なすべての情報を収集するまで、検索の反復。

満足のいく検索結果が得られたら、検出したアイテムのレビューに進みます。

設定時刻に検索を実行したり、自動的に実行する反復検索を設定したりする場合には、検索スケジュールを作成できます。また、Discovery Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズできます。

特定のメッセージの送信者か受信者の有無を検索する場合はアドレスマネージャでそれらの電子メールアドレスを格納できます。次に検索のための基準を定義するとき、リストからユーザーを選択できます。

特定の種類の Skype for Business コンテンツの検索の制限事項

Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Discovery Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。したがって、Enterprise Vault または Discovery Accelerator でこの機能を使ってこれらのアイテムのテキストコンテンツを検索できません。

Discovery Accelerator 検索の作成と実行

ケースまたはフォルダで検索を作成して実行するには、ケースまたはフォルダの検索権限が必要です。検索プレビュー権限がある場合は、検索結果を受け入れる前に検索結果をプレビューできます。

Discovery Accelerator 検索を作成して実行する方法

1 次のいずれかの操作を行います。

- ケースで実行する検索を作成するには、Discovery Accelerator クライアントの [ケース] タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。
- リサーチフォルダで実行する検索を作成するには、Discovery Accelerator クライアントの [リサーチ] タブをクリックし、次に左ペインで目的のフォルダをクリックします。

Discovery Accelerator によって大量のケースやフォルダが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。

2 [検索] タブをクリックします。

3 [新規検索]をクリックします。

検索のプロパティペインが表示されます。

4 リサーチフォルダで実行する検索を作成していて、左ペインで[すべてのリサーチ]をクリックした場合、Discovery Accelerator は検索に関連付けるケースを選択するように要求します。選択し、[検索]をクリックします。

5 目的の検索基準を入力します。

p.90 の「[検索基準オプションについて](#)」を参照してください。

- 6 [保存]をクリックしてすぐに検索を開始するか、またはスケジュール設定済みの検索をキューに登録して決められた時刻に自動的に開始します。

検索結果が見つかるたびに Discovery Accelerator によってプレビューの一覧が表示されます。プレビュー表示ではアイテムをすぐに読み取ることができます。予想した結果が得られない検索は、必要に応じて停止することができます。この場合は、検索基準を絞り込んで再検索を実行できます。

[検索の詳細]ペインは次の情報を提供します。

アーカイブ	Discovery Accelerator によって検索されたアーカイブの名前を示します。
ボリューム	アーカイブを保持するボリュームの ID を表示します。
ボルトストア	アーカイブを含んでいるボルトストアの種類を示します。
状態	各アーカイブの検索の現在の状態を示します。
期間	各アーカイブを検索するために Discovery Accelerator がかけた時間を示します。
ヒット	検索基準に一致する、各アーカイブのアイテム数を示します。
情報	起きたエラーの詳細を提供します。

[表示]一覧のオプションを選択すると、アーカイブ一覧をフィルタ処理できます。たとえば、ヒット数が上位 2000 のアーカイブ、または状態が[エラー]のすべてのアーカイブを表示するようにアーカイブをフィルタ処理することができます。検索の詳細をカンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてダウンロードするには、[すべてのアーカイブの検索の詳細をダウンロードする]をクリックします。

- 7 検索が完了したときに、結果の受け入れまたは拒否を選択できます。次の点に注意してください。

- Discovery Accelerator では、検索結果が受け入れられるまでレビューセットにキャプチャしたアイテムは追加されません。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択しなかった場合は、結果を手動で受け入れるか、または拒否する必要があります。
- 検索結果にデフォルトのマークとレビューアを割り当てるオプションは新しく検出されたアイテムにのみ適用されます。以前にキャプチャし、レビューセットに追加したアイテムが検索結果にある場合、これらのアイテムは割り当てられたマークとレビューアを保持します。
既存のマークを保持するオプションは、レビューアが別のケースですでにマークを割り当てたアイテムに対してのみ適用されます。
- 検索結果を拒否すると、Discovery Accelerator によってその検索とデータベースからの結果が削除されます。ただし、実際のアイテムはアーカイブに残ります。

- 受け入れた検索は取り消すことができないため、検索結果は有効な結果であることが重要です。

検索基準オプションについて

Discovery Accelerator は検索基準オプションを次に示す複数のセクションにグループ化します。セクションを展開するか、または省略するには、右の矢印のアイコンをクリックします。

複数のオプションを含む検索を構築する場合、検索のプロパティペインで各オプションが他の検索オプションとどのように対話するかに注意してください。Discovery Accelerator は選択したすべてのオプションを、OR ブール演算子ではなく AND ブール演算子でリンクします。たとえば、条件に次のものが含まれている検索を構築するとします。

- [日付範囲]セクションの日付範囲
- [検索語]セクションの検索用語
- [添付ファイル]セクションのファイル拡張子

この検索結果には、すべての検索基準に一致するアイテムのみが含まれます。Discovery Accelerator では、検索基準の一部のオプションに一致しても、他のオプションには一致しないアイテムは無視されます。

[検索プロパティ]ペインには次のセクションがあります。

- 「[検索]セクション」
- 「[日付範囲]セクション」
- 「[検索語]セクション」
- 「[アーカイブ]セクション」
- 「[添付ファイル]セクション」
- 「[その他]セクション」
- 「[ポリシー]セクション」
- 「[カスタム属性]セクション」

[検索]セクション

この[検索]セクションでは、検索の名前と実行時刻を指定します。

コンテキスト

検索を実行するケースまたはリサーチフォルダを指定します。フォルダがケースにリンクされない場合、「マイリサーチ」が表示されます。

名前	検索の名前を指定します(「Daily Message Capture (London)」など)。
検索に基づく	新しい検索のための基準を設定する基礎となる既存の検索を選択することを許可します。
結果の保存先	<p>表示されている場合は、結果を保存する場所を選択できます。結果を保存する新しいフォルダの詳細情報を指定する場合はドロップダウンリストで[<コンテキスト>の新規フォルダ]を選択します。</p> <p>このオプションは、ケースにリンクされないフォルダの検索を作成する(左ペインで「マイリサーチ」を選択している)場合にのみ利用可能です。</p>
検索の種類	<p>検索をすぐに実行するか、スケジュール設定済みの時刻に実行するかを指定します。[スケジュール設定済み]を選択すれば、検索が動作する期間を指定できます。またいくつかの既存のスケジュールの 1 つから選択できます。</p> <p>p.112 の「Discovery Accelerator 検索スケジュールの作成」を参照してください。</p>
検索結果を自動的に受け入れる	<p>検索結果をレビューセットに自動的に追加するかどうかを指定します。このオプションは過去に実行済みの検索を定期的に行う場合に便利です。[検索結果を自動的に受け入れる]を選択した場合、結果を拒否したり、検索基準を変更したりすることはできません。検索で予想した検索結果が得られることを確認するまで、[検索結果を自動的に受け入れる]をクリアしておくことをお勧めします。</p> <p>アーカイブからエラーが返された検索は、この設定にかかわらず、自動的に受け入れられません。</p>
レビュー中の既存のアイテムを含める	検索結果に、以前にキャプチャし、レビューセットに追加したアイテムを含めることができるかどうかを指定します。即時検索またはスケジュール設定済みの検索の場合、他の検索でレビュー中の可能性があるアイテムが結果に含まれるように、このボックスを選択することをお勧めします。

[日付範囲]セクション

[日付範囲]セクションでは、アイテムが送受信された日時を基準にアイテムを検索できます。

今日、昨日、最新 7 日間、最新 14 日間、最新 28 日間 選択した期間に送受信されたアイテムのみを検索します。日付範囲は検索が行われる時点(即時検索の場合は当日)を基準にした相対的な範囲です。

これらのオプションは、毎日、毎週、2 週間ごと、4 週間ごとに 1 回実行するようにスケジュール設定された反復検索を作成する場合に便利です。たとえば、週に 1 回検索を実行する場合は、[最新 7 日間]を選択すると、検索範囲は前回検索を実行した後の日付に限定されます。

特定の日付範囲

他の日付範囲オプションで指定できる期間よりも長い期間またはより限定された期間に送受信されたアイテムを検索できます。日付を入力するには、[開始日]フィールドと[終了日]フィールドの右側にあるオプションをクリックし、次に目的の日付を選択します。他の日付範囲フィールドとは異なり、[特定の日付範囲]では範囲が固定されています。検索実行時を基準にした相対的な範囲ではありません。

検索でカストディアンとカストディアングループの現在の情報と履歴の情報を両方使うために[カストディアンとカストディアングループの履歴情報を使う]を選択します。このオプションをクリアすると、**Discovery Accelerator** は現在のカストディアン、グループ、電子メールアドレスのセットのみを使います。名前や電子メールアドレスが変わったり、何らかの理由で非アクティブ化されたユーザーやグループは、検索から除外されます。

検索の最終実行以降

スケジュール設定済みの検索でのみ、前回の検索実行より後に送受信された新規アイテムを検索できます。このオプションは[今日]や[昨日]などのオプションに類似しています。ただし、それは検索を最初に実行する開始日を明示的に設定できます。

デフォルトでは、このオプションを選択すると、前回の検索が実行された日付(初回の検索の場合は開始日)から現在の日付の 1 日前(昨日)までの範囲が検索対象となります。

[検索語]セクション

[検索語]セクションでは、**Discovery Accelerator** がアイテムで検索する単語またはフレーズを指定します。検索する各語句を追加するには、[検索語の追加]をクリックします。次の点に注意してください。

- **Discovery Accelerator** の検索は、大文字と小文字を区別しません。
- 正規表現は許可されません。
- フレーズを検索するには、単語を引用符で囲みます。
たとえば、次のように検索語を定義して、件名に「**organizational changes**」というフレーズを含むすべてのアイテムを検索できます。

SUBJ: "organizational changes"

Discovery Accelerator では、メッセージの添付ファイルのファイル名を、添付ファイルの件名と見なします。したがって、前の検索語では、「organizational chages」という句が件名にあるアイテムと、ファイル名にこの句のある添付ファイルの両方を検索します。

- 同じ行に複数の単語を入力した場合は、Discovery Accelerator によって、行のいずれかの単語またはフレーズを含むすべてのアイテムが検出されます。
検索語のすべての単語はスペースで区切る必要があることに注意してください。次の検索語では、「changes」と「license」の間に空白文字がないため、予想どおりの結果が返されません。そのため Discovery Accelerator は、「organizational」、「changeslicense」、「agreements」のうち 1 つ以上を含むアイテムを検索します。

SUBJ: "organizational changes""license agreements"

同様に、検索語の license;agreements と license; agreements は異なります。これは、2 つ目の例ではセミコロンの後に空白文字が続くためです。空白文字が含まれる場合、Discovery Accelerator はいずれかの単語を含むアイテムを検索します。一方、空白文字が含まれない場合、Discovery Accelerator は検索語をフレーズとして処理します。

- それに別の行を追加するために検索のフィールドでリターンキーを押します。検索フィールドに複数行を入力した場合は、左のフィールドの[いずれか]または[すべて]を選択して、行を OR か AND 条件で接続するかどうかを指定します。
- [差出人]ボックスまたは[宛先]ボックスに対象電子メールまたはカストディアンの詳細情報を追加するには、ボックスの右側の[対象とカストディアン]ボタンをクリックします。



メモ: 詳細情報を Domino ディレクトリと同期する Domino ユーザーをカストディアンまたは対象として指定する場合、このユーザーが Domino ディレクトリで定義された SMTP アドレスを持っていることを確認する必要があります。そうしない場合、検索では、一致するアイテムの検索に失敗します。代わりに、表示名によってこのようなユーザーを検索できます。

- [カストディアンマネージャのオプション]領域のフィールドを使ってカストディアンかカストディアングループを検索する方法を指定します。電子メールアドレス、表示名、または電子メールアドレスと表示名の両方を検索するように選択できます。[電子メールアドレスと表示名を使う]を選択した場合、カストディアンまたはカストディアングループは、一致する電子メールアドレスまたは一致する表示名のいずれかが検索基準を満たす必要があります。両方の基準を満たす必要はありません。

Discovery Accelerator にカストディアングループの表示名と電子メールアドレスだけでなく、すべてのグループメンバーの電子メールアドレスも検索してほしい場合、[配布リストのメンバーのアドレスを含める]を選択します。

[カストディアンマネージャのオプション]領域の下で入力する条件は、検索の構築時に利用可能なカストディアン情報を使います。この情報は、検索を再び編集しないと更新されません。たとえば、検索を作成し、[配布リストのメンバーのアドレスを含める]オプションを選択する場合、その時点でのリストのメンバーが検索とともに保存されます。リストに所属するメンバーがその後変更されても、検索を編集して再び保存するまでその変更は適用されません。

- 単語またはフレーズの前にプラス記号 (+) を配置して、行のその他すべての単語またはフレーズとブール論理積条件でつなげます。この記号により、指定した単語またはフレーズを目的の基準に応じて扱うように Discovery Accelerator に指示します。たとえば、次の検索文字列は「(server AND test) OR (group AND test) OR (cluster AND test)」を意味します。

```
[Any Of] server group +test cluster
```

次の例では、検索文字列は「(server AND test AND group) OR (cluster AND test AND group)」を意味します。

```
[Any Of] server +group +test cluster
```

- 単語またはフレーズの前にマイナス記号 (-) を配置して、行のその他すべての単語またはフレーズとブール否定論理積条件でつなげます。この記号により、その他の検索基準に一致する結果と除外された用語を含む結果を結果セットから除外するように Discovery Accelerator に指示します。たとえば、次の検索文字列は「(server AND NOT test) OR (group AND NOT test) OR (cluster AND NOT test)」を意味します。

```
[Any Of] server group -test cluster
```

次の例では、検索文字列は「(server AND cluster AND (group AND NOT test))」を意味します。

```
[All Of] server  
cluster  
group -test
```

検索語は、除外済みの語句のみで構成することができません。このような単語またはフレーズを指定するときには、検索結果に表示する検索対象な語句も指定する必要があります。

- 検索では、アスタリスク(*)を使って 0 文字以上の文字を表すことができます。疑問符(?)をワイルドカードとして使用する場合は、任意の 1 文字を表します。ワイルドカードでの検索は、検索基準に一致し、Enterprise ボルト 10.0 以降でアーカイブされたアイテムならば、常に検索されます。Enterprise Vault 9.0 以前でアー

カイクしたアイテムも検索結果に含まれるようにするには、ワイルドカードの前にワイルドカードではない文字を 3 つ以上入力します。たとえば、次の検索文字列は「make」、「maker」、「making」、「wonder」、「wondering」などの用語にヒットします。

```
[Any Of] mak*  
Wonder*
```

[差出人]フィールドか[宛先]フィールドに指定する電子メールアドレスにワイルドカード文字を含めることができます。次の例は電子メールアドレスに「@acme.uk」か「@acme.hk」を含んでいるユーザーのアイテムを見つけます。

```
[Any Of] @acme.?k
```

ただし、アットマーク (@) などの特殊文字の後にどのワイルドカード文字も使うことはできません。たとえば、検索文字列「@?cme.uk」では予想した検索結果が得られません。

- **Discovery Accelerator** は、プラス記号、マイナス記号、疑問符など、特別な意味がある場合を除いて、検索語の英数字以外の文字を無視します。
たとえば、**US@100** という用語の検索は、**US@100** だけではなく **US 100** と **US\$100** のインスタンスも検索します。したがって、検索語に英数字以外の文字を含めると、予想よりも多くの結果が戻される場合があります。

[アーカイブ]セクション

メモ: この機能は、ケースで「検索でのアーカイブの選択」権限を持つときのみ利用可能です。

p.23 の「[Discovery Accelerator の権限について](#)」を参照してください。

この機能はスケジュール設定済みの検索の基準を定義する場合は利用可能ではありません。即時検索を設定するときのみ使うことができます。

[アーカイブ]セクションは、特定のアーカイブのみにケースレベルの検索またはフォルダレベルの検索の範囲を制限することを可能にします。デフォルトでは、**Discovery Accelerator** はケースに選択したボルトストアのすべてのアーカイブを検索します。ただし、これは **Discovery Accelerator** が何千ものアーカイブを不必要に検索する必要がある場合は望ましくなく、時間がかかる場合があります。

検索対象のアーカイブを選択する方法

- 1 [次のアーカイブを検索]をクリックします。
- 2 右側の[Archive Picker]オプションをクリックします。

3 [アーカイブを選択]ダイアログボックスでは、目的のアーカイブを選択します。

ケースレベルのアーカイブのリストから最大 5000 のアーカイブを選択できます。

4 [適用]をクリックします。

[添付ファイル]セクション

[添付ファイル]セクションでは、指定した数または種類の添付ファイルを含むアイテムを検索できます。

番号

対象となる添付ファイル数を指定します。デフォルトオプション[重要ではない]の場合、0を含む任意の数の添付ファイルを含むアイテムが検索対象となります。その他のオプションを選択する場合、対象となる添付ファイル数を指定する値を 1 つまたは 2 つ入力する必要があります。

ファイル拡張子

検索対象となる添付ファイルの種類を表す拡張子を指定します。各拡張子はスペースで区切って入力します。たとえば、HTML ファイルまたは Microsoft Excel ファイルが添付されているアイテムを検索する場合は、次のように入力します。

.htm .xls

この検索オプションでは、ファイル名のみによって添付ファイルが評価されます。ファイルの種類は確認されません。たとえば、.zip ファイルの拡張子を .zap に変更し、名前を変更したファイルを電子メールの添付ファイルとして送信するとします。Discovery Accelerator は .zip 拡張子の付いた添付ファイルを含むアイテムのみを検索し、名前の変更された添付ファイルを含む電子メールは検索しません。

添付ファイルの内容によっては、Enterprise Vault でインデックス付けしていないために検索できない場合もあります。特に、Fax や音声のようなファイル形式には、インデックス付けできる内容がありません。

Enterprise Vault の一部のレジストリエントリでは、選択したファイルタイプの内容をインデックス付けできません。たとえば、ExcludedFileTypesFromConversion エントリの場合がそれに該当します。詳しくは『レジストリ値』ガイドを参照してください。

Discovery Accelerator でファイル名拡張子を指定した検索を実行する方法について詳しくは、Veritas サポート Web サイトの以下の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100008537>

[その他]セクション

[その他]セクションでは、特定のサイズまたは種類のアイテム、特定の保持カテゴリのアイテムを検索できます。

メッセージサイズ	メッセージストア (Exchange、Domino など) が報告するように、検索する各アイテムのサイズを KB 単位で指定します。アイテムのサイズには添付ファイルのサイズも含まれます。
メッセージの種類	選択した種類のアイテムを検索します。
インデックスなしのアイテムのみ 含める	<p>バイナリファイルや暗号化されたメールアイテムなど、通常は検索結果に表示されないインデックス付けされていないアイテムを検索できます。</p> <p>このオプションを選択する場合は、[内容]フィールドを空にしておく必要があります。</p>
保持カテゴリ	Enterprise Vault が選択済みの保持カテゴリを割り当てたアイテムを検索します。

[ポリシー]セクション

[ポリシー]セクションでは、任意のポリシー管理ソフトウェアが分類に使ったタグに従ってアイテムを検索できます。

ポリシー

ある特定の分類のポリシーと一致するアイテムの有無を検索できます。複数の種類のポリシーがあります。

- [含める]。ポリシー管理ソフトウェアでレビューセットに含まれるように分類され、最も深刻な非行(ののしり、人種差別、インサイダー取引など)である可能性のあるアイテムです。通常、これらの機能を示すアイテムがレビューセットに含まれるようにすると便利です。
- [除外]。スパムアイテムとニュースレターは、ポリシー管理ソフトウェアがレビューセットから除外するように分類することがあるアイテムの典型的な例です。
- [分類]。ポリシー管理ソフトウェアは、スペイン語のテキストを含むなど特定の性質を表わすアイテムをカテゴリに分類する場合があります。この種類のポリシーは、アイテムをレビューセットに含めるか、またはレビューセットから除外するかの情報を提供しません。

これらのポリシーの種類は相互に排他的ではありません。ポリシー管理ソフトウェアは、同じアイテムに種類が異なる複数のポリシーを適用する場合があります。ただし、含まれるポリシーが他の種類のポリシーに常に優先します。

必須のポリシーの種類を選択し、検索するポリシーの名前を選択します。または、ポリシーの種類として[カスタム]を選択し、1 つ以上のポリシー名を入力します。次のように、複数のポリシー名をカンマで区切ります。

CustomPolicy1,CustomPolicy2

複数のポリシーの検索を選択すると、検索結果にはいずれかのポリシーに一致するアイテムが含まれます。

現在のケースでポリシーをフィルタ処理

リストから現在のケースで使用中的ではないポリシーを省略できます。

[カスタム属性]セクション

[カスタム属性]セクションでは、指定した属性を持つアイテムを検索できます。Enterprise Vault がアイテムを処理するときに、情報が含まれる多数のアイテムの属性をポピュレートし、アーカイブ済みアイテムを含むこの情報を格納します。一部の他社製ソフトウェアはアイテムに追加の属性情報を加えることもあります。対象の属性の名前がわかる場合は、カスタム属性としてここにその詳細情報を入力できます。

次の点に注意してください。

- 複数の属性の詳細情報を入力する場合は、[属性を含める]ボックスのオプションを使って、検索結果を属性のいずれかまたはすべての属性に一致させるかを指定します。

- 文字列値を許容する属性の場合は、ボックスの右側の[対象とカスタディアン]ボタンをクリックして、電子メールの対象またはカスタディアンの詳細情報を追加できます。
[カスタディアンマネージャのオプション]を[電子メールアドレスと表示名を使う]に設定する場合、カスタム属性フィールドに入力するカスタディアンの詳細が **Discovery Accelerator** でどのように処理されるかを理解することが重要になります。
[演算子]ボックスでの選択に応じて、**Discovery Accelerator** は **AND** ブール演算子または **OR** ブール演算子のいずれかでカスタディアンの電子メールアドレスと表示名をつなげます。たとえば、[演算子]を[両方]に設定すると、カスタディアンの電子メールと表示名の両方に一致するアイテムが検索条件を満たします。これらの詳細情報の 1 つのみに一致するアイテムは検索条件を満たしません。電子メールアドレスと表示名を **OR** 演算子でつなげるには、[演算子]を[いずれか]に設定します。1 つ以上の詳細情報(両方でなくてもよい)に一致するアイテムが検索条件を満たします。
 - 他社製ソフトウェアが **SMTP** アイテムの **X-header** に追加した属性情報を検索するには、検索する属性の名前に接頭辞 **EVXHDR** を追加します。次に例を示します。
EVXHDR.X-CompanyID
属性名と値は大文字と小文字を区別します。
 - 属性値がフレーズであることを示す場合に引用符で属性値を囲まないでください。代わりに、これらの属性のオペレータとして[フレーズ]を選択します(選択肢がある場合)。また、次のように、すべてのスペースをピリオドに置換することによって属性値がフレーズであることを示すことができます。
sample.attribute.value
この方法によって、同じカスタム属性に複数のフレーズ値を指定できます。たとえば、次の属性値を考えてみます。
Enterprise.Vault.Service.Account system DA.Administrator
この値は、「Enterprise Vault Service Account」、「system」、「DA Administrator」と一致します。
- p.105 の「[カスタム検索属性の詳細の指定](#)」を参照してください。
- p.217 の「[Enterprise Vault の検索のプロパティについて](#)」を参照してください。

効果的な検索の実行に関するガイドライン

検索の実行時に最適な結果を得るには、次のガイドラインに従ってください。

- 正確な検索を行います。たとえば、作成者または受信者の詳細を含めたり、日付範囲を指定したりします。
- ケースのプロパティで、検索可能なボルトストアの数を制限します。
- ワイルドカードはパフォーマンスに重大な影響を及ぼす可能性があるため、必要な場合のみ使います。

- 検索語は使い過ぎないようにします。数千もの用語を使うと、検索が繰り返して実行される可能性があります。
- スケジュール設定済みの検索がシステムバックアップと同時に実行されないことを確認します。
- データベースの空きがなくなったり速度が低下したりするのを回避するために、検索は迅速に受け入れるか、拒否します。
- リサーチフォルダで新しい検索をテストし、その後、必要に応じてフォルダを削除します。

Discovery Accelerator での検索方法について詳しくは、ホワイトペーパー『Effective Searching』を参照してください。このホワイトペーパーを入手するには、Veritas サポート Web サイトの次のページを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100038089>

Discovery Accelerator 検索の一時停止と再開

必要な権限レベルがある場合、すべての Discovery Accelerator の検索の状態を監視し、必要に応じて検索を一時停止または再開することができます。これは、検索が関連付けされているケースに通常はアクセス権がない場合にも該当します。ただし、通常のアクセス権限がなければ、検索基準または検索結果を表示できません。

検索を一時停止または再開するには、検索監視権限が必要です。デフォルトでは、ディスクバリスシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

検索を一時停止または再開する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[監視]タブをクリックします。
- 2 次の 1 つ以上の操作をします。
 - 検索の詳細な状態情報を表示するには、検索名をクリックします。
 - 1 つ以上の検索を一時停止または再送信するには、目的の検索を選択し、[一時停止]または[再送信]をクリックします。

メモ: 広範囲の日付または大量のアーカイブに対して実行している検索を一時停止する場合、Discovery Accelerator では検索を停止するまでに少々時間がかかることがあります。

[検索の監視]タブについて

[検索の監視]タブは、行った検索の状態を示します。まだ進行中の検索を停止、一時停止できます。また、失敗した検索を再送信できます。表 8-1 に示すとおり、このタブにアクセスする方法は複数あります。

表 8-1 [検索の監視]タブにアクセスする方法

表示対象	操作
すべてのケースで実行されている検索	Discovery Accelerator クライアントの[監視]タブをクリックします。
1 つケースでのみ実行されている検索	<ol style="list-style-type: none">Discovery Accelerator クライアントの[ケース]タブをクリックします。左ペインで必要なケースをクリックします。[検索]をクリックします。
1 つ以上のリサーチフォルダで実行されている検索。	<ol style="list-style-type: none">Discovery Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。左ペインで目的のリサーチフォルダをクリックするか、[すべてのリサーチ]をクリックしてすべてのフォルダの検索の状態を表示します。[検索]をクリックします。

[検索の監視]タブは 3 つのペインに分けられます。

- 先頭のフィルタペインは、名前、状態、日付と種類で検索をフィルタ処理することを可能にします。必要なフィルタオプションを選択し、次に右の[フィルタの適用]ボタンをクリックします。フィルタオプションをクリアするにはボタンを再びクリックします。
- 中央のペインは、選択したフィルタオプションと一致する検索をリストします。このペインに表示される情報は、[検索の監視]タブに表示されている内容によって異なります。

名前	検索を表します。
ケース/フォルダ	表示されている場合は、検索が実行されたケースまたはフォルダを表します。
提出者	検索を送信した人を識別します。
実行日	検索が開始した日時を示します。
ヒット	検索基準に一致するアイテム数を示します。
対象アーカイブ	Discovery Accelerator が検索したアーカイブの数を示します。

状態	検索の状態を示します。
検索の種類	検索の種類を示します。
Enabled	表示されている場合は、スケジュール設定済みの検索が現在有効になっていることを示します。検索が有効になっていない場合、実行されません。

- 中央のペインで検索をクリックすると、下のペインは次の情報を提供します。

アーカイブ	Discovery Accelerator によって検索されたアーカイブの名前を示します。
インデックスボリューム ID	アーカイブを保持するボリュームの ID を表示します。
ボルトストア	アーカイブを含んでいるボルトストアの種類を示します。
状態	各アーカイブの検索の現在の状態を示します。
期間	各アーカイブを検索するために Discovery Accelerator がかけた時間を示します。
ヒット	検索基準に一致する、各アーカイブのアイテム数を示します。
情報	起きたエラーの詳細を提供します。

[表示]一覧のオプションを選択すると、アーカイブ一覧をフィルタ処理できます。たとえば、ヒット数が上位 2000 のアーカイブ、または状態が[エラー]のすべてのアーカイブを表示するようにアーカイブをフィルタ処理することができます。検索の詳細をカンマ区切り値 (CSV) ファイルとしてダウンロードするには、[すべてのアーカイブの検索の詳細をダウンロードする]をクリックします。

検索対象のアーカイブの選択

Discovery Accelerator でアイテムを検索する Enterprise Vault アーカイブの一覧をカスタマイズできます。たとえば、すべての検索から無関係な要素を含むアーカイブを除外すると効率的な場合があります。

任意のケースで行う検索で利用可能なデフォルトのグローバルなアーカイブの一覧を設定するほかに、個々のケースの検索可能なアーカイブをカスタマイズできます。

グローバルなアーカイブの一覧を設定するには、アプリケーションのアーカイブ管理権限が必要です。また、ケースレベルのアーカイブの一覧を設定するには、ケースのアーカイブ管理権限が必要です。

メモ: ケースレベルで「検索でのアーカイブの選択」権限があれば、検索の基準を定義するときに、検索する特定のアーカイブを選択することもできます。検索の範囲を制限することは、特にケースレベルのアーカイブのリストが何千ものアーカイブを含んでいる場合、完了するためにかかる時間を大幅に減らすことができます。

p.23 の「[Discovery Accelerator の権限について](#)」を参照してください。

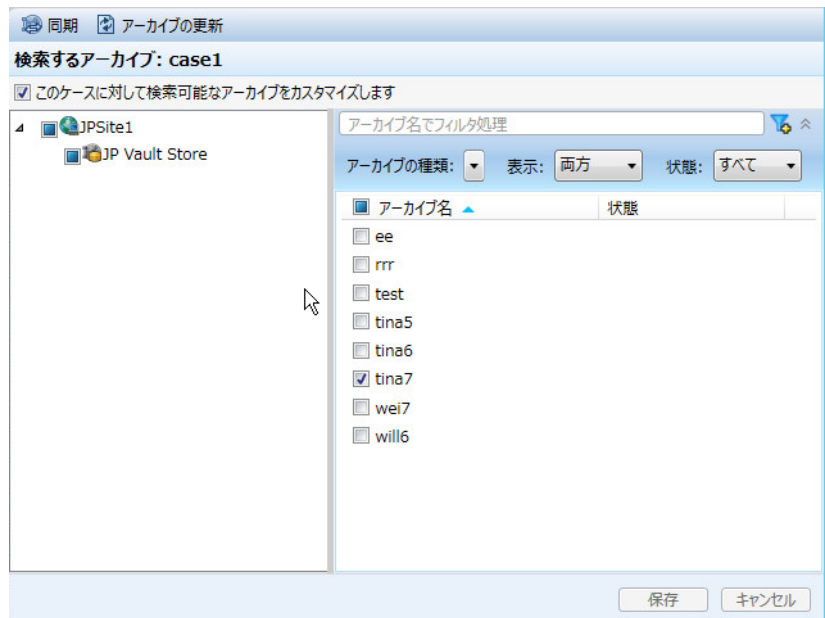
検索対象のアーカイブを選択する方法

1 次のいずれかの操作を行います。

- すべてのケースで利用可能なデフォルトのアーカイブの一覧を設定するには、**Discovery Accelerator** クライアントの[アプリケーション]タブをクリックし、次に[アーカイブ]タブをクリックします。
- 単一のケースでのみ検索するアーカイブの一覧を設定するには、[ケース]タブをクリックし、左ペインで目的のケースをクリックします。その後で[アーカイブ]タブをクリックします。

Discovery Accelerator によって大量のケースが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。ケースを名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けられるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。

2 検索を実行するアーカイブを選択します。



メモ: 多くのアーカイブが現在の選択およびフィルタ基準と一致する場合、**Discovery Accelerator** はそれらをすべてリストするのに時間をかけることがあります。このような状況では、**Discovery Accelerator** はリストするアーカイブの数を減らすために基準の変更を求めるメッセージを表示することがあります。メッセージに従って基準を変更するか、[すべてのアーカイブを表示]をクリックして、アーカイブをすべてリストすることができます。現在のセッション中、このペインに戻るたびにこのメッセージが表示されないようにするには、[このセッションでは今後表示しない]を選択してから[すべてのアーカイブを表示]をクリックします。

デフォルトでは、**Discovery Accelerator** は 50,000 以上のアーカイブが現在の基準と一致するときこのメッセージを表示します。このしきい値を変更するには、[ロードするアーカイブの数[この]しきい値を超えたらアーカイブペインに警告を表示する]という設定オプションを設定してください。

p.186 の「[全般設定オプション](#)」を参照してください。

次の方法で、アーカイブの追加と除外を行います。

- すべてのケースに利用可能なアプリケーション全体のアーカイブの一覧を設定する場合に、特定のボルトストアをケース管理者に対して非表示にするには、[すべてのケースで利用可能なボルトストアを限定します。]を選択します。次に、ボルトストアの一覧の[有効化]列で、表示して検索可能にするボルトストアを選択します。ケース管理者がケースの検索可能なアーカイブの一覧を設定するときには、有効にしたボルトストア内のアーカイブのみを選択できます。
ボルトストアを制限した場合に後でその制限を削除すると、ボルトストアは自動的に既存のケースで利用可能となり、新しい検索に含まれます。
- 単一のケースでのみ検索するアーカイブの一覧を設定するには、[このケースに対して検索可能なアーカイブをカスタマイズします]を選択します。
- 左側のボルトストアを選択するとアーカイブが検索に含まれ、クリアすると検索から除外されます。
- 左側のボルトストアをクリックすると、関連付けられているアーカイブが右側に一覧表示されます。次に、追加するアーカイブを選択し、除外するアーカイブをクリアします。
[状態]列には、アーカイブ移動操作の一部として **Enterprise Vault** 管理者による各アーカイブのコピー、移動、削除が行われたかどうかが表示されます。
Discovery Accelerator によって大量のアーカイブが一覧表示される場合は、右ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。
- 右ペインの先頭の[アーカイブ名]ボックスを選択またはクリアして、すべての利用可能なアーカイブを含めるか、または除外します。

3 [保存]をクリックします。

カスタム検索属性の詳細の指定

Enterprise Vault がアイテムを処理する場合は、アイテムの一連のプロパティを情報でバッチレートし、この情報をアーカイブ済みアイテムとともに格納します。たとえば、Enterprise Vault は各アイテムの保持カテゴリとその添付ファイルの番号についての情報を格納します。この情報はすべて Discovery Accelerator の検索でアクセス可能です。検索のプロパティペインの[カスタム属性]セクションでは、自由形式の属性として関連したプロパティの名前を入力できます。

p.217 の「Enterprise Vault の検索のプロパティについて」を参照してください。

ある特定のプロパティ情報を繰り返し検索する場合には、カスタム検索属性としてプロパティを定義できます。それから検索のプロパティペインの[カスタム属性]セクションは関連したプロパティの詳細を入力できるフィールドを常に含んでいます。

カスタム検索属性の詳細を指定するには、検索属性管理権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

カスタム検索属性の詳細を指定する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[検索属性]タブをクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックします。
[検索属性]ペインが表示されます。

検索属性

テンプレート: 新規検索属性

名前:

表示名: 新規検索属性

説明:

種類: 単一の行

データの種類: 文字列

必須: ☐

デフォルト値: ""

演算子:

いずれか
すべて
完全一致
フレーズ

保存

キャンセル(C)

3 [テンプレート]一覧で、詳細を入力する属性を選択するか、または新しい属性の詳細を定義するために[新規検索属性]を選択します。

次のテンプレート属性があります。

アーカイブした日付	Enterprise Vault がアーカイブした日付に従ってメッセージを検索します。
カテゴリとキーワード	作成者が割り当てたカテゴリに従ってメッセージを検索します。
対話追跡 ID	指定した対話追跡 ID でインデックス付けされているメッセージを検索します。
有効期限	保持期間が期限切れになる日付に従ってメッセージを検索します。
言語	指定した言語でメッセージを検索します。
最終更新日	最後に更新された日付に従ってメッセージを検索します。
メッセージクラス	IPM.Appointment または IPM.Contact などの特定のメッセージクラスに分類されるメッセージを検索します。
メッセージの重要度	特定の重要度でマーク付けされたメッセージを検索します。
メッセージのセキュリティ	作成者がデジタル署名または暗号化したかどうかに従ってメッセージを検索します。
メッセージの機密性	特定の機密レベルでマーク付けされたメッセージを検索します。
期限切れになる日数	指定した日数で削除されるようにスケジュール設定されているメッセージを検索します。
受信者数	指定した受信者数のメッセージを検索します。
元の ID	元の ID でメッセージを検索します。
元の場所	受信ボックスや下書きフォルダなど、元のフォルダの場所に従ってメッセージを検索します。
保存セット ID	保存セット (.DVS) ファイルに割り当てられた ID に従ってメッセージを検索します。
ボルト権限	アクセス権を持つすべてのフォルダ内のメッセージを検索します。

属性を選択すると、Discovery Accelerator によって、事前定義済みの値がその他のフィールドに自動的に追加されます。

4 名前、表示名と説明が正しいことを確認します。

サードパーティのソフトウェアが SMTP アイテムの X-Header に追加した属性のために EVXHDR 接頭辞を追加します。属性名に。たとえば、EVXHDR.X-CompanyID。

5 [種類]一覧で、Discovery Accelerator 検索でカスタム属性のオプションの表示に使うユーザーインターフェースの要素を選択します。これにより追加のフィールドが表示され、追加のオプションを設定できます。

オプションは次のとおりです。

単一の行	単一の行フィールドによりユーザーは短いテキストの文字列を入力するか、または編集できます。
複数の行	複数の行テキストボックスによりユーザーが複数の行にわたる長い文字列を入力するか、または編集できます。
チェックボックス	<p>チェックボックスは正方形のボックスで、チェックマークを付いたりはずしたりすることでオプションを有効または無効にします。チェックボックスは複数選択できます。</p> <p>カスタム属性に複数のチェックボックスを設定する場合は、[カラムサイズ]フィールドを使って 1 列にグループ化するチェックボックスの数を指定します。列サイズが小さく、チェックボックスが複数ある場合、1 行あたりの列が複数になることがあります。すべてのチェックボックスを 1 行で表示するには、[カラムサイズ]をチェックボックス数以上に設定します。</p> <p>チェックボックスのオプションに値を割り当てるには、[新規の値]をクリックし、オプションの値とラベル付けする名前を入力します。[選択済み]を選択し、デフォルトで選択されるオプションにマークを付けます。</p>
ラジオボタン	<p>ラジオボタンを使って、一組の相互に排他的な、関連するオプションの中で選択を行います。ユーザーはオプションをただ 1 つのみ選択できます。[カラムサイズ]フィールドはオプションをどのようにグループ化するかを示すために使い、[値]領域はオプションに値を割り当てるために使います。[選択済み]を選択し、デフォルトで選択されるオプションにマークを付けます。</p>
リスト	<p>リストを使うと、常に表示されるリストに示される値のセットから選択できます。</p> <p>[複数選択]を選択すると、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらリストから複数のアイテムを選択できます。[新規の値]をクリックして、リストのエントリに値を割り当てます。[選択済み]はデフォルト値です。</p>

ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストは閉じている状態のリストで、リストの横に矢印が付きます。矢印をクリックするとリストが開きます。

[新規の値]をクリックして、リストのエントリに値を割り当てます。[選択済み]はデフォルト値です。

次の点に注意してください。

- カスタム属性に関連付ける値を指定する場合は、値を二重引用符で囲みます。
 - 属性の種類によっては、値の限定に使う演算子を選択できます。複数の演算子を選択するには、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押したまま目的の演算子をクリックします。演算子について詳しくは **Enterprise Vault API** のマニュアルを参照してください。
- 6 [データの種類]ドロップダウンリストで、カスタム属性に割り当てる値に必ず適合するデータ形式を指定します。オプションは、文字列、番号、日付です。
- 7 [保存]をクリックします。

アドレスマネージャを使った対象電子メールの定義

Discovery Accelerator で検索を設定するときに定義できる基準に、アイテムの検索に使う電子メールアドレスがあります。従業員が複数の電子メールアドレスを持っている場合には、検索を設定するたびにすべての電子メールアドレスを入力しなくても済むようにするには、アドレスマネージャの対象エントリにその電子メールアドレスを追加できます。検索基準に対象名を指定すると、すべての関連するアドレスを簡単に一覧表示できます。

対象グループは、グループ名で多数のユーザーをまとめる方法です。この名前を使って、ユーザーの一覧を簡単に参照できます。たとえば、「Directors」という対象グループを作成し、会社のすべての取締役の名前をそのグループに追加します。検索を作成する場合に、すべての名前を個別に一覧表示する代わりに、「Directors」対象グループに送信されたアイテムを検索できます。複数の対象グループに対象を追加できます。

カストディアンマネージャ Web サイトを通して詳細を指定できるカストディアンとカストディアングループとは異なり、対象と対象グループは **Active Directory** などの外部ソースと同期しません。

対象と対象グループは、すべてのケースに利用可能となるアプリケーションレベルと、個々のケースレベルに設定できます。

対象の設定

付与された権限によって、アプリケーション全体の対象 (すべてのケースで利用可能)、またはケース固有の対象を追加できます。

アプリケーション全体の対象を追加するには、グローバル対象と対象グループ管理権限が必要です。また、ケース固有またはフォルダ固有の対象を追加するには、対象管理権限が必要です。

対象を設定する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーション全体の対象を追加するには、**Discovery Accelerator** クライアントの [カストディアン] タブをクリックし、次に [アドレスマネージャ] タブをクリックします。
 - ケース固有の対象を追加するには、[ケース] タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。それから [アドレスマネージャ] タブをクリックします。
- 2 ペインの先頭で [新規対象] をクリックします。
[新規対象] ペインが表示されます。

- 3 対象の名と姓を入力します。
名は省略可能ですが、姓は必須です。
- 4 **Discovery Accelerator** での対象名の表示方法を修正する場合、[表示名] フィールドに目的の名前を入力します。

- 5 [電子メールアドレス] フィールドに、対象のすべての電子メールアドレスを入力します。
1 行に各アドレスを入力します。
- 6 [保存] をクリックします。

対象グループへの対象の追加

いくつかの対象を設定した後、その対象を組み合わせでグループにすることができます。

アプリケーション全体の対象グループに対象を追加するには、グローバル対象と対象グループ管理権限が必要です。また、ケース固有またはフォルダ固有のグループに対象を追加するには、対象管理権限が必要です。

対象を対象グループに追加する方法

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーション全体の対象グループを追加するには、**Discovery Accelerator** クライアントの[カストディアン]タブをクリックし、次に[アドレスマネージャ]タブをクリックします。

- ケース固有の対象グループを追加するには、[ケース]タブをクリックし、次に左ペインで目的のケースをクリックします。それから[アドレスマネージャ]タブをクリックします。
- 2 ペインの先頭で[新規対象グループ]をクリックします。
[新規対象グループ]ペインが表示されます。

- 3 グループの名前と省略可能な説明を入力します。
- 4 [追加]をクリックし、次にグループに追加する対象を選択します。
対象を選択するために次の方法を使います。
- ある特定の文字を含むすべての名前を検索するには、それらの文字を[フィルタ]フィールドに入力し、[検索]をクリックします。
フィルタを削除するには、[フィルタ]フィールドに入力した文字を削除し、[検索]を再度クリックします。
 - 隣接した複数の対象を選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲の最初と最後の対象をクリックします。隣接していない複数の対象を選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的の対象をクリックします。
 - リストのすべての名前を選択するには、**Ctrl+A** を押します。

終了したら、[OK]をクリックします。

5 [保存]をクリックします。

Discovery Accelerator 検索スケジュールの作成

検索は、すぐに実行したり、スケジュール設定して後で実行したりすることができます。たとえば、オフピーク期間に広範な検索を実行したり、同じ検索を繰り返して実行したりする必要がある場合には、この機能が便利です。スケジュール設定の検索を作成するには、最初に検索スケジュールを定義し、検索基準の 1 つとして選択します。

メモ: SQL Server エージェントサービスが検索スケジュールの管理を担当するため、このサービスが実行されていることを確認する必要があります。SQL Server エージェントサービスの設定方法について詳しくは『インストールガイド』を参照してください。

新しい検索スケジュールの設定

新しい検索スケジュールを設定するには、スケジュール管理権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

新しい検索スケジュールを設定する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[検索スケジュール]タブをクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックします。
[スケジュールの詳細]ペインが表示されます。

- 3 スケジュールの名前と、必要に応じて説明を入力します。
- 4 [有効化]を選択すると、新しい検索基準を定義するときスケジュールを選択できるようになります。
- 5 目的のスケジュールの種類を選択します。オプションは次のとおりです。

SQL Server エージェントの起動時に起動	SQL Server エージェントサービスの起動直後に実行されます。
CPU がアイドル状態のときに起動	システムがアイドル状態のときに実行されます。CPU アイドルスケジュールについて詳しくは SQL Server Management Studio のヘルプでジョブのスケジュール設定に関する説明を参照してください。

1 回 スケジュールに設定した時刻に 1 回のみ実行されます。このオプションを選択すると、さらにいくつかのフィールドが表示されます。[日付]フィールドをクリックして、目的の日付を選択します。[時刻]フィールドに、24 時間式の時刻を「*hh:mm*」という形式で入力します。

反復 スケジュールに指定した間隔で自動的に実行されます。

- [実行]。日、週、月単位の間隔を定義します。
- [日単位の間隔]。指定した期間にスケジュール実行する頻度を定義します。
- [期間]。指定した日の特定の期間に対するスケジュールの制限を定義します。

スケジュールタイプが[1 回]または[反復]の検索では、指定する時間はクライアントコンピュータではなく、Discovery Accelerator サーバーの時間です。

6 [保存]をクリックします。

検索の反復スケジュールの例

次のスケジュールを使う検索は、スケジュールに指定した間隔で自動的に実行されます。

現在から毎日午前 2 時に実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [日単位]を選択し、[間隔: n 日ごと]フィールドに 1 と入力します。
- 2 [次の頻度で 1 回実行]を選択し、[(時刻)]フィールドに 02:00:00 と入力します。
- 3 [終了日なし]を選択します。

3 月 1 日から 8 月 2 日までの期間に月曜日の午前 9 時から午後 6 時まで、3 時間おきに実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [週単位]を選択し、[月]を選択します。
- 2 [実行頻度]を選択し、3 と入力して、[時間]を選択します。
- 3 [開始時刻]フィールドに 09:00 と入力し、[終了時刻]フィールドに 18:00 と入力します。
- 4 [開始日]に 3 月 1 日、[終了日]に 8 月 2 日を選択します。

現在から隔月の 1 日午後 9 時に実行するスケジュールを作成する方法

- 1 [月単位]と[日]を選択し、[日]フィールドに 1、[カ月ごと]フィールドに 2 と入力します。
- 2 [次の頻度で 1 回実行]を選択し、[(時刻)]フィールドに 21:00 と入力します。
- 3 [終了日なし]を選択します。

Discovery Accelerator を使ってアーカイブされた Skype for Business コンテンツの検索

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault がアーカイブした Skype for Business の対話を検索できます。ただし、Discovery Accelerator はこれを実行するために Skype for Business ユーザーのセッション開始プロトコル (SIP) のアドレスを必要とします。

ユーザーの SIP アドレスが SMTP アドレスと異なる場合、または SIP アドレスしかない場合、Active Directory からの SIP アドレスを取得するように Discovery Accelerator を設定する必要があります。Discovery Accelerator はこのアドレスを通常の処理の一部として取得して、ユーザーのプロファイルを対応する Active Directory アカウントと同期できます。

Active Directory から SIP アドレスを取得するように Discovery Accelerator を設定する方法

- 1 Discovery Accelerator サーバーで Accelerator マネージャの Web サイトを開きます (http://server_name/EVBAAdmin)。
- 2 ページの下部にある[システム設定]をクリックします。
- 3 [グローバル設定]ページで、[設定]リストの[プロファイルの同期]を選択します。
- 4 [Active Directory と同期するときに SIP アドレスを取得する]オプションを[オン]に設定します。

手動によるアイテムのレビュー

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator](#) を使ったレビューについて
- レビューペインについて
- レビューペインのアイテムのフィルタ処理
- レビューセット内での検索
- 同じ対話のすべてのアイテムの検索
- アイテムへのレビューマークとタグの割り当て
- コメントのアイテムへの追加
- アイテムの履歴の表示
- アイテムの印刷可能バージョンの表示
- 元のアイテムのダウンロード
- クリップボードへのアイテムリストのコピー
- [Enterprise Vault](#) アーカイブからのアイテムの削除
- レビューペインの概観の変更
- レビューペインのユーザー設定の設定

Discovery Accelerator を使ったレビューについて

検索を実行して関連する可能性のあるアイテムを収集した後、選択された個人が検索結果をレビューできます。アイテムを確認した後で、レビューアが適切な状態マークをアイテムに割り当て、必要に応じてコメントを追加します。アイテムを複数回レビューしたり、他のレビューアがコメントを追加したり、割り当てられたマークを変更したりできます。

一部のアイテムに、選択可能なタグという追加マークを付ける場合があります。これらのタグは、レビューペインの下部にあり、通常は主に裁判官からの質問に応じて設定されます。

アイテムをレビューするには、レビュー権限が必要です。

レビューペインにアクセスする方法

- ◆ Discovery Accelerator クライアントの[レビュー]タブをクリックします。

特定の種類の Skype for Business コンテンツのレビューの制限事項

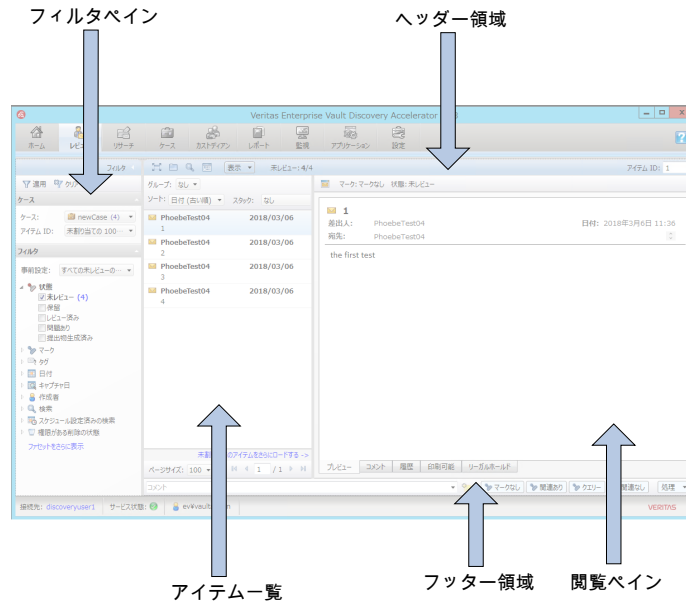
Enterprise Vault 12.2 以降には、Skype for Business インスタントメッセージと会議の通信をアーカイブする機能があります。Enterprise Vault はこの通信を個別の電子メール (.eml) ファイルとしてアーカイブします。これは、Discovery Accelerator で Instant Messaging メッセージタイプになります。

Skype for Business の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、Enterprise Vault がインデックスを作成できない Microsoft 社独自の XML フォーマットで保存されます。これは、ホワイトボードと投票が Discovery Accelerator の[レビュー]ペインに表示される方法に次のように影響します。

- アイテムのコンテンツが XML 添付ファイルとして格納されます。
- ホワイトボードの印刷可能バージョンのプレビューまたは表示は行えません。投票の質問は表示できますが、それらへの回答は表示できません。

レビューペインについて

レビューペインはレビューセットのアイテムを見直し、マーク付けすることを可能にします。ペインは次の領域に分かれています。



以下のセクションでは、レビューペインの各領域について説明します。詳しくは、ホワイトペーパー『[Effective Reviewing](#)』で確認することもできます。

以下のセクションでは、レビューペインの各領域について説明します。

- 「ヘッダー領域」
- 「フィルターペイン」
- 「アイテム一覧」
- 「閲覧ペイン」
- 「フッター領域」

ヘッダー領域

ヘッダー領域には、ビューをカスタマイズするオプションと別のアイテムを選択して表示するオプションが表示されます。



Discovery Accelerator のウィンドウの上部のボタンバーを隠すことによってレビューペインを最大化します。このボタンを再度クリックすると、ボタンバーが復元されます。



詳細な調査を行うためにリサーチフォルダにコピーしたアイテムを表示できます。

p.141 の「[リサーチフォルダについて](#)」を参照してください。



現在選択されているアイテムに基づく検索を実行できます。



レビューペインの環境設定を設定します。

p.138 の「[レビューペインのユーザー設定の設定](#)」を参照してください。

表示

閲覧ペインを隠したり位置を変更したり、ペインに表示するテキストのサイズを設定したりすることができます。

未レビュー

リストのうち、まだレビューしていないアイテム数を示します。

アイテム

ハイライトされたアイテムの **Discovery Accelerator ID** を表示します。レビュー対象のアイテムの **ID** を知っていたら、それをここに入力し、**Enter** キーを押してそのアイテムを表示します。

グループ

日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってリストのアイテムをグループ化します。

左の下矢印ボタンまたは上矢印ボタンのクリックによってグループのアイテムを表示するか、または隠します。

ソート

アイテムをグループ化しないことを選択したリストでは日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってアイテムをソートできます。

スタック

レビューセットの重複アイテムと類似アイテムを表示または非表示にできます。**Discovery Accelerator** は、内容がまったく同じであるとき、アイテムが重複であると見なします。**Discovery Accelerator** が類似と見なすアイテムは、メタデータのプロパティ（作成者の表示名、件名と添付ファイルの数など）が同じです。

重複アイテムを表示または非表示にするオプションは、分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能です。ただし、類似アイテムを表示または非表示にするオプションは、分析に対して有効かどうかに関係なく、すべてのケースで利用可能です。

[スタック]フィールドでオプションを選択する前にアイテムをソートすれば、[スタック]オプションを選択した後、アイテムは元のソート順で表示されないことがあります。たとえば、これは、最初にアイテムを[作成者]列によってソートし、次に[スタック]オプションの 1 つを選択する場合などです。

Discovery Accelerator での重複排除機能について詳しくはホワイトペーパー『[Accelerator Deduplication](#)』を参照してください。



現在のアイテムを原型でダウンロードし、適切なアプリケーションで開きます。またアイテムを右クリックして[元の表示]をクリックすることによってアイテムをダウンロードできます。



選択アイテムと同じ件名を持つ、すべてのアイテムを検索します。この機能は **Exchange** メールアイテムの階層表示も行います。



印刷のために現在のアイテムを送信します。

マーク

現在のアイテムに割り当て済みのマークを示します。

状態

現在のアイテムの状態を表示します。

フィルタペイン

フィルタペインはリストのアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。フィルタの各オプションの隣の番号は、選択したフィルタを適用するとき **Discovery Accelerator** がアイテムリストに追加する一致するアイテム数を示します。

p.122 の「[レビューペインのアイテムのフィルタ処理](#)」を参照してください。

アイテム一覧

アイテム一覧は選択したフィルタのオプションと一致するレビューセット内のアイテムを示します。リストの下部にあるコントロールを使用してアイテムのページをめくったり、ページごとに表示するアイテムの最大数を指定します。未レビューアイテムは太字で表示されます。

色が青になっているアイテムはいずれも、ケースに関連付けられているリサーチフォルダにあります。

メモ: **Discovery Accelerator** はアイテムの日時の値を協定世界時 (UTC) として格納します。ただし、アイテムリストと右の[プレビュー]ペインでは、コンピュータのローカルタイムゾーンの設定に従ってこれらの値を変換します。その結果、異なるタイムゾーンの 2 人の **Discovery Accelerator** レビューアに対して、同じアイテムに異なる日時が表示されることがあります。

これは予測どおりの動作であり、**Microsoft Outlook** などのアプリケーションがアイテムの日時を表示する方法と同じです。

閲覧ペイン

閲覧ペインの下部のタブには次の機能があります。

プレビュー

現在のアイテムの **HTML** のプレビューを表示します。

コメント

現在のアイテムにレビューアが割り当てたコメントを示します。

履歴	現在のアイテムのコメントと監査履歴を表示します。
印刷可能	現在のアイテムの印刷可能バージョンを表示します。
リーガルホールド	現在のアイテムの保存に関する情報を表示し、ユーザーが Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除しないようにします。

フッター領域

フッター領域には、あるアイテムから別のアイテムにナビゲートする機能とマークとコメントをアイテムに適用する機能があります。



レビューするアイテムの最初のページを表示します。



レビューするアイテムの前のページを表示します。**Alt+z** キーを押すと同じ機能を実行できます。

n (m)

現在表示されているページの番号とページの合計数を示します。特定のページに移動するには、フィールドに番号を入力して **Enter** キーを押します。



レビューするアイテムの次のページを表示します。**Alt+x** キーを押すと同じ機能を実行できます。



レビューするアイテムの最後のページを表示します。

コメント	コメントを入力して選択されたアイテムに追加できます。 アイテム一覧では、1 つ以上のコメントがアイテムに追加されると [存在するコメント] 列にコメントインジケータ記号が表示されます。
マークなし、関連あり、クエリー、関連なし	選択されたアイテムに必要なマークを付けます。

アクション

選択したアイテムに以下の処理を実行できる追加オプションが表示されます。

Discovery Accelerator でのロールによって、これらのオプションが利用可能かどうかが決まります。



選択したアイテムにタグ (補助的なマーク) を適用します。

タグとマークの相違点は、タグはアイテムに複数割り当てることができるが、マークは 1 つのみを割り当てることができるという点です。さらに、アイテムにマークを割り当てることで、それに関連付けされた状態も割り当てることになります。これは関連付けされた状態がないタグの場合には適用されません。



Discovery Accelerator が選択アイテムの自動分類に使ったマークまたはタグを受け入れます。



現在のレビューセットの選択アイテムまたはすべてのアイテムのコピー先リサーチフォルダを選択します。



レビューセットまたは **Enterprise Vault** アーカイブから 1 つ以上のアイテムを削除します。

レビューペインのアイテムのフィルタ処理

レビューペインの左側にあるオプションは、レビューを行うアイテムをフィルタ処理できる多数の基準を提供します。

レビューペインのアイテムをフィルタ処理する方法

- 1
- フィルタペインの先頭の[ケース]ドロップダウンリストで、レビューセットにアイテムを表示するケースまたはフォルダを選択します。
- 2
- [アイテム]ドロップダウンリストで、レビューするアイテムのグループを選択します。オプションは次のとおりです。





一時的な割り当て	このオプションでは、レビューセット内の特定の数のアイテムを予約できます。作業が完了するまで、他のレビューアはこれらのアイテムを参照できません。
すべてのアイテム	このオプションでは、アイテムが他のレビューアに割り当てられている場合でも、レビューセットのすべてのアイテムを表示できます。 このオプションを使うと、他のレビューアの作業と重複することがあります。したがって、他のレビューアが同時に作業していない場合、またはマーク付けせずにアイテムを参照する場合にのみこのオプションを選択することを推奨します。
マイアイテム	このオプションでは、ケース管理者によって割り当てられたアイテムをレビューできます。










- 3
- 選択したケースで分析を有効にした場合は、[検索]領域の機能を使って指定した基準に一致するアイテムを検索します。

p.126 の「[レビューセット内での検索](#)」を参照してください。

- 4
- [フィルタ]セクションでは、適用するファセット(アイテムの分類)を選択します。利用可能な値を表示するには、ファセットの名前または名前の左側にある矢印をクリックします。

次の表は利用可能なすべてのファセットをリストしたものです。

	添付ファイルの種類	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)アイテムに添付されたファイルの種類を基準にアイテムを選択します。
	Author	アイテムを送信した人の名前を基準にアイテムを選択します。 分析に対して有効なケースの場合、電子メールアドレスまたはドメインを基準に作成者を選択することもできます。
	キャプチャ日	指定した期間に Discovery Accelerator がキャプチャしたアイテムを選択します。
	コメント	レビューアがコメントを追加したアイテムを選択します。

	日付	作成された日付を基準にアイテムを選択します。
	Direction	<p>指定した方向に送受信されたアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [内部]。作成者とすべての受信者が組織内部の人間であるアイテムを選択します。 ■ [外部インバウンド]。作成者が組織外部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織内部の人間であるアイテムを選択します。 ■ [外部アウトバウンド]。作成者が組織内部の人間で、受信者のうち少なくとも 1 人が組織外部の人間であるアイテムを選択します。
	取り込みの状態	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)アイテムが Enterprise Vault アーカイブから Discovery Accelerator のカスタマーデータベースに取り込まれた状態を基準にアイテムを選択します。
	マーク付けの最終実行者	アイテムに最後にマークを割り当てたレビューアを基準にアイテムを選択します。
	リーガルホールドの状態	ケースでのリーガルホールドの状態を基準にアイテムを選択します。
	マーク	レビューアがアイテムに割り当てたマークを基準にアイテムを選択します。
	ルールによるマーク付け	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)自動的にアイテムにマークを付けるために使ったルールを基準にアイテムを選択します。
	添付ファイルの数	アイテムの添付ファイルの数を基準にアイテムを選択します。
	権限がある削除の状態	<p>Enterprise Vault アーカイブからの削除の状態を基準にアイテムを選択します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ なし。アーカイブから削除されていないアイテムを選択します。 ■ 保留中の削除。アーカイブからの削除がキューに登録されたアイテムを選択します。 ■ 削除に失敗しました。Discovery Accelerator が削除に失敗したアイテムを選択します。 ■ 正常に削除されました。アーカイブから削除されたアイテムを選択します。
	ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーによってアイテムを選択します。

	ポリシーの処理	<p>ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。この処理は次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [含める](レビューセットのキャプチャを要求または提案する)。 ■ [除外](レビューセットのキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)。
	受信者	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)受信者の名前、電子メールアドレス、ドメインを基準にアイテムを選択します。
	スケジュール設定済みの検索	1 つ以上のスケジュール設定済みの検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
	検索	1 つ以上の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
	サイズ (KB)	サイズ (KB) を基準にアイテムを選択します。
	状態	アイテムの状態([保留]、[問題あり]など)を基準にアイテムを選択します。
	タグ	レビューアがアイテムに割り当てたタグを基準にアイテムを選択します。
	ルールによるタグ付け	(分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能)自動的にアイテムにマークを付けるために使ったルールを基準にアイテムを選択します。
	種類	種類を基準にアイテムを選択します。

次の点に注意してください。

- 各ファセット値にはハイパーリンクが設定されています。このハイパーリンクをクリックすると、その値が選択され、それに応じてただちにアイテム一覧がフィルタ処理されます。フィルタから削除するには、再びそのファセット値をクリックします。同じファセット内で 1 つ以上の値がすでに選択されている場合は、別の値をクリックすると他の値が選択解除されます。ただし、別のファセット内で選択されている値は影響を受けません。
- ファセット値の横にある数字は、一致するアイテムの数を示します。フィルタの適用後、アイテム一覧に存在するアイテムの数を示す数字が **Discovery Accelerator** によって更新されます。たとえば、最初の状態では、[作成者]ファセット値にレビューセット全体の一致するアイテムの数が表示されているとします。その後、[状態]ファセット値を[未レビュー]に設定してからこのフィルタを適用すると、[作

成者]の値が更新され、各作成者の未レビューのアイテムの数のみが表示されます。

ファセット値がイタリック体のフォントで表示される場合、一致するアイテムは現在のアイテム一覧に存在しません。

- 1 つのファセットに 2 つ以上の値を選択すると、**Discovery Accelerator** はいずれかの値に一致するアイテムを検索します。たとえば、[保留]と[問題あり]の両方の値を選択することで、そのいずれかの状態にあるすべてのアイテムを表示するように選択できます。
2 つ以上の異なるファセットに値を選択すると、**Discovery Accelerator** はすべてのファセットに一致するアイテムを検索します。たとえば、[状態]の値に[保留]、[種類]の値に[Exchange]を選択すると、状態が[保留]で、かつ種類が[Exchange]であるアイテムのみが一致します。
- ファセットに選択可能な値が多数ある場合は、**Discovery Accelerator** は最も関連のある値の簡略一覧を表示します。一覧の最後にある青いハイパーリンクをクリックすることによって、さらに値をリストに追加できます。
- レビューペインのアイテムのフィルタ処理で同じファセット設定を頻繁に使う場合は、[事前設定]フィールドの右にある[保存]ボタンをクリックすることによって、その設定を事前設定として保存できます。その後、ドロップダウンリストから事前設定を選択することによってこの設定を簡単に適用できます。
- ファセット値を右クリックすることによって、アイテムにマークを適用できます。たとえば、特定の作成者を基準にすべてのアイテムにマーク付けするには、一覧にあるその作成者の名前を右クリックしてから[アイテムをすべてマーク付け]をクリックします。

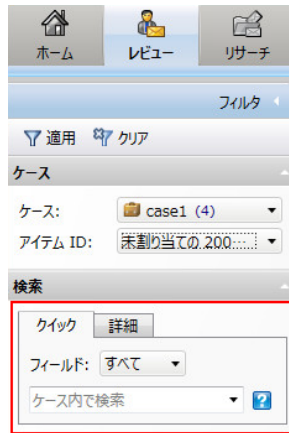
5 フィルタペインの先頭で[適用]をクリックします。

分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能な機能を使った場合は、「取り込みが部分的であるため、結果が不完全である可能性があります。」というメッセージが表示されることがあります。これは、取り込まれたアイテムの数がケースのアイテムの合計数と異なる場合に表示されます。たとえば、分析に対してケースを有効にする前に、ケースのアイテムの一部が **Enterprise Vault** から削除された可能性があります。

レビューセット内での検索

分析に対してケースが有効になると、レビューペインの左側にある[フィルタ]領域には、レビューセット内のアイテムの検索を実行できる追加オプションが表示されます。クイック検索と詳細検索の 2 種類の検索が利用可能です。

図 9-1 レビューペインの[クイック検索]タブと[詳細検索]タブ



クイック検索の実行

クイック検索機能を使って、[差出人]や[件名]など、検索する 1 つ以上のフィールドと必要な値を指定します。

次の表にクイック検索機能と、検索でその機能を使う方法の例を示します。

表 9-1 クイック検索の機能

機能	例
ブール演算子	bill AND sue bill OR bob bill AND NOT "bill smith"
カッコ	(bill OR sue) AND (bill OR bob)
NEAR 演算子	stock NEAR price
検索範囲	from:bob AND (subject:stock OR subject:"share price")
ワイルドカード	stock* OR share*

クイック検索を実行する方法

- 1 レビューペインの左側にある[検索]領域の[クイック]タブで検索範囲を設定します。次のいずれかの操作を実行できます。

- [フィールド]一覧で、必要なメッセージ属性を選択します。たとえば、レビューセット内のすべてのアイテムの件名と本文を検索するには[件名または内容]を選択します。
- [ケース内で検索]フィールドに **all**、**from**、**to**、**fromto**、**subject**、**content**、**subjcont** のいずれかの属性キーワードを入力し、その後ろにコロンと検索する単語またはフレーズを入力します。たとえば、作成者が **Bob** のアイテムを検索するには **from:Bob** と入力します。

2 つ目の検索範囲の設定方法が 1 つ目の方法よりも優先されます。

- 2 [フィールド]一覧で属性を選択することによって検索範囲を設定した場合は、[ケース内で検索]フィールドに検索する単語またはキーワードを入力します。
- 3 [適用]をクリックします。

クイック検索の基準は保存できないことに注意してください。ただし、[クイック]タブには最近実行した検索の履歴が残ります。この履歴には特定のケースではなく、分析を有効にしたすべてのケースの検索が含まれます。

詳細検索の実行

詳細検索機能を使うと、複数の条件を含む複合検索を構築できます。クイック検索とは異なり、詳細検索は保存して再利用できます。

詳細検索を実行する方法

- 1 レビューペインの左側にある[検索]領域の[詳細]タブで[新規検索]をクリックします。

[詳細検索]ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスには、分析ルールを構築するのに使うことができるビジュアルルールビルダーとの多くの共通点があります。

- 2 検索の名前と説明を入力します。
- 3 [検索ビルダー]領域で、アイテムが満たす必要のある 1 つ以上の条件を定義します。条件を定義するには、次の手順を実行します。
 - [選択属性]ドロップダウンリストで、検索するアイテムの属性を選択します。たとえば、アイテムの件名を検索する場合は[件名]を選択します。
p.57 の「[検索属性について](#)」を参照してください。
 - 次のドロップダウンリストで、選択した属性に適用する演算子を選択します。たとえば、属性を[件名]に設定した場合、**Contains** 演算子を選択して件名に特定の語句が含まれるアイテムを検索できます。
p.67 の「[演算子について](#)」を参照してください。
 - 属性に目的の値を設定します。たとえば、属性が[件名]で演算子が **Contains** の場合は、**Secret** と入力して件名にこの単語を含むアイテムを検索できます。次の点に注意してください。

- 検索文字列には、アンダースコア文字以外の区切り文字を含めることはできません。
- 検索文字列の末尾にワイルドカード文字としてアスタリスク (*) を追加できます。
- **SQL Server** では、「the」や「and」などのよく出現する語句はインデックス付けされないため、検索文字列にこれらの語句があっても、**Discovery Accelerator** は無視します。**SQL Server** のストップワードファイルを編集すると、この動作を上書きできます。
p.69 の「**SQL Server のストップワードについて**」を参照してください。

- 属性を[件名]、[内容]、[件名または内容]に設定した場合、検索ステミングのオンとオフの切り替えを選択します。
ステミングを使うと、指定した単語から派生した単語に一致させることができます。たとえば、単語「run」は「running」と「ran」に一致します。ステミングを使う条件ではワイルドカード文字を使うことはできません。
- 必要に応じて、[+]ボタンをクリックして条件を保存して別の条件を追加します。たとえば、指定した作成者が[作成者]フィールドに含まれ、指定した文字列が[件名]フィールドに含まれるアイテムを検索する場合があります。
[および]または[または]ボタンを使って2つの条件の関係を定義します。[および]はアイテムが両方の条件に一致する必要があることを示し、[または]はアイテムが1つの条件に一致してももう一方の条件に一致するとは限らないことを示します。
- 条件を削除する場合は、行の右にある[-]ボタンをクリックします。

条件を追加すると、条件は[検索クエリー]領域に表示されます。クエリー言語に詳しい場合は、構文を手動で編集してより複雑なクエリーを構築できます。

p.72 の「**手動での分析ルール定義言語 (RDL) のクエリーの編集**」を参照してください。

- 4 カストディアンマネージャを使って 1 つ以上のカストディアンまたはカストディアングループを定義した場合、それらの検索方法を指定するには[検索条件の設定]領域のフィールドを使います。各ケースで、電子メールアドレス、表示名、またはその両方を検索できます。カストディアングループの場合、リストの名前や電子メールアドレスだけでなく、検索にメンバーを含めるようにグループの配布リストを展開できます。

メモ: Near 演算子を属性[件名]、[内容]、[件名または内容]、[作成者]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[作成者または受信者]に使うと、Discovery Accelerator は配布リストを展開しません。

[検索条件の設定]領域の下で入力する条件は、検索の構築時に利用可能なカストディアン情報を使います。この情報は、検索を再び編集しないと更新されません。たとえば、検索を作成し、[配布リストを展開してメンバーを含める]オプションを選択する場合、その時点でのリストのメンバーが検索とともに保存されます。リストに所属するメンバーがその後変更されても、検索を編集して再び保存するまでその変更は適用されません。

- 5 [保存]をクリックし、次に[適用]をクリックします。

同じ対話のすべてのアイテムの検索

分析に対して有効なケースの場合、Discovery Accelerator はデータを取り込むときにケースのアイテムを分析します。この分析が完了すると、現在の件名と同じ件名があるすべてのアイテムを簡単に検索できます。

対話分析は主としてメールアイテムの件名に基づきますが、分析には対話を定義するその他のメールの属性も含まれます。対話分析のために、Discovery Accelerator はメールの件名を正規化して電子メールクライアントが追加した接頭辞を削除します。たとえば、[RE:]、[Re:]、[Fwd:]、[Antwort:]などは削除されます。正規の状態に戻された後は、Discovery Accelerator に同じ対話の一部と判断されるようにメッセージには同じ件名を使う必要があります。

Outlook 2003 以降で生成されたメッセージでは、対話分析で対話階層を作成することもできます。Outlook 2003 よりも前の Outlook クライアントのアイテムは、階層化されていない一覧でグループ化されます。

対話分析では、「Hello」のように頻繁に使われる電子メールの件名を持つ対話が多く見つかることがあります。この場合、対話ウィンドウには複数の対話のすべての結果が表示され、各対話の階層の最上位アイテムも表示されます。対話には、階層の最上位アイテムを 1,000 まで表示できます。

同じ対話のすべてのアイテムを検索する方法

- 1 レビューペインで、すべての関連するアイテムを検索するアイテムを選択します。
- 2 アイテムを右クリックして[対話の表示]をクリックします。

Discovery Accelerator は別の対話ウィンドウの関連するアイテムをリストします。ウィンドウで、アイテムは送信者か日付によって、また可能な限り、アイテム階層の場所によってソートされます。未レビューアイテムは太字で表示されます。

メモ: ケースまたはフォルダの分析データの取り込みが完了するまで、対話ウィンドウには対話の一部のアイテムが表示されないことがあります。分析データの取り込みが完了した場合でも、**Discovery Accelerator** によってデータが取り込まれなかったアイテムは対話分析の結果に含まれません。

- 3 対話ウィンドウの機能を使ってアイテムを処理します。たとえば、アイテムにマークとタグを適用したり、印刷可能バージョンを表示したり、アイテムをダウンロードまたはコピーできます。

アイテムへのレビューマークとタグの割り当て

レビュー処理の一部として、レビューに問題がなかったこと、または問題があるため問い合わせる必要があることを示す状態マークを各メッセージに割り当てます。

アイテムにマークを割り当てるに加えて、またはマークを割り当てる代わりに、アイテムにタグを割り当てることができます。タグとマークには、次の 2 つの相違点があります。

- タグはアイテムに複数割り当てることができるが、マークは 1 つのみを割り当てることができます。
- アイテムにタグを割り当てても、処理状態は変更されません。この状態が変更されるのは、[関連あり]または[クエリー]のような主要なマークボタンの 1 つをクリックするときのみです。

分析に対して有効なケースの場合、アイテムは分析ルールによってマーク付け、タグ付けされている可能性があります。レビューペインを使ってこれらのアイテムの自動分類を受け入れることができます。

ヒント:

- アイテムリストでは、未レビューアイテムのヘッダーは太字のフォントで表示されます。
- 左ペインのオプションを右クリックして目的のマークを選択することによって、ある特定のフィルタのオプションと一致するすべてのアイテムにすばやくマーク付けできます。
- 一覧ビューのアイテムを右クリックすると、レビューセット内のアイテムに一括でマーク付けする追加コマンドにアクセスできます。

レビューマークまたはタグをアイテムに割り当てる方法

- 1 レビューペインで、マークを付けるアイテムを選択します。

複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。
- 2 次の 1 つ以上の操作をします。
 - マークをアイテムに割り当てるには、ペインの右下にある適切なボタンをクリックします。
しばらくすると、**Discovery Accelerator** によってアイテムの状態が変更されます。
 - タグをアイテムに割り当てるには、読み込みペインの下の[タグ]ボタンをクリックし、次に目的の値を選択します。
 - 分析ルールによってこのケースのアイテムに適用されたマークとタグを受け入れるには、ペインの右下の[処理]をクリックして、[同意]をポイントします。

コメントのアイテムへの追加

アイテムにレビューマークを割り当てるだけでなく、コメントを追加できます。

コメントをアイテムに追加するには

- 1 レビューペインで、コメントを追加する 1 つ以上のアイテムを選択します。
- 2 ペインの下部にある[コメント]フィールドに新規コメントを入力します。
- 3 [コメント]フィールドの右側にあるボタンをクリックします。

Discovery Accelerator はコメントを追加したことを示すためにアイテムリストの[存在するコメント]列にコメントインジケータを表示します。

アイテムに割り当て済みのコメントを表示するために読み込みペインの下部で[コメント]タブをクリックします。また、アイテムリストの列をカスタマイズしてアイテムのコメントを表示する列を追加できます。

アイテムの履歴の表示

Discovery Accelerator では、選択アイテムにレビューアがマークやコメントを割り当てた日時のような選択アイテムの履歴の情報を簡単にアクセスできます。

アイテムの履歴を表示するには

- 1 レビューペインで、履歴を表示するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[履歴]タブをクリックします。

Discovery Accelerator は次の詳細を表示します。

- 件名、日付、送信者と受信者の詳細
- Microsoft Exchange、Bloomberg などのアイテムの種類、アイテムの方向 (内部、外部インバウンドまたは外部アウトバウンド)
- Discovery Accelerator でアイテムをキャプチャしたケース
- Discovery Accelerator でアイテムをキャプチャした日時と方法
- Discovery Accelerator 内のアイテムの ID
- アイテムのアーカイブ元の場合
- アイテムの処理状態の履歴。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。レビューセットからリサーチフォルダにコピーしたアイテムの履歴を表示している場合、状態履歴リストで青になっているイベントは、フォルダにアイテムをコピーする前に実行されました。

メモ: レビューアがアイテムのプレビューや印刷可能バージョンを表示したとき、または元の形式でアイテムをダウンロードしたときにログに記録するには、[アイテム履歴でプレビュー処理をログ記録]設定オプションを設定する必要があります。

p.196 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

処理状態の履歴には、アイテムの削除の状態 (Enterprise Vault からの削除がキューに登録されている、すでに正常に削除されている、または削除に失敗した) も含まれます。削除に失敗した場合は、エラーの理由が状態の履歴に表示されます。状態の履歴には、削除の状態を Discovery Accelerator がログ記録した日付と時刻も表示されます。

- ポリシー管理ソフトウェアがアイテムのタグ付けに使ったポリシーとポリシー処理
- SMTP アイテムの場合は、Enterprise Vault が X-header に追加した属性情報

アイテムの印刷可能バージョンの表示

印刷に適した形式でアイテムの内容を表示できます。

アイテムの印刷可能バージョンを表示する方法

- 1 レビューペインで、印刷するアイテムを選択します。
- 2 読み込みペインの下部で[印刷可能]タブをクリックします。

Discovery Accelerator はアイテムの印刷可能バージョンを表示します。

アーカイブからアイテムを削除した場合、Discovery Accelerator にそのメタデータが表示されますが、その内容は表示されません。

- 3 印刷のためにアイテムを送信するには閲覧ペインの先頭で[印刷]ボタンをクリックします。

元のアイテムのダウンロード

アイテムから作成される HTML を表示するほかに、元の形式でコンピュータにアイテムをダウンロードできます。レビューアが割り当てたコメントなどの監査情報はダウンロードされたアイテムには含まれません。アイテムと監査情報の両方を取得する場合は、Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートする必要があります。

アイテムの元のバージョンをダウンロードする方法

- ◆ レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - ダウンロードするアイテムをクリックし、次に読み込みペインの上の[元のアイテムの表示]ボタンをクリックします。
 - アイテムを右クリックして[元の表示]をクリックします。

Discovery Accelerator によってアイテムがコンピュータにダウンロードされ、適切なアプリケーションを使って表示されます。

クリップボードへのアイテムリストのコピー

アイテムリストの 1 行またはすべての行を Windows のクリップボードにコピーして、Microsoft Excel などの表計算アプリケーションに貼り付けることができます。コピー情報には、各アイテムの Enterprise Vault 保存セット ID など、Discovery Accelerator のリストには表示されない追加情報が含まれます。アイテムリストの一部の列を非表示に設定したとしても、すべての情報がコピーされます。

クリップボードへアイテムリストをコピーする方法

- 1 レビューペインで次のいずれかの操作をします。
 - アイテムリストの単一行をコピーするには、行を右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。

- すべての行をコピーするには、最初に **Ctrl+A** を押してすべての行を選択します。それから右クリックして[アイテムの詳細をクリップボードにコピーします]をクリックします。
- 2 情報を貼り付けるアプリケーションを開きます。
- 3 通常の方法で情報を貼り付けます。

Enterprise Vault アーカイブからのアイテムの削除

権限がある削除が許可されている場合は、Enterprise Vault からアーカイブ済みアイテムを削除できます。デフォルトでは、規制レビューアロールを持つユーザーにのみ、この権限が割り当てられます。

「忘れられる権利」などのデータ保護の法律に従うためにアーカイブからアイテムを削除する必要がある場合など、場合によっては[権限がある削除]の使用が必要になります。ケースレビューセットにアイテムをフェッチし、削除対象としてマークすると、アーカイブから簡単に削除できます。

アイテム一覧の選択したアイテム、レビューセットのすべてのアイテム、または特定の作成者のすべてのアイテムを削除することができます。

レビューセットのアイテムを削除の状態に基づいてフィルタ処理できます。削除に失敗したアイテムのリストを取得して削除用に再送信する場合に便利です。


Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除するには


- 1 [レビュー] ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 選択したアイテムを削除するには、アイテムの一覧でこれらのアイテムを選択し、次に[処理]、[削除]の順にクリックします。
隣接した複数のアイテムを選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。
 - すべてのアイテムを削除するには、アイテム一覧の任意の場所を右クリックし、[セットからすべての <n> アーカイブ済みアイテムを削除]をクリックします。


- 特定の作成者のすべてのアイテムを削除するには、アイテムの一覧から、その作成者の任意のアイテムを右クリックし、[<n> からのこのセットのすべてのアーカイブ済みアイテムを削除]をクリックします。

2 アイテムを削除することを確認します。

アイテム一覧の[削除の状態]列のアイコンにより、各アイテムの削除の状態が示されます。

 アイテムは **Enterprise Vault** からの削除のキューに登録されています。

 アイテムが正常に削除されました。

 アイテムの削除に失敗しました。[履歴]タブで失敗の理由を確認できます。

p.241 の「[権限がある削除エラーのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

削除した後にアイテムをレビューする場合の制限事項

表 9-2 に、アイテムの削除の状態に基づく[レビュー]ペインで使用可能な機能を表示します。

表 9-2 アイテムの削除後に[レビュー]ペインで使用可能な機能

機能	保留中の削除	正常に削除されました
マーク	いいえ	いいえ
プレビュー	はい	いいえ
コメントの追加	いいえ	いいえ
コメントの表示	はい	はい
印刷可能バージョンの表示	はい	いいえ
元のバージョンのダウンロード	いいえ	いいえ

これらの機能は[対話]ウィンドウでも同様に動作します。削除に失敗したアイテムではこれらの機能は通常どおり動作することに注意してください。

レビューペインの概観の変更

作業方法に合うように、またアイテムをすばやく見つけるのに役立つように、レビューペインの外観をカスタマイズできます。

表 9-3 レビューペインをカスタマイズする方法

用途	操作
利用可能空間を占有するためにレビューペインを展開します。	アイテムリストの上の[レビュー画面の展開]ボタンをクリックします。
読み込みペインの位置を変更します。	次にアイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのレイアウト]をポイントし、目的の位置を選択します。 メインウィンドウの下部か右側に読み込みペインを置くか、またはそれをメインウィンドウから取り外し、新しいウィンドウで内容を表示することができます。
読み込みペインのテキストのサイズを変更します。	アイテムリストの上の[表示]をクリックし、[読み込みペインのテキストのサイズ]をポイントし、目的のサイズを選択します。
アイテムリストの列を表示または非表示にします。	アイテムリストの列見出しを右クリックし、[列を選択]をポイントし、表示または非表示にする列を選択します。それから[変更を適用]をクリックします。
アイテムリストのアイテムをソートします。	列のエントリによってアイテムをソートするためにアイテムリストの列見出しをクリックします。 列見出しの矢印の方向はエントリがソートされるのは昇順かまたは降順かを示します。
日付、作成者、件名、またはポリシー処理によってアイテムをグループ化します。	アイテムリストの上の[グループ]フィールドで目的のオプションを選択します。 グループの左側にある矢印をクリックしてグループのアイテムを表示または非表示にします。
1 ページに表示するアイテムの最大数を指定します。	アイテムリストの下の[ページサイズ]フィールドで、対象となるアイテムの数を選択します。

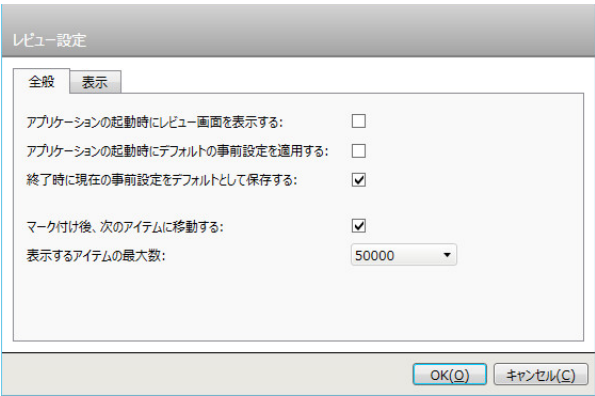
レビューペインのユーザー設定の設定

Discovery Accelerator が提供する広範な機能を使って、レビューペインの外観と操作をカスタマイズできます。

レビューペインのユーザー設定を設定する方法

- 1 レビューペインのヘッダー領域の[レビュー設定]ボタンをクリックします。

[レビュー設定]ダイアログボックスが表示されます。



2 [全般]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

アプリケーションの起動時にレビュー画面を表示する	選択すると、 Discovery Accelerator を起動したときにレビューペインに直接進むことができます。
アプリケーションの起動時にデフォルトの事前設定を適用する	選択すると、アイテム一覧のアイテムにデフォルトのフィルタのオプションが適用されます。
終了時に現在の事前設定をデフォルトとして保存	選択すると、レビューペインのためのデフォルトオプションとして現在のフィルタのオプションを保存します。
マーク付け後、次のアイテムに移動	選択すると、アイテムにマーク付けするときに、 Discovery Accelerator によってリストの次のアイテムが自動的に表示されます。
表示するアイテムの最大数	レビューペインで表示できるアイテム数の制限を設定します。

3 [表示]タブで目的のオプションを選択します。オプションは次のとおりです。

フォント	レビューペインのすべてのボタンとラベルで使うフォントを設定します。
アイテム一覧のフォント	アイテム一覧で使うフォントを設定します。
読み込みペインのフォント	読み込みペインで使うフォントを設定します。

アイテム一覧の表示の種類	<p>Discovery Accelerator が単一行または複数行のどちらのレイアウトで一覧にアイテムを表示するかを指定します。複数行レイアウトでは、アイテム情報は 2 行以上で表示されます。最初の行には送信者が表示され、2 行目にはアイテムのヘッダーの[件名]フィールドのテキストが表示されます。</p> <p>[自動]を選択すると、単一行でヘッダーを表示するには画面の領域が不足している場合に Discovery Accelerator は自動的に複数行レイアウトに切り替えます。</p>
読み込みペインの検索語をハイライト	<p>検索語のハイライトを有効または無効にします。</p>
テキスト入力にポップアップを使う	<p>レビューペインのテキスト入力フィールド ([コメント]フィールドなど) に文字を入力するときの動作を指定します。このオプションを選択すると、文字を入力する際に別のポップアップウィンドウにその文字が表示されます。これによって、新しい文字の入力時にも前の文字は表示されたままになるため、一度にすべての文字を表示できます。</p>
処理ボタンのテキストを表示しない	<p>選択すると、プレビューペインの下にある処理ボタンのテキストラベルは削除されます。</p>
読み取りペインに元の場所を表示する	<p>選択すると、現在のアイテムのアーカイブ元の場所に関する追加情報がプレビューペインの上に表示されます。</p>

4 [OK]をクリックします。

リサーチフォルダを使った作業

この章では以下の項目について説明しています。

- [リサーチフォルダについて](#)
- [リサーチフォルダの作成](#)
- [リサーチフォルダのプロパティの編集](#)
- [アイテムのリサーチフォルダへのコピー](#)
- [リサーチフォルダのアイテムのレビュー](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート](#)
- [リサーチフォルダへのアクセス権の付与](#)
- [リサーチフォルダからのアイテムの削除](#)
- [リサーチフォルダのケースへの変換](#)
- [フォルダの削除](#)

リサーチフォルダについて

1 つ以上のリサーチフォルダを作成すると、他のレビューアに追加の作業をさせることなく、対象となるアイテムのみを作業できます。たとえば、インサイダー取引の疑いのある事実を追跡しているとします。大量の検索結果を他のレビューアが参照できるレビューセットに追加せずに、リサーチフォルダから検索を実行し、その結果をリサーチフォルダに格納できます。そして、通常の方法でアイテムをレビューしてマーク付けしたり、オフラインでレビューするためにそのアイテムをエクスポートしたりすることができます。

リサーチフォルダは、ケースとほぼ同じ機能を提供します。ケースと同様に、フォルダの分析を有効にすることができます。ただし、ケースとは異なり、フォルダではアイテムにリーガルホールドを適用することはできません。また、フォルダのアイテムにマーク付けするときに選択できるのは、アプリケーション全体のマークとタグのみです。

必要に応じて、他のユーザーと一緒にレビューを行えるように、他のユーザーに自分のリサーチフォルダへのアクセス権を付与することもできます。ユーザーに付与された権限によって、フォルダからアイテムをエクスポートできるかどうか、アイテムを検索して追加できるかどうか、アイテムをレビューしてマーク付けできるかどうかが決まります。

リサーチフォルダの作成

Discovery Accelerator ではフォルダを作成するためのいくつかの方法を提供しています。次に説明する方法の他にも、検索基準を定義するとき、検索結果を受け入れるとき、アイテムをレビューするときにも新しいフォルダを作成できます。

ケースに接続しないフォルダを作成するには、リサーチフォルダを作成権限が必要です。デフォルトでは、この権限はどのロールにも関連付けされていません。

リサーチフォルダを作成するには

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。

- 3 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
フォルダのプロパティペインが表示されます。

- 4 [名前]フィールドで、フォルダ名を入力します。
- 5 [ケース]フィールドで、フォルダを関連付けするケースを選択します。このケースでのアドホック検索実行権限が必要です。
または、ケースに接続しないフォルダを作成するために <マイリサーチ> を選択します。
- 6 フォルダからエクスポートするアイテムを格納する場所を指定します。
- 7 ケースに接続しないフォルダを作成することを選択したらアイテムを検索するボルトストアを選択します。ボルトストアを検索に含めるか除外するには、各ボルトストアの横のボックスを選択またはクリアします。
- 8 [保存]をクリックします。

リサーチフォルダのプロパティの編集

フォルダのプロパティを変更する必要がある場合は、次の手順に従ってプロパティを変更できます。他のユーザーのフォルダの名前を変更する場合は、そのフォルダの所有権が必要です。

リサーチフォルダのプロパティを編集する方法

- 1 [リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、編集するフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]をクリックします。
- 4 必要に応じてフォルダを編集します。
- 5 [保存]をクリックします。

アイテムのリサーチフォルダへのコピー

アイテムの詳細なリサーチを行うために、レビューセットから個人用フォルダにアイテムをコピーできます。そのアイテムをレビューしてマーク付けし、オフラインでレビューするためにアイテムをエクスポートしたり、コピーされたアイテムに関連するアイテムを検索したりすることができます。

アイテムをレビューセットから自分のフォルダにコピーするには、そのケースのアドホック検索実行権限が必要です。デフォルトでは、ケースの管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

アイテムをリサーチフォルダにコピーする方法

- 1 レビューペインで、フォルダにコピーする 1 つ以上のアイテムを選択します。
複数の隣接したアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のアイテムをクリックします。隣接していないアイテムを選択するには、最初のアイテムをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のアイテムをクリックします。すべてのアイテムを選択するには、**Ctrl+A** を押します。
- 2 プレビューペインで[処理]をクリックして、[コピー]をポイントします。
- 3 アイテムをコピーするコピー先フォルダを選択します。
- 4 選択したアイテムのみをコピーするか、レビューセット内のすべてのアイテムをコピーするかを選択します。
- 5 [コピー]をクリックします。

リサーチフォルダのアイテムのレビュー

フォルダ内のアイテムは、レビューセット内のアイテムをレビューする方法とまったく同じ方法でレビューできます。

フォルダのアイテムをレビューするには、そのフォルダのレビュー権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールまたはフォルダレビューロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダのアイテムをレビューする方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、レビューするアイテムのフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、通常の方法でアイテムをレビューします。

p.117 の「[レビューペインについて](#)」を参照してください。

リサーチフォルダからのアイテムのエクスポート

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムをエクスポートする必要があります。アイテムは PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などのいくつかの形式でエクスポートできます。HTML 形式でエクスポートすると、各アイテムのレビューマーク情報もエクスポートされます。

アイテムは、エクスポートしても状態が変わらないため、エクスポート後も処理を続けることができます。

ケースにリンクされないフォルダからアイテムをエクスポートするには、リサーチアイテムのエクスポート権限が必要です。フォルダがケースにリンクされている場合、そこからアイテムをエクスポートするには、そのフォルダでの提出物生成権限が必要です。

リサーチフォルダからアイテムをエクスポートするには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、一部のアイテムをエクスポートするフォルダをクリックします。
- 3 [エクスポート]タブをクリックします。
- 4 [新規作成]をクリックします。

- 5 実行に必要な詳細情報とフィルタ情報を入力します。

Discovery Accelerator は、クライアントを実行するコンピュータのフォルダではなく、Discovery Accelerator サーバーのフォルダにアイテムをエクスポートします。同じ出力フォルダとエクスポート実行名を使って複数回実行すると、Discovery Accelerator は実行するたびにレポート概略を上書きします。そのため、実行することにより異なる名前を設定することを推奨します。

出力フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。

- 6 [適用]をクリックします。
- 7 特定の数のアイテムをエクスポートするために[OK]をクリックします。
- 8 処理が終了するのをしばらく待ってから、Discovery Accelerator サーバーの出力フォルダを参照し、エクスポートされたアイテムを取り込みます。

リサーチフォルダへのアクセス権の付与

他のユーザーにロールを割り当てることによって、他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与できます。たとえば、フォルダのアイテムのレビューとマーク付けを行うユーザーは、そのフォルダのレビューロールを持っている必要があります。他のロールでは、フォルダからアイテムをエクスポートすることと、新しいアイテムを検索してフォルダに追加することができます。フルコントロールロールでは、これらのすべての権限が 1 つのロールに統合されます。

他のユーザーに自分のフォルダへのアクセス権を付与するには、そのフォルダのロールの割り当て権限が必要です。デフォルトでは、フォルダフルコントロールロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダへのアクセス権を他のユーザーに付与する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アクセス権を付与するフォルダをクリックします。
- 3 [ロールの割り当て]タブをクリックします。
- 4 ロールを割り当てるユーザーの名前をクリックします。

ユーザーがリストに表示されなければ、ペインの先頭で[追加]をクリックし、次にそれに追加するユーザーを選択します。
- 5 右ペインで次のいずれかの操作をします。
 - 新しいロールを割り当てるために[追加]をクリックします。
 - 選択したロールを削除するために[削除]をクリックします。
- 6 [保存]をクリックします。

リサーチフォルダからのアイテムの削除

アイテムが不要になった場合、そのアイテムをリサーチフォルダから削除できます。

リサーチフォルダからアイテムを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するアイテムがあるフォルダをクリックします。
- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [レビューに移動]をクリックします。
- 5 レビューペインで、削除する 1 つ以上のアイテムを選択します。

隣接した複数のアイテムを選択するには、**Shift** キーを押しながら範囲内の最初と最後のアイテムをクリックします。隣接していない複数のアイテムを選択するには、**Ctrl** キーを押しながら目的のアイテムをクリックします。

- 6 プレビューペインの下にある[削除]ボタンをクリックします。
- 7 選択したアイテムのみを削除するか、フォルダ内のすべてのアイテムを削除するかを選択します。
- 8 [削除]をクリックします。

リサーチフォルダのケースへの変換

メモ: 既存のケースに添付されないリサーチフォルダのみ、ケースに変換できます。

リサーチフォルダの情報がケースに対して有効であると判断した場合、フォルダをケースに変換できます。この処理によって、フォルダ内のすべてのアイテムにリーガルホールドが自動的に適用されます。

新しく作成されたケースは、**Discovery Accelerator 10.0.1** 以降を使用してソースリサーチフォルダを作成した場合、データのエンコードと暗号化に関する米国政府の連邦情報処理標準 (FIPS) に準拠しています。ただし、FIPS に準拠していない古いバージョンの **Discovery Accelerator** でフォルダを作成し、**Discovery Accelerator 10.0.1** 以降でケースに変換しても、ケースは FIPS 準拠にはなりません。

フォルダをケースに変換するには、リサーチをケースに移行権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

リサーチフォルダをケースに変換する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、ケースに変換するフォルダをクリックします。

- 3 [プロパティ]タブをクリックします。
- 4 [ケースに移行]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[ケースに移行]をクリックします。

フォルダの削除

フォルダが不要になった場合、そのフォルダを削除できます。

フォルダの分析を有効にした場合は、分析を個別に無効にする必要があります。そうしない場合、関連する分析データは **SQL** サーバーに残されます。ケースにリンクされるフォルダは、ケースを削除する前に分析に対して無効にする必要があります。

フォルダを削除するには、フォルダ削除権限が必要です。

フォルダを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[リサーチ]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、[すべてのリサーチ]をクリックします。
- 3 削除する 1 つ以上のフォルダを選択します。

複数の隣接したフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Shift** キーを押しながら最後のフォルダをクリックします。隣接していないフォルダを選択するには、最初のフォルダをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら追加のフォルダをクリックします。すべてのフォルダを選択するには、**Ctrl+A** を押します。

- 4 [削除]をクリックします。
- 5 続行する場合は、[フォルダの削除]をクリックします。

アイテムのエクスポートと提出物生成

この章では以下の項目について説明しています。

- アイテムのエクスポートと提出物生成について
- エクスポートと提出物生成の違い
- エクスポート実行または提出物生成実行
- 同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について
- 特定のアイテムの重複を含んでいるアーカイブの識別
- エクスポート実行と提出物生成実行を最適化する方法
- エクスポート ID または通し番号を **Microsoft Outlook** で表示

アイテムのエクスポートと提出物生成について

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを **Discovery Accelerator** からエクスポートする必要があります。**Discovery Accelerator** は内容のエクスポート用に多数のファイル形式をサポートしています。すべての内容を、元の形式で、または内容から作成される **HTML** としてエクスポートできます。

特定の種類のコンテンツのエクスポートの制限事項

特定の種類のコンテンツを **HTML** 形式でエクスポートする際には、次の制限事項に注意します。

- 電子メールメッセージに埋め込まれたイメージは、これらのメッセージの **HTML** エクスポートでは正しく表示されない場合があります。最適な結果を得るために、埋め込

みイメージが含まれるメッセージを元の形式でエクスポートするか、単一の個人用フォルダ (.pst) ファイルにカプセル化することをお勧めします。

- **Skype for Business** の通信には、ユーザーが会議中に共有するホワイトボードと投票を含めることができます。この会議の 2 つの機能のコンテンツは、**Enterprise Vault** がインデックスを作成できない **Microsoft** 社独自の **XML** フォーマットで保存されます。その結果、**Discovery Accelerator** レビューセットからホワイトボードの **HTML** レンダリングをエクスポートすると、その内容は空白になります。同様に、投票の **HTML** エクスポートにも、投票の質問に対する回答は含まれませんが、質問自体は含まれます。

エクスポートと提出物生成の違い

アイテムのエクスポートは、次の点がアイテムの提出物生成と異なります。

- **Discovery Accelerator** は生成されたアイテムをロックしますが、エクスポートされたアイテムはロックしません。
- アイテムをエクスポートした後、割り当て済みのマークや状態を変更できます。ただし、アイテムを生成した後に、マーク付けしたり、または状態を変更することはできません (ただし、引き続きレビューペインに表示できます)。同じアイテムが別のケースでキャプチャされている場合、そのケースでの状態には影響がありません。
- 個々のアイテムは複数回エクスポートできますが、アイテムが生成できるのは 1 回のみです。

エクスポートは、オフラインでレビューするための機能で、**Discovery Accelerator** からアイテムをコピーするための正式な方法ではありません。

レビュー処理の終了まで提出物生成の実行を待つ必要がありません。レビューを終えたアイテムの提出物はいつでも生成できます。それ以降のアイテムの提出物は、レビューした後で生成を実行できます。同じ出力フォルダと生成実行名を使って複数回実行すると、**Discovery Accelerator** は実行するたびにレポート概略を上書きします。

誤って削除するなど、提出物生成を実行した後で提出物を生成したファイルに問題が生じた場合は、アイテムの提出物を再生成できます。ただし、正常にアイテムの提出物を生成した場合は、処理を取り消すことはできません。

エクスポート実行または提出物生成実行

アイテムをオフラインでレビューしたり、第三者に証拠として提示する場合は、アイテムを **Discovery Accelerator** からエクスポートする必要があります。出力形式は **PST**、**Domino NSF** データベース、**HTML**、**MSG**、**ZIP** などの複数の形式から選択できます。アイテム自身およびその処理状態の履歴の両方をエクスポートする場合は **HTML** にエクスポートします。この履歴は、アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビュー

ア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。

選択アイテムをエクスポートすることに加えて、**Discovery Accelerator** はまた HTML 形式、平文形式と **XML** 形式のレポートを出力します。3 つのすべてのレポートには、エクスポートしたアイテムが一覧表示されます。さらに、HTML レポートではそれらのアイテムへのハイパーリンクが提供されます。

アイテムの提出物を生成またはエクスポートするには、提出物生成権限が必要です。

エクスポートまたは提出物生成を実行する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[ケース]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、アイテムをエクスポートするケースをクリックします。

Discovery Accelerator によって大量のケースが一覧表示される場合は、ペインの上部のフィールドを使って一覧をフィルタ処理できます。ケースを名前でフィルタ処理するだけでなく、それらと関連付けされるリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを選択できます。

- 3 [エクスポート/提出物生成]タブをクリックします。
- 4 ウィンドウの先頭で[新規作成]をクリックします。
[エクスポートの詳細]ペインが表示されます。

エクスポートの詳細

名前:

出力フォルダ:

種類: ☐ 提出物生成 ☒ エクスポート

アイテムの選択

アイテム ID:

元のソース: ☒ Microsoft Exchange ☐ インスタントメッセージ ☐ SMTP
☐ Domino ☐ Bloomberg ☐ 未指定/v.6 より前のアイテム
☐ ファイルシステム ☐ FAX ☐ SharePoint
☐ IMAP (インターネットメール) ☐ ソーシャル

ポリシーの処理: ☒ 含める ☒ 除外する ☒ 処理なし ☒ 指定しない

アイテム:

検索:

マーク:

マーク付けの最終実行者:

現在の状態:

ポリシー:

オプション

重複アイテムの除外: ☐

ジャーナル受信者をレポートに含める: ☐

名前を付けてエクスポート: ☒ 元の種類 ☐ HTML ☐ Zip

アイテムのエクスポート先: ☐ MSG/EML ☒ PST

PST パスワード:

PST サイズ (MB):

- 5 [名前]フィールドで、実行の名前を入力します。
ここに指定する名前は **Discovery Accelerator** が実行からの出力を格納するサブフォルダの名前になります。
- 6 [出力フォルダ]フィールドで、実行からの出力を格納する **Discovery Accelerator** サーバーのフォルダへのパスを入力します。
フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。
Discovery Accelerator は、指名したフォルダのサブフォルダの実行からの出力を保存します。
- 7 選択したアイテムの提出物を生成するか、エクスポートするかを選択します。
[提出物生成]を選択した場合、[提出物生成の詳細]フィールドが表示され、提出物の ID 接頭辞と開始シーケンス番号を設定できます。これはケースの作成時に設定しますが、ここで変更できます。接頭辞には 10 文字まで含めることができますが、スペースや ¥ / * ? | < > などの記号を含めることはできません。
- 8 [アイテムの選択]フィールドで、エクスポートするアイテムを選択します。

オプションは次のとおりです。

アイテム ID	エクスポートする各アイテムの ID を指定します。アイテムの ID を指定するには、レビューペインのアイテムを表示します。
元のソース	Microsoft Exchange または Domino のような種類によってアイテムを選択します。
ポリシーの処理	<p>ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使ったポリシーの処理によってアイテムを選択します。</p> <p>この処理は次のいずれかです。[含める] (キャプチャを要求または提案する)、[除外] (キャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進する)、[処理なし] (アイテムは通常のランダムサンプリングの対象である)。</p>
アイテム	レビューセット内のすべてのアイテムをエクスポートするか、割り当てられているアイテムのみをエクスポートするかを指定します。
検索	特定の検索によりキャプチャされたアイテムを選択します。
マーク	レビューアがアイテムに割り当てたマークを基準にアイテムを選択します。
マーク付けの最終実行者	アイテムに最後にレビューマークを割り当てたユーザーを基準にアイテムを選択します。
現在の状態	アイテムの状態 ([保留]、[問題あり]、[レビュー済み] など) を基準にアイテムを選択します。
ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがタグ付けに使った特定のポリシーによってアイテムを選択します。

- 9 [オプション] ボックスで、必要に応じて [重複アイテムの除外] または [類似アイテムの除外] を選択します。Discovery Accelerator は、内容がまったく同じであるとき、アイテムが重複であると見なします。Discovery Accelerator が類似と見なすアイテムは、メタデータのプロパティ (作成者の表示名、件名と添付ファイルの数など) が同じです。

重複アイテムを除外するオプションは、分析に対して有効なケースの場合にのみ利用可能です。類似アイテムを除外するオプションは、分析に対して有効でないケースの場合にのみ利用可能です。

Discovery Accelerator での重複排除機能について詳しくはホワイトペーパー『[Accelerator Deduplication](#)』を参照してください。

- 10** Exchange または SMTP ジャーナルアイテムのジャーナルエンベロップ (P1) の受信者情報をエクスポートレポートに含める場合は、[ジャーナル受信者をレポートに含める]を選択します。これには、受信者が[宛先]、[CC]、[BCC]のいずれのフィールドで指定されているかに関係なく、各アイテムのすべての受信者がリストされます。

Discovery Accelerator では、Domino ジャーナルアイテムの受信者情報は含まれません。

- 11** アイテムを元の形式でエクスポートするか、HTML としてエクスポートするか、ZIP ファイルで収集するかを選択します。
- [元の種類]をクリックすると Microsoft Exchange アイテムは個別の MSG ファイルとして出力し、SMTP アイテムは個別の EML ファイルとして出力するか、または個人用の単一フォルダの(.pst)ファイルにすべてカプセル化できます。
[PST]をクリックすると、Discovery Accelerator にファイルのパスワードと最大ロールオーバーサイズを設定できる追加オプションが複数表示されます。パスワードは英数字のみを含むことができます。各 PST ファイルのデフォルトサイズは 600 MB です。20 GB を超えることはできません。
 - [HTML]をクリックすると、Discovery Accelerator にコメントや処理状態の履歴を含めることを選択できる追加オプションが複数表示されます。この履歴は、各アイテムのプレビューまたは印刷可能バージョンを表示したレビューア、アイテムの元のバージョンをダウンロードしたレビューア、マーク付けしたレビューア、およびレビューアがそれらを行った日時を識別します。

メモ: レビューアがアイテムのプレビューや印刷可能バージョンを表示したとき、または元の形式でアイテムをダウンロードしたときにログに記録するには、[アイテム履歴でプレビュー処理をログ記録]設定オプションを設定する必要があります。

p.196 の「[レビューの設定オプション](#)」を参照してください。

- [Zip]をクリックすると、各 ZIP ファイルの最大ロールオーバーサイズを設定できます。デフォルトは 1024 MB (1 GB)です。
ZIPファイルにすべての種類のアイテムをエクスポートできます。ただし、Domino アイテムをエクスポートする場合は最初に Discovery Accelerator でアイテムを Domino NSF データベースに収集してから ZIP ファイルに追加します。
- 12** [エクスポートするアイテムの数]フィールドでは、必要なアイテムの数を入力します。Discovery Accelerator が最も古いアイテムをエクスポートすることに注意してください。たとえば、100 のアイテムをエクスポートすることを選択した場合、Discovery Accelerator は選択したオプションと一致する 100 の最も古いアイテムをエクスポートします。

重複アイテムや類似アイテムを除外することを選択したら、それらのアイテムはエクスポートされるアイテムの数に加算されません。Discovery Accelerator は指定の数の重複のないアイテムのみをエクスポートします。

- 13 ファイルシステムアイテムまたは Domino アイテムをエクスポートするときに、変更または誤って削除できないようにそれらのアイテムを読み取り専用にする場合は、[読み取り専用]を選択します。
- 14 [適用]をクリックします。
- 15 エクスポートが終了したら、Discovery Accelerator サーバーの出力フォルダを開いて、エクスポートされたアイテムを取り込みます。また、このフォルダはエクスポートしたアイテムをリストするレポートを含んでいます。

同時エクスポート実行数または提出物生成実行数の制限について

デフォルトでは、4 つまでの実行を同時に行うことができます。追加の実行を行おうとした場合、Discovery Accelerator はアクティブな実行のいくつかを完了するまでキューにそれらを保持します。それからそれらを開始した順序で追加の実行を行います。実行の最大数がすでに進行中の間、優先度が高い実行を行う必要があれば、開始できるように Discovery Accelerator の管理者にそれらの実行の 1 つを停止するように頼むことができます。

Discovery Accelerator 管理者は次の[エクスポート/提出物生成]設定オプションを設定することによって行うことが可能である同時実行の最大数を変更できます。

- 提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数
- カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数

これらの設定オプションにアクセスするには、Discovery Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。行うことができる同時実行の最大数は[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数]を[提出物生成実行ごとの低提出物生成スレッドの数]で割ったものです。

p.183 の「[エクスポートまたは提出物生成の設定オプション](#)」を参照してください。

特定のアイテムの重複を含んでいるアーカイブの識別

エクスポート実行か提出物生成実行を実行するとき、レビューセットの重複アイテムを除外することを選択できます。特定のアイテムの重複を含んでいるすべてのアーカイブを識別する場合には、Discovery Accelerator カスタマーデータベースに対して SQL クエリーを実行することによって行うことができます。

特定のアイテムの重複を含んでいるアーカイブを識別する方法

- 1 SQL Server コンピュータで、SQL Server Management Studio を起動します。
- 2 [SQL Server Management Studio] ウィンドウの左ペインで、目的の **Discovery Accelerator** カスタマーデータベースが表示されるまでツリーを展開します。
- 3 カスタマーデータベースをクリックし、次に[新しいクエリ]をクリックします。
- 4 次のクエリーを入力し、次に[実行]をクリックします。

```
Declare @ItemID nvarchar(50)
Declare @ProductionID int
Declare @DAID BigInt

Set @ItemID = 'エクスポート ID または通し番号'
Set @ProductionID = エクスポート実行または提出物生成実行の ID

SELECT @DAID = DiscoveredItemID
      FROM tblProductionToDiscoveredItem
      WHERE ProductionID = @ProductionID and ExportID = @ItemID
SELECT dbo.fx_GetDuplicateItemArchives (@DAID,@ProductionID)
      As ArchiveList
```

それぞれの内容は次のとおりです。

ItemID 重複アイテムを識別します。エクスポートID (エクスポートされたアイテムの場合) または通し番号 (生成されたアイテムの場合) を指定できます。次に例を示します。

```
Set @ItemID = '000622'
```

エクスポートIDか通し番号を判断するには、エクスポートレポートまたは提出物生成レポートでアイテムの詳細を調べます。

ProductionID 重複アイテムを含んでいるエクスポート実行か提出物生成実行を識別します。次に例を示します。

```
Set @ProductionID = 57
```

エクスポート実行か提出物生成実行のIDを判断するには、エクスポートレポートまたは提出物生成レポートの概略情報を確認します。

クエリーは指定のアイテムの重複を含んでいるアーカイブのリストを戻します。

エクスポート実行と提出物生成実行を最適化する方法

アイテムのエクスポートまたは提出物生成時に最善の結果を得るには、次のガイドラインに従ってください。

- **Discovery Accelerator** サーバーにある高速ドライブにエクスポートします。
- 一度に複数のエクスポートを実行しないようにします。これが回避できない場合は、異なるドライブに各実行からの出力を格納します。
- 可能な場合、元の形式で電子メールメッセージをエクスポートします。これは、メッセージを 1 つの個人用フォルダの (.pst) ファイルにカプセル化するよりも非常に高速です。
HTML 形式でのアイテムのエクスポートは、必要な場合にのみ行います。
- ケースレビューセットに **Enterprise Vault SMTP** アーカイブ機能がアーカイブした **Exchange** ジャーナルメッセージが含まれる場合は、[類似アイテムの削除]を選択して **Discovery Accelerator** がメッセージの複数のコピーをエクスポートしないようにします。
- 何らかの理由でエクスポートが失敗した場合は、[再エクスポート]機能よりも[再試行]機能を優先して使います。

エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示

エクスポートまたは生成された個人用フォルダ (.pst) ファイルを **Microsoft Outlook** で表示する場合に、**Discovery Accelerator** が各アイテムに割り当てたエクスポート ID または通し番号が表示されると便利な場合があります。**Outlook** の表示にカスタムの列を追加すると、この ID を表示できます。

[PST の[エクスポートID]列の名前]という設定オプションでは、カスタム列のラベルを設定できます。デフォルトのラベルは通し番号です。('通し番号'と表示されます。)

p.183 の「[エクスポートまたは提出物生成の設定オプション](#)」を参照してください。

エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示する方法

- 1 **Outlook** でエクスポートされた .pst ファイルを開きます。
- 2 **Outlook** の列見出しを右クリックし、[フィールドの選択]をクリックします。
- 3 [新規作成]をクリックします。
- 4 [新しいフィールド]ダイアログボックスの[名前]フィールドに「通し番号」を入力して、[OK]をクリックします。
- 5 [フィールドの選択]ダイアログボックスを閉じます。
- 6 **Outlook** の列見出しを右クリックし、[現在のビューの編集]をクリックします。

- 7 [フィールド]をクリックして、[対象となるフィールドグループ]の一覧を選択し、[ユーザー定義フィールド]を選択します。
- 8 表示されたフィールドの一覧に通し番号を追加し、[OK]を 2 回クリックしてダイアログボックスを閉じます。

レポートの作成と表示

この章では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator レポートについて](#)
- [Discovery Accelerator レポートの作成](#)
- [利用可能な Discovery Accelerator のレポート](#)
- [既存のレポートの表示](#)
- [レポートの削除](#)
- [OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表示について](#)

Discovery Accelerator レポートについて

Discovery Accelerator は、ケースの詳細についてレポートするためと、開示要求のコンプライアンスの有効性を確認するための広範な機能を提供します。

レポートを印刷するほかに、XML、カンマ区切り値 (CSV)、Acrobat (PDF)、Web アーカイブ (MHTML)、Excel、TIFF を含む多数の形式でレポートをエクスポートできます。

Discovery Accelerator レポートの作成

新しいレポートを生成するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

Discovery Accelerator レポートを作成する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 ウィンドウの左上で[新規作成]をクリックします。

- 3 [種類]フィールドで、作成するレポートの種類を選択します。
p.160 の「[利用可能な Discovery Accelerator のレポート](#)」を参照してください。
場合によっては、レポートの種類を選択すると、追加のフィールドが表示され、レポートの範囲を定義できます。
- 4 [名前]フィールドで、50 文字までを含む重複しない名前を入力します。
- 5 必要であれば、250 文字までを含む省略可能な説明を入力します。
- 6 残りのレポートのパラメータを設定し、[適用]をクリックします。
- 7 **Discovery Accelerator** がレポートを生成したら、それを表示するために左ペインのレポート名をダブルクリックします。

利用可能な **Discovery Accelerator** のレポート

表 12-1 では、**Discovery Accelerator** に用意されているレポートについて説明します。

表 12-1 利用可能な **Discovery Accelerator** のレポート

レポート名	表示内容
[アーカイブソース]レポート	選択したケース内の Discovery Accelerator 検索を行なった Enterprise Vault アーカイブ。 p.161 の「 [アーカイブソース]レポート 」を参照してください。
[ケースの履歴]レポート	ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行なった検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した Discovery Accelerator のケースの情報。このレポートには、ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除したアイテムに関する情報も示されます。 p.162 の「 [ケースの履歴]レポート 」を参照してください。
[エクスポート実行の重複]レポート	エクスポート実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために Discovery Accelerator によって検出された重複アイテム。 p.164 の「 [エクスポート実行の重複]レポート 」を参照してください。
[アイテムの詳細]レポート	レビューまたは削除の各段階で選択されたケースのアイテム。 p.165 の「 [アイテムの詳細]レポート 」を参照してください。
[リーガルホールド]レポート	Enterprise Vault アーカイブから削除しないように Discovery Accelerator が保存した、選択されているケースのアイテム。 p.165 の「 [リーガルホールド]レポート 」を参照してください。

レポート名	表示内容
[提出物生成実行]レポート	選択したケースの各提出物生成実行とエクスポート実行のアイテム。 p.167 の「[提出物生成実行]レポート」を参照してください。
[提出物生成実行の重複]レポート	提出物生成実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために Discovery Accelerator によって検出された重複アイテム。 p.168 の「[提出物生成実行の重複]レポート」を参照してください。
[提出物生成]レポート	選択したケースに行なった提出物生成実行。 p.168 の「[提出物生成]レポート」を参照してください。
[検索]レポート	選択したケースの有効な受け入れ済みの検索。 p.169 の「[検索]レポート」を参照してください。
[セキュリティ]レポート	選択したケースへのアクセスがあるユーザーとユーザーに関連付けられたロールと権限。 p.171 の「[セキュリティ]レポート」を参照してください。

[アーカイブソース]レポート

[アーカイブソース]レポートは、選択したケース内で **Discovery Accelerator** の検索を行なった **Enterprise Vault** のアーカイブの情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 12-2 [アーカイブソース]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
ボルトストア	アーカイブがあるボルトストア。
アーカイブのヒット	検索が生成したヒット数。
アーカイブの状態	アーカイブが利用可能かどうか。
アーカイブの最も早い日付	アーカイブのアイテムが送信され、受信された最も古い日付。
アーカイブの最新の日付	アーカイブのアイテムが送信され、受信された最新の日付。

[ケースの履歴]レポート

[ケースの履歴]レポートは、ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行った検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した **Discovery Accelerator** のケースの情報を提供します。

[ケースの履歴]レポートは、ケースにアクセスするユーザー、ユーザーが行った検索、レビュー、提出物生成実行を含む選択した **Discovery Accelerator** のケースの情報を提供します。このレポートには、ユーザーが **Enterprise Vault** アーカイブから削除したアイテムに関する情報も示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 12-3 [ケースの履歴]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
ケース	
ケース名/ケース番号	ケースの作成者が割り当てた名前や Discovery Accelerator が割り当てた識別番号。
ケースの作成日	ケースが作成された日付。
リーガルホールドの状態	ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除しないようにケースレビューセットのアイテムが保存中であるかどうか。
ケースのアイテムの総数	ケースレビューセットのアイテムの数。
生成されるアイテム	オフラインレビューのために生成したアイテムの数。
権限がある削除の要求	アーカイブからの削除の各段階にあるアイテムの数。
ロールの名前/ユーザー名	このケースにアクセス可能なユーザーと、ケース内でのロール。
検索	
日付	検索を実行した日付。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
アーカイブの数	Discovery Accelerator が検索したアーカイブの数。
検索の状態	割合で表示される検索の進捗状況。
ヒット数	検索が生成したヒット数。
重複のないヒット数	ケースの他の検索は取り込まず、この検索が取り込んだアイテムの数。

フィールド	表示内容
レビュー	
未レビューのアイテム	レビューがマーク付けしていないケースレビューセットのアイテムの数。
レビューされたアイテム	レビューがマーク付けしたケースレビューセットのアイテムの数。
問題があるアイテム	問題がある状態のケースレビューセットのアイテムの数。
保留中のアイテム	保留の状態のケースレビューセットのアイテムの数。
割り当てられているアイテム	マーキングのためレビューに現在割り当てられているケースレビューセットのアイテムの数。
未割り当てのアイテム	マーキングのためレビューに現在割り当てられていないケースレビューセットのアイテムの数。
提出物生成の履歴/エクスポートの履歴	
日付	提出物生成またはエクスポートが完了した日付。
提出物生成の名前/エクスポート名	提出物生成実行またはエクスポート実行の名前。
提出物生成 ID/エクスポート ID	Discovery Accelerator が提出物生成実行またはエクスポート実行に割り当てた識別番号。
提出物生成/エクスポートステータス	割合で表示される提出物生成実行またはエクスポート実行の進捗状況。
開始 ID/終了 ID	提出物生成実行の最初と最後のアイテムの識別番号。-1 は[なし]を意味します。
提出物生成済みアイテムの数/エクスポート済みアイテムの数	提出物生成実行のアイテムの数。-1 は[なし]を意味します。
検索名	提出物生成のためのアイテムを選択するために使った検索の名前。
マーク	提出物生成のためのアイテムを選択するために使ったレビューマークの名前。
場所	提出物生成されたアイテムまたはエクスポートされたアイテムを検索できるファイルシステムのフォルダへのパス。
権限がある削除	
削除されたアイテム	アーカイブから削除されたケースのアイテムの数。

フィールド	表示内容
削除が失敗したアイテム	アーカイブからの削除に失敗したケースのアイテムの数。
削除が保留中のアイテム	アーカイブからの削除のキューに登録されたケースのアイテムの数。

[エクスポート実行の重複]レポート

[エクスポート実行の重複]レポートには、エクスポート実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために **Discovery Accelerator** によって検出された重複アイテムが一覧表示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 12-4 [エクスポート実行の重複]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator が重複アイテムに割り当てた識別番号。
エクスポート済み DAID の重複	このアイテムが重複するアイテムの識別番号。
SSID	重複アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	重複アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
最新レビューア	この重複アイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアが重複アイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	重複アイテムを送信した日付。
作成者	重複アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	重複アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	重複アイテムの件名。
検索	この重複アイテムと一致する検索。

[アイテムの詳細]レポート

[アイテムの詳細]レポートは選択したケースのアイテムの情報を提供します。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 12-5 [アイテムの詳細]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator がアイテムに割り当てた識別番号。
SSID	アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
送信 / 受信日	アイテムが送信されたか、または受信された日付。
作成者	アイテムを送信した人の電子メールアドレス。
受信者 (切り捨て済み)	アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	アイテムの件名。
最新マーク	レビューアがアイテムに割り当てた最後のマーク。
最新コメント	レビューアがアイテムに割り当てた最後のコメント。
アイテムの削除の状態	アーカイブからのアイテムの削除の状態: [成功]、[保留]、[失敗]。
削除者	削除要求を送信した Discovery Accelerator ユーザーの名前。

[リーガルホールド]レポート

[リーガルホールド]レポートは、**Enterprise Vault** アーカイブから削除しないように **Discovery Accelerator** が保存した、選択されているケースのアイテムの概略を提供します。レポートはケースの詳細とケースで実行した検索の詳細を最初に示します。次に、検索の結果に保存されたアイテムの詳細を示します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 12-6 [リーガルホールド]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
ケース	

フィールド	表示内容
アイテムの総数	ケースレビューセットのアイテムの数。
リーガルホールドの状態	ユーザーが Enterprise Vault アーカイブから削除しないようにケースレビューセットのアイテムが保存中であるかどうか。
リーガルホールドグループ ID	ケースのリーガルホールドの ID。
理由	ケースのアイテムを保留している理由。
リーガルホールドの状態	リーガルホールドの進捗状況。
保存アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留しているアイテムの数。
保存エラーの総数	Discovery Accelerator が保留できないアイテムの数。
削除アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留する前に Enterprise Vault アーカイブから削除されたアイテムの数。
保存アイテムのアーカイブの総数	アイテムを保留しているアーカイブの数。
検索	
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。
検索日	検索を実行した日付。
ヒットの総数	検索基準に一致するアイテムの合計。
重複のないアイテムの総数	ケースの他の検索は取り込まず、この検索が取り込んだアイテムの数。
重複のない保存アイテムの総数	Discovery Accelerator が保留している重複のないアイテムの数。
アーカイブの総数	検索がクエリーした Enterprise Vault アーカイブの数。
アーカイブの詳細	
アーカイブ ID	Enterprise Vault がアーカイブに割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
ボルトストア	アーカイブがあるボルトストア。
保存アイテム数	アーカイブの保留中のアイテムの数。
最も古い日付	保留中のアイテムが送信され、受信された最も古い日付。

フィールド	表示内容
最新の日付	保留中のアイテムが送信され、受信された最新の日付。

[提出物生成実行]レポート

[提出物生成実行]レポートは、選択したケースの各提出物生成実行のアイテムの情報を提供します。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 12-7 [提出物生成実行]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
通し ID / エクスポート ID	アイテムを識別する通し番号またはエクスポート番号。
DAID	Discovery Accelerator がアイテムに割り当てた識別番号。
SSID	アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
状態	このアイテムの提出物生成がどの程度進捗したか。
アーカイブ ID	アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
重複アイテムまたは類似アイテムの数	他のアイテムと重複するか、または類似するため Discovery Accelerator が提出物生成実行から除外したアイテムの数。
最新レビューア	このアイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアがアイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	アイテムを送信した日付。
作成者	アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	アイテムの件名。
検索	このアイテムと一致する検索。

[提出物生成実行の重複]レポート

[提出物生成実行の重複]レポートには、提出物生成実行を行なったときに重複排除を有効にしていたために **Discovery Accelerator** によって検出された重複アイテムが一覧表示されます。

このレポートには次のフィールドがあります。

表 12-8 [提出物生成実行の重複]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
DAID	Discovery Accelerator が重複アイテムに割り当てた識別番号。
エクスポート済み DAID の重複	このアイテムが重複するアイテムの識別番号。
SSID	重複アイテムを含んでいる保存セット (.DVS) ファイルの識別子。
アーカイブ ID	重複アイテムが格納されるアーカイブに Enterprise Vault が割り当てた識別子。
アーカイブ名	Enterprise Vault アーカイブの名前。
場所	アイテムのアーカイブ元であるユーザーのメールボックス内の場所。
最新レビューア	この重複アイテムが割り当てられているレビューア。
最新コメント	レビューアが重複アイテムに割り当てた最後のコメント。
メールの日付	重複アイテムを送信した日付。
作成者	重複アイテムの作成者。
受信者 (切り捨て済み)	重複アイテムの受信者。これは最大 256 文字までのリストなので、完全なリストではないことがあります。
件名	重複アイテムの件名。
検索	この重複アイテムと一致する検索。

[提出物生成]レポート

[提出物生成]レポートは、選択したケースに行なった提出物生成実行の情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 12-9 [提出物生成]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
日付	提出物生成が完了した日時。
名前	提出物生成実行のイニシエータが割り当てた名前。
提出物生成 ID	Discovery Accelerator が提出物生成に割り当てた識別番号。
種類	提出物生成実行またはエクスポート実行のどちらか。
開始 ID/終了 ID	提出物生成の最初と最後のアイテムの識別番号。-1 は[なし]を意味します。
提出物生成済みアイテムの数	提出物生成実行またはエクスポート実行のアイテムの数。
検索名	提出物生成またはエクスポートのためのアイテムを選択するために使った検索の名前。
マーク	提出物生成またはエクスポートのためのアイテムを選択するために使ったレビューマークの名前。
アイテムを除外	提出物生成実行またはエクスポート実行の基準を定義したときに選択した重複アイテムまたは類似するアイテムを除外するオプション。
重複アイテムまたは類似アイテムの数	提出物生成実行またはエクスポート実行で、他のアイテムと重複するか、または類似するアイテムの数。
ジャーナル受信者をレポートに含める	ジャーナルアイテムのジャーナルエンベロープの受信者情報を含めるかどうか。
提出物生成の場所	提出物生成されたアイテムまたはエクスポートされたアイテムを検索できるファイルシステムのフォルダへのパス。

[検索]レポート

[検索]レポートは、選択したケースの有効な受け入れ済みの検索の情報を提供します。このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 12-10 [検索]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
日付	検索を実行した日時。
検索名	検索の作成者が割り当てた名前。検索に使われる基準を表示するには名前をクリックします。

フィールド	表示内容
検索 ID	Discovery Accelerator が検索に割り当てた識別番号。
状態	検索の状態 ([同意の保留]、[進行中]、[同意済み]、[失敗]、[完了]など)。
アーカイブの数	Discovery Accelerator が検索したアーカイブの数。
検索の状態	割合で表示される検索の進捗状況。
ヒット数	検索基準に一致するアイテム数。
重複のないヒット数	ケースの他の検索が取り込まなかった検索済みアイテムの数。
送信者	検索を送信した Discovery Accelerator ユーザーの名前。

次の表に[検索基準]フィールドを示します。

表 12-11 [検索基準]フィールド

フィールド	表示内容
日付範囲	検索基準と一致するようにアイテムが送信されるか、または受信されなければならない日付範囲。
宛先	アイテムの受信者。
差出人	アイテムの送信者。
件名	アイテムの件名で検索する語句。
内容	アイテムのメッセージ本文で検索する語句。
添付ファイルの数	アイテムの添付ファイルの必須の数。
添付ファイルの種類	検索対象となる添付ファイルの種類を表す拡張子。
メッセージサイズ	検索するアイテムのサイズ。
メッセージの種類	検索するアイテムの種類。
保持カテゴリ	Enterprise Vault がアイテムに割り当てた選択済みの保持カテゴリ。
ポリシーの種類	他社のポリシー管理ソフトウェアがアイテムをタグ付けした選択済みのポリシー形式 ([含める]、[除外]、[カテゴリ])。
ポリシー	ポリシー管理ソフトウェアがアイテムにタグを付けるのに使った特定のポリシー。

フィールド	表示内容
ケースでポリシーをフィルタ処理	ケースによってソートするために検索で適用されたフィルタ。

[セキュリティ]レポート

[セキュリティ]レポートは、選択したケースへのアクセスがあるユーザーとユーザーに関連付けされたロールと権限の情報を提供します。

このレポートは次のフィールドを含んでいます。

表 12-12 [セキュリティ]レポートのフィールド

フィールド	表示内容
セキュリティの詳細	
ロール	Discovery Accelerator のセキュリティのロール。
ユーザー名/グループ名	ロールを割り当てたユーザーとグループ。
許可権限	指定したロールを持つ Discovery Accelerator ユーザーとグループに割り当てた権限。
拒否権限	指定したロールを持つユーザーとグループが所有できない権限。ユーザーとグループが他に占有するロールでこの権限が付与されていても所有できません。
ユーザー/グループのロール	
ユーザー名/グループ名	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループの名前。
ユーザー/グループのロール	ユーザーまたはグループを割り当てたロール。
有効な権限	
ユーザー名/グループ名	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループの名前。
ユーザー/グループの有効な権限	Discovery Accelerator ユーザーまたはグループが所有する権限。

既存のレポートの表示

Discovery Accelerator はレポートの内容を表示し、印刷し、Excel、Acrobat (PDF)、XML、カンマ区切り値 (CSV) のような形式でエクスポートすることを容易にします。レポートは、その作成時点におけるデータのスナップショットです。レポートを後で表示してもレポート内のデータは更新されないで、最新のデータを表示する場合は新しいレポートを作成する必要があります。

既存のレポートを表示するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

既存のレポートを表示するには

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 中央のペインで、表示するレポートをクリックします。**Discovery Accelerator** は右側にある[詳細]タブで選択したレポートの情報を提供します。

左ペインのオプションを選択することによって、レポートのリストをフィルタ処理できます。代わりに、中央のペインの先頭の[レポートの検索]フィールドで、レポートの名前や説明で検索するキーワードを入力します。
- 3 レポートの内容を表示するために[プレビュー]タブをクリックします。
- 4 次の 1 つ以上の操作をします。
 - レポート内で、特定のページに移動するか、特定の語を見つけるか、または拡大のレベルを調整するには、プレビューペインの先頭でナビゲーションコントロールをクリックします。
 - レポートをエクスポートするには、対象となる形式を選択し、[エクスポート]をクリックします。**Discovery Accelerator** はレポートファイルのための場所を選択するためにプロンプトを表示します。
 - レポートのコンテンツを更新するには、[更新]をクリックします。
 - レポートを印刷するには、[印刷]をクリックし、次に印刷のオプションを選択します。

レポートの削除

レポートが不要になった場合、そのレポートを **Discovery Accelerator** から削除できます。

レポートを削除するには、レポート表示権限が必要です。デフォルトで、ケースロールのほとんどのユーザーにこの権限があります。

注意: 誤って削除したレポートをリカバリできません。

レポートを削除する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[レポート]タブをクリックします。
- 2 左ペインで、削除するレポートをクリックします。
- 3 ウィンドウの左上で[レポートの削除]をクリックします。
- 4 [はい]をクリックして、レポートを削除することを確定します。

OData Web サービスを使った Discovery Accelerator データセットの表示について

Discovery Accelerator クライアントでレポートを作成したり表示したりするだけでなく、OData (Open Data) Web サービスで Discovery Accelerator の設定情報やカスタマーデータベースを開示できます。必要に応じて、OData と互換性のあるレポートツールでこの情報を使ってレポートを作成できます。このようなレポートツールには Excel/PowerQuery や SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) などがあります。

この機能について詳しくは、『[Best Practices for Enhanced Accelerator Reporting](#)』のホワイトペーパーを参照してください。

利用可能な Discovery Accelerator データセット

表 12-13 には、OData Web サービスを使って表示できる Discovery Accelerator データセットが示されています。

表 12-13 利用可能な Discovery Accelerator データセット

データセット	表示内容
CaseHistory	各ケースレビューセットのアイテムに関する情報と、レビューまたは削除のさまざまな段階におけるアイテムの数。
Cases	すべてのカスタマーデータベースにわたるすべてのケースの情報。
Customers	すべてのカスタマーデータベースの情報。
ExportRunDuplicates	エクスポート実行を実施したときに重複排除を有効にしていたため、Discovery Accelerator が見つけた重複アイテムに関する情報。
ItemDetails	指定したカスタマーデータベースと関連付けられていた 1 つまたはすべてのケースにおけるアイテムすべての情報。
LegalHoldArchives	1 つ以上のアーカイブ内のリーガルホールドの詳細情報。
LegalHolds	Enterprise Vault アーカイブから削除されないように Discovery Accelerator が保留状態にしたアイテムの概略。
LegalHoldSearches	ケースに対して行った検索の詳細情報と、検索結果に保持されているアイテムの詳細情報。

データセット	表示内容
ProductionRun	選択したケースの各提出物生成実行のアイテムの情報。
ProductionRunDuplicates	提出物生成実行を実施したときに重複排除を有効にしているため、Discovery Accelerator が見つけた重複アイテムに関する情報。
Productions	選択したケースに行われた提出物生成実行の情報。
SearchCriteria	特定の検索に使用する検索条件の詳細情報。
SearchDetails	特定の顧客に関する検索の詳細情報。
Searches	指定したケースの、または指定した顧客データベースのすべてのケースの、1 つまたはすべての検索についての情報。
UserRolesAndPermissions	選択したケースにアクセスできるユーザーと、それらのユーザーに関連付けられたルールと権限の情報。

Discovery Accelerator データベースへのアクセス

Web ブラウザのアドレスバーに以下のアドレスをタイプするとデータセットにアクセスできます。いずれの場合も、**server_name** は Discovery Accelerator サーバーソフトウェアをインストールしたサーバーの名前です。

- 利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData`
- 各データセットに含まれるすべてのフィールドと利用可能なすべてのデータセットの一覧にアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData/$metadata`
- 特定のデータセットにアクセスするには、次のようにタイプします。
`http://server_name/DAReporting/OData/dataset_name`

Microsoft Excel での OData サービスの使用

以下の指示は Microsoft Excel 2010 と 2013 を対象としています。Microsoft Power Query for Excel アドインがインストールされていることを確認してください。このアドインは Microsoft 社の Web サイトの次のページからダウンロードできます。

<https://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=39379>

Microsoft Excel で OData サービスを使うには

- 1 Microsoft Excel を開きます。
- 2 新しい空白のワークブックを作成します。
- 3 [Power クエリー] タブで、[外部データを入手] グループの [他のソースから] をクリックして、[OData データフィード] をクリックします。
- 4 [OData フィード] ダイアログボックスページの [URL] ボックスで、次のようにデータフィードの Web サイトアドレスを指定します。

`http://server_name/DAReporting/OData/dataset_name(parameter=value)`

次に例を示します。

`http://da.mycompany.com/DAReporting/OData/CaseHistory(customerID=1005, caseID=5)`

メモ: データセットを表示するために必要な必須パラメータを指定する場合は注意してください。Customers データセットを除いて、すべてのデータセットに必須パラメータがあります。これらについては、各データセットのオンラインヘルプを参照してください。

- 5 資格情報を求められたら、入力してログインします。クエリーエディタが開きます。
- 6 クエリーエディタで、データセットで利用できるレコードを表示します。必要に応じてクエリーを編集します。
- 7 [クローズとロード] をクリックして、Excel のデータセット情報を表形式でインポートします。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) での OData サービスの使用

以下の指示は SSRS (Microsoft SQL Server Reporting Services) を対象としています。

Microsoft SQL Server Reporting Services (SSRS) で OData サービスを使う方法

- 1 レポートビルダを開きます。
- 2 XML 接続タイプとして新規データソースを追加します。

- 3 [接続文字列]ボックスに、次のようにデータフィードの URL を指定します。

`http://server_name/DAREporting/OData/dataset_name(parameter=value)?$format=application/atom+xml`

次に例を示します。

`http://da.mycompany.com/DAREporting/OData/Cases(customerID=1)
 ?$format=application/atom+xml`

- 4 資格情報を入力して、データソースに接続します。
- 5 [OK]をクリックします。
- 6 上記のデータソースを使ってデータセットを追加します。
- 7 [レポートに埋め込まれたデータセットを使う]を選択します。
- 8 リストからデータセットを選択します。
- 9 クエリーを次のように設定します。

```
<Query>
  <ElementPath IgnoreNamespaces="true">
    feed{} /entry{} /content{} /properties
  </ElementPath>
</Query>
```

- 10 [フィールドの更新]をクリックします。
- 11 SSRS レポートのレポートデータとして新規データセットを使います。

Discovery Accelerator の カスタマイズ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Discovery Accelerator システム設定オプションの設定](#)
- [レビューペインの列のカスタマイズ](#)

Discovery Accelerator システム設定オプションの設定

Discovery Accelerator では、アプリケーションの外観とパフォーマンスをカスタマイズする何百もの設定オプションが提供されます。これらの設定オプションは、[表 A-1](#) に示すように、カテゴリに分類されます。

表 A-1 カテゴリごとの設定

カテゴリ	機能
アドホック検索	ユーザーが自身のリサーチフォルダから開始できる検索を設定します。
分析の対話分析	同じ電子メールの対話のアイテムを Discovery Accelerator の分析機能でどのように処理するかを制御します。
分析のデータコレクション	Discovery Accelerator によるケース内のアイテムの分析データの収集方法を制御します。
API	他社のツールが Discovery Accelerator API (Application Programming Interface) を介して Discovery Accelerator データベースのデータを変更する方法を制御します。

カテゴリ	機能
診断	Discovery Accelerator トラブルシューティング機能を有効または無効にします。
文書の変換	Discovery Accelerator がレビューペインのプレビューウィンドウでアイテムを開くことができない場合にレビューペインに表示するエラーメッセージをカスタマイズします。
エクスポート/提出物生成	オフラインでレビューするために Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートまたは提出物を生成するときの出力を設定します。
全般	Discovery Accelerator の一般オプションを設定します。
ホームページ	Discovery Accelerator のホームページの外観を制御します。
アイテムのプリフェッチキャッシング	Discovery Accelerator プリフェッチキャッシング機構の主な設定を行います。この機構はレビューペインのアイテムのレンダリング速度を上げることを目的としています。
アイテムのプリフェッチキャッシング (詳細)	プリフェッチキャッシング機構の詳細な設定を行います。
リーガルホールド	Discovery Accelerator リーガルホールド機構を設定します。この機構を使うと、ケース管理者はケース内の文書とメッセージが削除されるのを防ぐことができます。
ポリシーの統合	Discovery Accelerator をポリシー管理ソフトウェアと統合し、フラグアイテムをレビューセットに含める、またはレビューセットから除外するかを調整します。
権限がある削除	Enterprise Vault アーカイブからのアイテムの削除を設定します。
プロファイルの同期	ユーザープロファイルとそれに対応する Active Directory アカウントまたは Domino ディレクトリアカウントの Discovery Accelerator による同期方法を制御します。
レビュー	レビューペインの外観や機能をカスタマイズします。
検索	Discovery Accelerator の検索機能を最適化します。
セキュリティ	Discovery Accelerator 検索スケジュールの作成者と所有者に SQL Server の sysadmin としてログオンさせるかどうかを選択します。
システム	Enterprise Vault をインストールしてデータのアーカイブを開始した日付などを記録します。
ボルトディレクトリの同期	Discovery Accelerator と Enterprise Vault アーカイブの同期間隔を設定します。

設定を変更するには、システム設定修正権限が必要です。デフォルトでは、ディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーのみにこの権限が割り当てられます。

Discovery Accelerator のシステム設定オプションを設定する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。
- 2 関連付けされた設定を一覧表示するためにセクション名の左のプラス記号をクリックします。

または、ウィンドウの先頭にあるフィルタフィールドに文字を入力し、それらの文字を含んでいる設定オプションの有無を検索します。たとえば **Colour** と入力し、名前にこの単語を含むすべてのオプションを検索します。
- 3 設定の値を変更するには、次の順序で操作します。
 - [値]列の値をクリックします。
 - 目的の値を設定します。
 - [値]列の外をクリックします。
- 4 すべての目的のオプションを設定したら、[保存]をクリックします。
- 5 [再起動が必要]列でチェックマークが付いている設定を変更したら、変更を適用するために **Discovery Accelerator** サーバーの **Enterprise Vault Accelerator** マネージャサービスを再起動します。

アドホック検索の設定オプション

次の設定を使って、ユーザーが作成したリサーチフォルダから検索を開始するように設定できます。

アドホック検索の接頭辞

ユーザーがレビューセットに保存するアドホック検索の名前に追加する接頭辞を指定します。

アドホック検索結果からのヒットの削除を許可

レビューセットに検索を受け入れる前にユーザーがフォルダ検索からアイテムを削除できるかどうかを指定します。デフォルトで、**Discovery Accelerator** はユーザーがアイテムを削除することを可能にします。

監査履歴をコミットせずにアイテムをコミットすることをユーザーに許可

アイテムに関連付けされたレビューマークとコメントをコミットせずに、レビューアがアイテムをリサーチフォルダからレビューセットにコミットできるかどうかを指定します。このオプションは[アイテムのコミット中にすべての監査履歴をコミット]を選択した場合にのみ使われます。デフォルトでは、レビューセットにアイテムをコミットするとき、**Discovery Accelerator** はユーザーがコメントとマークをコミットすると予想します。

アイテムのコミット中にすべての監査履歴をコミット

レビューアが個人用フォルダからレビューセットにアイテムをコミットするとき完全な監査履歴をコミットしなければならないかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator ではコミットする要素をユーザーが任意で選択できます。

分析の対話分析の設定オプション

同じ電子メールの対話のアイテムを Discovery Accelerator の分析機能でどのように処理するかを次の設定を使って制御します。

件名の正規化で削除する接頭辞

対話分析を行うために Discovery Accelerator でアイテムの件名から削除する必要がある接頭辞を指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator によって次の接頭辞が削除されます。

RE::FW::FWD::Reply::REP::RSVP::SRC::VS::
RPLY::Antwort::Aw::Wg::Wtr

分析のデータコレクションの設定オプション

Discovery Accelerator によるケース内のアイテムの分析データの収集方法を次の設定を使って制御します。

利用できない Enterprise Vault サーバーの待機期間 (分)

以前利用できなかった Enterprise Vault サーバーから Discovery Accelerator が分析データの収集を試行するまで待機する分数を指定します。デフォルト設定は 50 分です。

API の設定オプション

次の設定を使って、他社のツールが Discovery Accelerator API (Application Programming Interface) を介して Discovery Accelerator データベースのデータを変更する方法を制御します。Discovery Accelerator API について詳しくは Veritas 社のサポートにお問い合わせください。

API が有効

Discovery Accelerator Web サービス API へのアクセスを有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、アクセスは無効であり、どの API メソッドも機能しません。

データベースのコマンドのタイムアウト (秒)

API のコマンドが Discovery Accelerator のカスタマーデータベースとのデータの交換の試行をやめる前に待機する秒数を指定します。

Domino テンプレートファイル	GetItems API メソッドとともに使う Domino テンプレート (.nsf) ファイルを指定します。
アイテムの最大チャンクサイズ (バイト)	GetItem と GetItems の API の方式で取り込むことができるアイテムの内容の各チャンクのサイズの制限をバイトで指定します。
アイテム一覧の最大チャンクサイズ	GetItemList の API の方式で 1 つのバッチの情報を取り込むことができるアイテム数の制限を指定します。
一時ストレージ領域	API から取り込まれたアイテムを一時的に格納する場所を指定します。デフォルトでは、設定は空白で、Windows の %TEMP% フォルダが使われます。代わりとなるフォルダを指定する場合は Accelerator サービスアカウントにフォルダの完全な権限があることを確認します。フォルダに多くの空き容量がなければなりません。 パフォーマンス上の理由から、一時ストレージ領域はウイルススキャンの対象から除外してください。
一時ストレージ領域のクリーンアップ間隔 (分)	古いデータを一時ストレージ領域から削除する間隔を分単位で指定します。デフォルト設定は 30 分です。

監査の設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator の監査機能を設定します。

レガシーデータの移行の頻度	<p>レガシー監査データをカスタマーデータベースの専用の監査テーブルにコピーする頻度を分単位で指定します。次のカテゴリのデータを、レガシーデータの構成に含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Discovery Accelerator の以前のバージョンからのデータ。 ■ Discovery Accelerator の現在の状態をキャプチャするベースライン操作からのデータ。 <p>15 から 1440 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 1440 (1 日) です。</p>
---------------	--

診断の設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator トラブルシューティング機能を有効または無効にします。

パフォーマンス 모니터の有効化	Discovery Accelerator パフォーマンスデータを報告するかどうかを指定します。このデータは、Windows のパフォーマンスモニタユーティリティで参照できます。
トレースの有効化	すべてのサーバー処理をイベントログに記録するかどうかを指定します。Discovery Accelerator によってすべてのエラーメッセージと警告メッセージがログに常に記録されるため、イベントログへのトレースは情報イベントのみに適用されます。
重複排除情報の保存	Discovery Accelerator サーバーの Discovery Accelerator プログラムフォルダの DeduplicationInfo サブフォルダ (通常、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business Accelerator\DeduplicationInfo) に重複排除情報ファイルを生成するかどうかを指定します。これらの重複排除情報ファイル (平文および XML 形式) は、Veritas のサポートチームが重複排除関連の問題を処理するときに役立ちます。この設定はデフォルトでクリアされ、Discovery Accelerator はこのファイルを作成しません。
検索基準を保存	Discovery Accelerator サーバーの Discovery Accelerator プログラムフォルダの SearchCriteria サブフォルダに検索基準ファイルを生成するかどうかを指定します。平文と XML 形式のこれらのファイルは、Veritas のサポートチームが検索関連の問題を処理するときに役立ちます。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこのファイルを作成しません。 p.232 の「Discovery Accelerator の検索で予期しない結果が返される」 を参照してください。
XML 検索アイテムを保存してコミット	アイテムの XML ファイルを保存して、サーバーのサブフォルダの下にデータベースにコミットするかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator は XML ファイルを保存しません。
XML 検索結果を保存	Discovery Accelerator サーバーの Discovery Accelerator プログラムフォルダの SearchResults サブフォルダに検索結果ファイル (検索対象の各 Enterprise Vault アーカイブにつき 1 つ) を生成するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこのファイルを作成しません。

文書の変換の設定オプション

Discovery Accelerator 次の設定を使って、クライアントのレビューペインに表示されるエラーメッセージをカスタマイズします。

変換エラー

Discovery Accelerator がレビューペインのプレビューウィンドウにアイテムを表示できない場合に、エラーメッセージを表示するように指定します。各メッセージには最大 200 文字まで入力できます。

エクスポートまたは提出物生成の設定オプション

次の設定を使って、ユーザーがオフラインでレビューするために Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートまたは提出物生成するときの出力を設定します。

エクスポートされたファイルシステムアイテム
に通し番号を追加

Enterprise Vault がファイルシステムアーカイブ (FSA) によってアーカイブした、エクスポートされた各アイテムのファイル名に、アイテムを識別する通し番号を追加するかどうかを指定します。

オプションは次のとおりです。

- 0. 通し番号を省略します。
- 1. ファイル名の先頭に通し番号を追加します。このオプションはデフォルトのオプションです。
- 2. ファイル名の末尾に通し番号を追加します。

エクスポートされたファイルシステムアイテム
に常に日付スタンプを追加

Enterprise Vault がファイルシステムアーカイブ (FSA) によってアーカイブした、エクスポートされた各アイテムのファイル名に、最終変更日のスタンプを追加するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator は日付スタンプを追加します。

自動再試行: 最大再試行回数

何らかの理由で失敗したエクスポート実行を Discovery Accelerator が繰り返す試行の最大数を指定します。値を 0 (ゼロ) に設定すると、Discovery Accelerator は再実行を停止します。

自動再試行: 再試行までの最小時間 (分)

失敗したエクスポート実行または提出物生成実行を自動再試行する最小間隔を分単位で指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator は 5 分間隔で再試行します。

Discovery Accelerator は、この値に再試行の回数を掛けることに注意します。したがって、この値が 5 の場合、最初の再試行は、5 分後に行われ、その後の再試行は、10 分後、15 分後、といったように増加していきます。

カスタム変換拡張子	Discovery Accelerator の外部で表示するためにアイテムをエクスポートする場合に作成するファイル名の拡張子を指定します。たとえば、Microsoft Excel 形式のエクスポートファイルの拡張子には .xls を指定します。
カスタム変換ファイル	ファイルをカスタム形式でエクスポートするときに使うテンプレートファイル名を指定します。たとえば、アイテムを Microsoft Excel 形式でエクスポートするためのテンプレートファイルを作成している場合、ファイル名として ExcelReport.xlslt と入力できます。
デフォルトのエクスポートフォルダ	エクスポートされたアイテムに使う Discovery Accelerator サーバーのデフォルトフォルダを指定します。デフォルトのエクスポートフォルダを指定しない場合、Discovery Accelerator は c:\¥Discovery Accelerator Export¥customer_name フォルダを使用します。 フォルダパスには最大 100 文字まで入力できます。
デフォルトの提出物生成状態	エクスポート実行時にデフォルトの現在の状態として設定する状態を指定します。 次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. 該当なし。 ■ 1. 保留 ■ 2. レビュー済み ■ 3. 問題あり
PST と MSG に Unicode をデフォルトで使用する	PST ファイルと MSG ファイルを Unicode (Outlook 2003 以降) と ANSI (Outlook 97 から 2002) のどちらの形式でエクスポートするかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はアイテムを Unicode 形式でエクスポートします。
Domino エクスポートテンプレート	ファイルを Notes Database Template (NTF) ファイルにエクスポートするときにテンプレートとして使うファイルの名前を指定します。デフォルトのファイル名は accelexp.ntf です。
Domino ID ファイル	ファイルを NTF ファイルにエクスポートするときにローカルな Domino 認証で使う .id ファイルの名前を指定します。デフォルトのファイル名は Accelerator.id です。
Domino パスワード	ファイルを NTF ファイルにエクスポートするときにローカルな Domino 認証で使うパスワードを指定します。

提出物生成スレッドの有効化	すべてのエクスポート機能と提出物生成機能を有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はこの機能を有効にします。
HTML 変換ファイル	XSL スタイルシートをダウンロード、編集、アップロードできます。このスタイルシートは、 Discovery Accelerator が HTML 形式で生成するすべてのエクスポートレポートのテンプレートとして使われます。
処理速度の遅いデバイスに格納されたアイテムの提出物生成の最大再試行回数	Discovery Accelerator がテープドライブなどのオフラインデバイスからアイテムを取り込む試行回数を指定します。1 から 1000 までの値を入力します。デフォルト値は 120 です。
処理速度の遅いデバイスに格納されたアイテムを再試行する最小間隔 (分)	オフラインデバイスからのアイテムの取り込みを試行する場合、 Discovery Accelerator が何分間隔で再試行するかを指定します。1 から 300 までの値を入力します。デフォルト値は 5 です。
提出物生成レポートのスレッド数	Discovery Accelerator がエクスポート実行のレポートの生成に割り当てるスレッドの番号を指定します。デフォルトは 5 です。
提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数	<p>Discovery Accelerator によって各エクスポート実行または提出物生成実行に割り当てられている SQL 接続プール内のスレッド数を指定します。1 から 25 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 25 です。</p> <p>[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数] 設定も参照してください。</p> <p>同時に行なうことができるエクスポート実行または提出物生成実行の最大数を判断するには、[カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数] を [提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数] で割ります。たとえば、前者の設定に 100 を指定し、後者の設定に 25 を指定した場合、最大で 4 つのエクスポート実行が提出物生成実行を同時に行なうことができます。それ以上のエクスポート実行または提出物生成実行を行なおうとした場合、Discovery Accelerator は必要な数のスレッドが利用可能になるまでキューにそれらを保持します。</p>
RunDate による提出物生成の検索順序	エクスポート実行の基準を設定するときに Discovery Accelerator がリストする検索の順序を設定します。名前順または実行日順で検索をソートできます。デフォルトでは、 Discovery Accelerator は名前順でソートします。

PST の[エクスポート ID]列の名前	Microsoft Outlook で、Discovery Accelerator エクスポート ID を表示する列のラベルを指定します。デフォルトのラベルは「通し番号」です。個人用フォルダ (.pst) のファイルとして Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートして、このファイルを Outlook にインポートすると、アイテムのエクスポート ID がこの列に表示されます。 p.157 の「 エクスポート ID または通し番号を Microsoft Outlook で表示 」を参照してください。
PST フォルダ名	Discovery Accelerator からエクスポートした個人用フォルダ (.pst) ファイルをインポートした後でアイテムを配置する Outlook フォルダを指定します。
レポートのチャンクサイズ	各レポートファイルに一覧表示するエクスポートされたアイテム数を指定します。デフォルトは 25000 です。
エクスポート実行時に PST バージョンのオプションを表示	エクスポート実行を行う際に、Discovery Accelerator がユーザーに PST バージョン (Outlook 97 - 2002 (ANSI) または Outlook 2003 (Unicode)) を選択するように要求するメッセージを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はメッセージを表示しません。
エクスポートでレビューページを表示	エクスポート実行または提出物生成実行の開始時に、Discovery Accelerator が最初にレビューペインを開くかどうかを指定します。この機能により、実行を進める前に、アイテムを参照できます。デフォルトでは、Discovery Accelerator はレビューペインを表示しません。
TAB 変換ファイル	XSL スタイルシートをダウンロード、編集、アップロードできます。このスタイルシートは、Discovery Accelerator がタブ区切り形式で生成するすべてのエクスポートレポートのテンプレートとして使われます。
カスタマーごとの提出物生成スレッドの総数	エクスポート実行または提出物生成実行を行なうときに Discovery Accelerator が割り当てる、カスタマーあたりのスレッドの最大数を指定します。50 から 1000 までの値を入力します。デフォルト値は 100 です。 [提出物生成実行ごとの提出物生成スレッドの数]設定も参照してください。

全般設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator の全般オプションを設定します。

ロードするアーカイブの数が [この] しきい値を超えたらアーカイブペインに警告を表示する	Discovery Accelerator クライアントの[検索するアーカイブ]ペインにロードするアーカイブの数に対してしきい値の数を指定します。アーカイブの数が現在の選択と一致し、フィルタ基準がこのしきい値を超える場合、基準を変更してアーカイブの数を減らす警告メッセージが表示されます。50,000 から 200,000 の範囲で値を指定します。デフォルト値は 50,000 です。
重複排除の有効化	エクスポートされたアイテムとレビュー中のアイテムを重複排除するかどうかを指定します。この設定はデフォルトで選択され、Discovery Accelerator はアイテムを重複排除します。
アカウントセレクト内の「\$」で終わる Active Directory アカウントを非表示	Active Directory アカウントを選択する Discovery Accelerator の領域で、名前が文字 \$ で終了するアカウントを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこのアカウントを表示します。
サンプリングヒットなしでフィルタに検索を一覧表示	検索によってアイテムをフィルタ処理するとき、アイテムを取得できなかった検索をリストから省くかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこの検索を表示します。
[カストディアンまたはカストディアングループの選択]ダイアログボックスに一覧表示される結果の最大件数	[カストディアンまたはカストディアングループの選択]ダイアログボックスに一覧表示される結果の最大件数を指定します。これは、検索の作成時に検索対象のカストディアンまたはカストディアングループを選択するダイアログボックスです。デフォルトでは、ダイアログボックスに最大 5000 件のカストディアンまたはカストディアングループが一覧表示されます。
名の後に姓を表示	従業員の姓と名を表示する順序を指定します。デフォルトでは、名は姓の前に表示されます。名前が通常反対になる日本のような国で作業する場合は、このオプションをクリアすることもできます。
フィルタに検索サンプル数を表示	レビューペインのような Discovery Accelerator の領域で、リストにある各検索の名前にサンプルサイズを追記するかどうかを指定します。したがって検索で 200 のヒットがあり、監視ポリシーでキャプチャされたアイテムの 10 % をレビューセットに追加する必要がある場合、Discovery Accelerator は[My Search [20]]のように検索を表示します。 デフォルトでは、Discovery Accelerator はサンプルサイズを表示します。

ホームページの設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator のホームページの外観を制御します。

ホームページに表示するケースの最大数	アプリケーションのホームページに一覧表示することができるケース数の制限を設定します。デフォルトは 10 です。
ホームページに表示するエクスポートの最大数	Discovery Accelerator がアプリケーションのホームページに一覧表示できるエクスポート実行数の制限を設定します。デフォルトは 30 です。
ホームページに表示する検索の最大数	Discovery Accelerator がアプリケーションのホームページに一覧表示できる検索数の制限を設定します。デフォルトは 30 です。
ホームページに表示するタスクの最大経過時間 (日数)	Discovery Accelerator がアプリケーションのホームページに表示できる、タスク用のデータの最大経過時間を指定します。デフォルトは 30 日です。
ホームページにフォルダを表示	Discovery Accelerator のホームページの個々のリサーチフォルダを一覧表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はフォルダを一覧表示します。
レビューアの統計をレビューアに表示	アプリケーションのホームページで、レビューアが他のレビューアの統計を参照できるかどうかを指定します。デフォルトでは、すべてのレビューアが統計を参照できます。

アイテムのプリフェッチキャッシュの設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator プリフェッチキャッシュ機構を設定します。このしくみは、ユーザーがレビューするように選択した時間に各アイテムを取り込むかわりに、毎晩スケジュールされた時間帯にボルトストアからアイテムを取り込み、キャッシュします。そのため、キャッシュによってレビューペインのアイテムのレンダリング速度を上げることができます。キャッシュのサイズ、場所、その他の特性を指定できます。

非常に集中的にアイテムをレビューする環境でパフォーマンスを最適化するために、次のことを推奨します。

- 利用可能な中で最速のストレージを使い、パーティションに空きがないものは除外して I/O の競合がないようにします。
- パーティションサイズに一致するキャッシュ内での最大サイズを設定します。
- キャッシュの有効期限を 365 日間に設定します。

- **HTML と MSG** でアイテムを完全に取り込むようにキャッシュを設定します。アイテムをエクスポートする必要がある場合は、**HTML** だけでアイテムを取り込むように選択できます。

[アイテムのプリフェッチキャッシュ]オプションは一般的に使われるキャッシュのオプションです。また[アイテムのプリフェッチキャッシュ (詳細)]も設定できます。

キャッシュの有効化

プリフェッチキャッシュを有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、**Discovery Accelerator** はキャッシュを無効にします。したがって、プリフェッチは実行されず、キャッシュにアイテムがあっても、キャッシュはアイテムの取り込みに使われません。アイテムを有効にレビューする、または遅いストレージに接続してエクスポートを実行する **Discovery Accelerator** データベースのキャッシュを有効にするだけです。

主にリーガルホールド検索のために使うデータベースではプリフェッチキャッシュを有効にしないことを推奨します。有効にすると、不必要なネットワーク通信量が生成され、ストレージ領域が消費されます。

キャッシュはデータベース全体で有効または無効のどちらかであることを注意します。

キャッシュの場所

キャッシュを格納するフォルダのローカルパスまたはネットワーク共有パスを指定します。**Discovery Accelerator** は、このフォルダ内で `AcceleratorPrefetch_CustomerId` というサブフォルダにプリフェッチされたファイルを格納します。

次の点に注意してください。

- 可能な場合、ローカルパスを指定することが推奨されます。ネットワーク共有パスを指定する必要がある場合は、マップしたドライブではなく、常に **UNC** パスを使います。
- フォルダはすでに存在している必要があります。**Discovery Accelerator** はフォルダを作成しません。
- ホスティング環境では、複数のカスタマーが同じフォルダを共有することはできません。

キャッシュアイテムの最大経過日数 (日)	<p>アイテムが Discovery Accelerator によって自動的にキャッシュから削除されるまでキャッシュに残る日数を指定します。アイテムの経過日数は、キャッシュ内のファイルの作成時刻に基づき、Discovery Accelerator がアイテムをキャプチャした時刻や、アイテムが最初に送信された時刻は関係ありません。デフォルトの経過日数は 5 日間です。</p> <p>キャッシュに空きがなくなった場合、Discovery Accelerator はアイテムの最大経過日数よりも前にキャッシュからアイテムを削除することがあります。</p>
キャッシュの最大サイズ (MB)	<p>キャッシュの最大サイズ (MB) を指定します。デフォルトは 1000 MB です。[キャッシュアイテムの最大経過日数 (日)] 設定の値が大きいほど、より多くのアイテムを収容できるようにキャッシュの最大サイズの値を大きくする必要があります。</p>
プリフェッチの終了時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>Discovery Accelerator がアイテムのプリフェッチを停止する時刻を指定します。デフォルトは 05:00 です。プリフェッチがアクティブになる時間帯を決定するには、この設定を[プリフェッチの開始時刻]とともに選択します。キャッシュ作成を行わない期間を設定すると、この期間に Enterprise Vault のバックアップなど他の保守活動を行うことができます。</p> <p>プリフェッチを常にアクティブにするには、このオプションと[プリフェッチの開始時刻]に同じ時刻を設定します。</p>
プリフェッチの開始時刻 (サーバーのローカル時間)	<p>Discovery Accelerator がアイテムのプリフェッチを開始する時刻を指定します。デフォルトは 20:00 です。プリフェッチがアクティブになる時間帯を決定するには、この設定を[プリフェッチの終了時刻]とともに使います。キャッシュ作成を行わない期間を設定すると、この期間に Enterprise Vault のバックアップなど他の保守活動を行うことができます。</p> <p>プリフェッチを常にアクティブにするには、このオプションと[プリフェッチの終了時刻]に同じ時刻を設定します。</p>

アイテムのプリフェッチキャッシュ (詳細) の設定オプション

これらの設定では、**Discovery Accelerator** プリフェッチキャッシュ機能の設定用の追加詳細オプションが表示されます。この設定は、[アイテムのプリフェッチキャッシュ]オプションとともに使います。

キャッシュの暗号化	ファイルをキャッシュに格納する前に暗号化するかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はキャッシュを暗号化しません。
キャッシュのページ時刻 (サーバーのローカル時間)	Discovery Accelerator がキャッシュのハウスキーピング (主に古いアイテムの削除) を実行する時刻を指定します。デフォルトの時刻は午後 7 時です。
キャプチャの最大経過日数 (日)	キャプチャされたアイテムのうち、指定された日数よりも古いアイテムをキャッシュから除外します。デフォルトは 3 日です。この設定は、プリフェッチが最初に有効になるとき、または一定期間無効だった後に再度有効になる場合にだけ影響します。
アイテムのフェッチの最大試行回数	Discovery Accelerator がアイテムのプリフェッチを試行する最大回数を指定します。デフォルトは 10 です。
キャッシュに格納するアイテムの最大サイズ (バイト)	Discovery Accelerator がプリフェッチ可能なアイテムのサイズとアイテムの一部に対して限度を設定します。1 アイテムまたはアイテムの一部がこの限度を超えると、そのアイテムは無視されます。デフォルトは 10 MB です。たとえば、サイズが 10 MB 以下の複数のファイルが添付され、合計のサイズが限度の 10 MB をはるかに超えるアイテムであっても、 Discovery Accelerator はプリフェッチします。
アイテムのフェッチを再試行するまでの最小時間 (分)	Discovery Accelerator がアイテムのプリフェッチを試行する間隔を分単位で指定します。デフォルトは 30 分です。失敗したフェッチの再試行を設定する場合は、[アイテムのフェッチの最大試行回数]とともにこの設定を使います。
添付ファイルのプリフェッチ	アイテムの添付ファイルをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator は添付ファイルをプリフェッチします。入れ子になっているアイテムの添付ファイルはプリフェッチされません。
添付ファイルを HTML としてプリフェッチ	添付ファイルをプリフェッチするときに HTML としてレンダリングするかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator は添付ファイルを HTML としてプリフェッチします。
即時検索アイテムのプリフェッチ	ユーザーがスケジュール設定していない即時検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチしません。

ネーティブ形式でのプリフェッチ	<p>アイテムを元のネーティブ形式でプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトで、Discovery Accelerator はアイテムをネーティブ形式でプリフェッチしません。ただし、ポリシーがアイテムを元の形式でレビューするようになっている場合は、この機能を有効にする必要があります。</p>
リサーチアイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーがアドホック検索で個人用フォルダに配置しているアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p>
スケジュール設定済みの検索アイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーがスケジュール設定済みの検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p> <p>アイテムは検索が受け入れられた場合にのみプリフェッチされるため、このオプションはスケジュール設定済みの検索が自動的に受け入れられるように設定されている場合に最適に機能します。</p>
検索アイテムのプリフェッチ	<p>ユーザーが検索でキャプチャしたアイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。この機能を[即時検索アイテムのプリフェッチ]オプションと[スケジュール設定済みの検索アイテムのプリフェッチ]オプションとともに使うと、さらに詳細に制御できます。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれらのアイテムをプリフェッチします。</p>
XML 構造のプリフェッチ	<p>アイテムの XML 構造をプリフェッチするかどうかを指定します。この構造はアイテムの一部を定義し、添付ファイルの一覧が含まれます (ただし添付ファイル自体は含まれません)。XML 構造はレビューペインのレビューペインに使われます。XSL Transform は HTML に変換するために XML に適用されます。デフォルトでは、Discovery Accelerator は XML 構造をプリフェッチします。</p>
メッセージレビュー用に HTML でレンダリング	<p>HTML 形式でレビューするために、アイテムをプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はアイテムをこの形式でプリフェッチします。</p> <p>アイテムをプリフェッチすると、Discovery Accelerator はレビュー時に XML から HTML へのレンダリングを実行する必要がないため、レビューのパフォーマンスが改善されます。このことは、多数のレビューアが同時に作業しているシステムで最も有益です。</p>

印字可能な HTML でレンダリング	アイテムの印刷可能バージョンを HTML 形式でプリフェッチするかどうかを指定します。デフォルトで、 Discovery Accelerator はアイテムを HTML 形式でプリフェッチしません。ただし、印刷可能な表示機能を定期的に使うことが予想できる場合は、この設定を変更することを推奨します。
再試行記録の保持期間 (日)	Discovery Accelerator がアイテムのプリフェッチを繰り返し試行して失敗した記録を保持する期間を指定します。デフォルトは 30 日です。

リーガルホールドの設定のオプション

これらのオプションは、**Discovery Accelerator** がケース内のアイテムを保存または保存解除する方法を制御します。アイテムを保存して、ユーザーが **Enterprise Vault** アーカイブからそれらのアイテムを削除しないようにできます。

リーガルホールドの有効化	ケース管理者がケース内のアイテムを保存して、それらのアイテムを削除できないようにするかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はリーガルホールド機能を有効にします。
新しいケースのリーガルホールドの有効化	新しいケースのプロパティを定義する際に、アイテムを保留にするオプションを自動的に選択するかどうかを指定します。
リーガルホールドスレッドの確認間隔 (秒)	Discovery Accelerator がケースアイテムのリーガルホールドまたは保存解除を確認する頻度を秒単位で指定します。デフォルトの頻度は 30 秒です。
リーガルホールドの最大再試行回数	Discovery Accelerator がアイテムのリーガルホールド保存を試行する最大回数を指定します。デフォルト値は 2 です。
リーガルホールドスレッドの数	Discovery Accelerator がアイテムのリーガルホールドの適用または解除で使うスレッド数を指定します。デフォルト値は 10 です。
保存アイテム設定のバッチサイズ	同時に保存する最大アイテム数を指定します。デフォルト値は 1000 です。
保存アイテム削除のバッチサイズ	同時に保存解除する最大アイテム数を指定します。デフォルト値は 1000 です。

ポリシーの統合の設定オプション

これらの設定を使って、**Discovery Accelerator** をポリシー管理ソフトウェアと統合し、フラグアイテムをレビューセットに含める、またはレビューセットから除外するかを調整します。

常にレビューグリッドのポリシー表示を表示 レビューペインに関連付けされたポリシーがないアイテムをプレビューするとき、アイテムの上のポリシーのフィールドを示すかどうか指定します。デフォルトでは、関連するポリシーがない場合、**Discovery Accelerator** はこのフィールドを非表示にします。

種類でポリシーをソート レビューペインに存在するアイテムをプレビューした場合、アイテム上部にあるバナーに関連するポリシーを一覧表示する順序を指定します。次のいずれかの値を入力します。

- 0. ポリシーはソートされません。
- 1 (デフォルト)。ポリシーは、ポリシーの種類 (含まれる、除外、カテゴリ) でグループ化されてから、種類ごとにアルファベット順でソートされます。
- 2. ポリシーは、ポリシーの種類に関係なく、アルファベット順でソートされます。

ソート順を変更しても、**Accelerator** データベースにすでに存在するアイテムはソートされません。新たに追加したアイテムのみがソートされます。

権限がある削除の設定オプション

これらの設定を使用すると、**Enterprise Vault** アーカイブからのアイテムの削除を設定できます。

アーカイブ済みアイテムの権限がある削除を有効化 削除対象マーク付きアイテムを削除するバックグラウンドタスクを開始するかどうかを指定します。

権限がある削除の最大試行数 中断する前に **Discovery Accelerator** が **Enterprise Vault** アーカイブからアイテムの削除を試行する回数を指定します。

権限がある削除のスレッド数 **Enterprise Vault** アーカイブからのアイテムの削除に割り当てるスレッド数を指定します。

権限がある削除のスレッドの確認間隔 (秒) **Discovery Accelerator** で、**Enterprise Vault** アーカイブから削除するアイテムを確認する頻度を秒単位で指定します。

プロファイルの同期の設定オプション

次の設定を使って、従業員プロフィールとそれに対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントの **Discovery Accelerator** による同期方法を制御します。

プロフィール作成時のデフォルトの **Domino** ドメイン 従業員を **Domino** アカウントに同期させるときにユーザー名に自動的に追加するドメインを指定します。

ユーザーの参照時のデフォルトの **Domino** サーバー **Discovery Accelerator** システムに追加する新しいユーザーを参照するときに使うデフォルトの **Domino LDAP** サーバーの名前を指定します。

ユーザーの参照時にデフォルトの **Domino** サーバーを使うように強制 **Discovery Accelerator** システムに新しいユーザーを参照するときにデフォルトサーバー以外の **Domino LDAP** サーバーを選択できないようにします。デフォルトでは、**Discovery Accelerator** で、すべての **Domino** サーバーを指定できます。

同期スレッドの数 従業員プロフィールを対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントに同期させるときに **Discovery Accelerator** が使うスレッド数を指定します。1 から 5 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 1 です。

Domino または **Active Directory** に存在しないアドレスを削除 **Active Directory** か **Domino** ディレクトリにプロフィールを同期する前に **Discovery Accelerator** が従業員プロフィールの電子メールアドレスを削除するかどうかを指定します。デフォルトでは、**Discovery Accelerator** はこのアドレスを削除しません。これは、古い電子メールアドレスを使って検索を実行したり、手動で追加の電子メールアドレスを入力したりしている場合があるためです。

Discovery Accelerator は、同期が何らかの理由で失敗すればプロフィールの電子メールアドレスを削除しません。

同期間隔 (時間) **Discovery Accelerator** が従業員のプロフィールを対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントに同期させる間隔を時間単位で指定します。1 から 24 の範囲で値を入力します。デフォルトは 8 時間ごとと **Accelerator** マネージャサービスの起動時です。

プロフィールの同期 **Discovery Accelerator** が従業員とグループを、対応する **Active Directory** アカウントまたは **Domino** ディレクトリアカウントに同期させるかどうかを指定します。デフォルトでは、同期が試行されます。

サービスの起動時に同期するまで待機(分) Accelerator マネージャサービスの起動後、Active Directory か Domino ディレクトリに従業員とグループを同期するまで待機する時間を分単位で指定します。0 から 720 の範囲で値を入力します。デフォルトでは、サービスは待機せずに同期を行います。

レビューの設定オプション

次の設定を使って、レビューペインを設定します。

デフォルトのページサイズ	レビューペインに表示するアイテムのデフォルト数を指定します。1 から 1000 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 100 です。
マーク付けの一覧を表示	レビューペインで (ページの下部のクリック可能なオプションまたはドロップダウンリストとして) 利用可能なマークの表示方法を指定します。デフォルトで、Discovery Accelerator は、マークをドロップダウンリストのオプションとしてではなくクリック可能なオプションとして表示します。
ECM 一時ストレージ領域	Enterprise Vault Content Management API を使って取り込んだアイテムを一時的に格納するフォルダのパスを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator は Windows の %TEMP% フォルダを使います。 次の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 可能な場合、ローカルパスを指定することが推奨されます。ネットワーク共有パスを指定する必要がある場合は、マップしたドライブではなく、常に UNC パスを使います。 ■ フォルダはすでに存在している必要があります。Discovery Accelerator はフォルダを作成しません。 ■ ホスティング環境では、複数のカスタマーが同じフォルダを共有することはできません。
ECM 一時ストレージ領域のクリーンアップ 間隔 (分)	古いデータを一時ストレージ領域から削除する間隔を分単位で指定します。デフォルト値は 5 分です。

表示しないファセット	<p>レビューペインでユーザーに利用させないフィルタオプションを、カンマ区切りの一覧で指定します。次に利用可能なオプションを示します。</p> <p>author、authoraddress、authordomain、authorname、capturedate、commentid、direction、extension、ingestionstatus、legalstatus、maildate、markingid、markstatusid、numattachments、policyaction、policyid、recipientaddress、recipientdomain、recipientname、reviewerid、ruleid、scheduledsearchid、searchid、size、tagid、tagruleid、type。</p>
レビューセットに存在する場合のフォルダアイテムの色	<p>関連付けされたレビューセットにすでにあるリサーチフォルダのアイテムを識別する色を指定します。デフォルトの色は青です。</p>
背景色をハイライト	<p>アイテムの HTML レンダリングで、検索用語のインスタンスをハイライトする背景色を指定します。「Yellow」(デフォルトの色) のように色の名前を入力したり、「#FFFF00」のように RGB 値を入力したりできます。</p>
文字表示色をハイライト	<p>アイテムの HTML レンダリングで、検索用語のインスタンスをハイライトする前景色を指定します。「Black」(デフォルトの色) のように色の名前を入力したり、「#000000」のように RGB 値を入力したりできます。</p>
ヒットのハイライトの種類	<p>アイテムの HTML レンダリングで、検索のハイライトを有効と無効のどちらにするかを指定します。アイテムの検索用語のインスタンスをハイライトする場合は値に 1 (デフォルト) を設定し、ハイライトを無効にする場合は 0 を設定します。</p>
アイテムロック解除スレッド	<p>誤ってロックされたままになっているアイテムのロックを解除するロッククリーンアップスレッドを有効にするか無効にするかを指定します。たとえば、レビューセッション中にレビューアのコンピュータまたは Discovery Accelerator クライアントが停止した場合などです。デフォルトでは、このスレッドは有効です。</p>
件名がないメッセージのラベル	<p>件名がないアイテムに割り当てる件名を指定します。デフォルトは「No Title」です。</p>

アイテム履歴にプレビュー処理を記録	<p><code>true</code> に設定すると、レビューアがレビューペインでアイテムをプレビューするか、その印刷可能なバージョンを表示するか、またはアイテムの元のバージョンをダウンロードするときに Discovery Accelerator はアイテム履歴にその処理を記録します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれらの処理を記録しません。</p> <p>レビューペインのアイテムのこれらの処理を記録することを選択しても、検索の結果は、ユーザーの処理が記録されることなく、引き続き検索ペインでプレビューできます。これを防止するには、[検索結果のプレビューを無効化]オプションを設定します。</p> <p>p.198 の「検索の設定オプション」を参照してください。</p>
最大ページサイズ	<p>ページに一覧表示する、レビューセット内のアイテムの最大数を指定します。1 から 300 までの値を入力します。デフォルト値は 300 です。</p>
ユーザーが自分自身に一時的に割り当てることができる最大アイテム数	<p>レビューでユーザーが自分自身に一時的に割り当てることができるアイテム数の制限を設定します。デフォルトは 10000 です。</p>
グリッドファイルをレビュー	<p>すべてのユーザーのレビューペインの列のレイアウトを定義する XML ファイルをダウンロードまたはアップロードできます。</p> <p>p.207 の「レビューペインの列のカスタマイズ」を参照してください。</p>
レビューセットの有効期限 (分)	<p>ユーザーのレビューセットの有効期限が切れた後、非アクティブになる時間を分単位で指定します。デフォルト値は 120 分です。</p>
レビュー用に HTML を無害化	<p>レビュー前に HTML アイテムを前処理して、ナビゲーション問題を起こすかもしれないスクリプトを削除するかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はアイテムを前処理します。</p>
レビューセットの作成またはソートに対するタイムアウト (秒)	<p>タイムアウトになる前に、レビューセットの作成またはソートを行う必要がある秒数を指定します。デフォルトは 300 です。</p>

検索の設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator の検索機能を最適化します。

既存のアイテムの検索とキャプチャを許可	新しい検索の基準を設定するときに、以前にキャプチャされたアイテムを検索の結果に含めることを選択できるかどうか指定します。デフォルトで、そうするオプションが選択されます。
前回の実行以降のバッファ	<p>新しい検索の基準の定義に使うスケジュールを選択するときに、[日付範囲]セクションで[前回の実行以降]を選択できます。このオプションにより、このスケジュール済みの検索を前回実行した後で受信した新しいアイテムを検索するように Discovery Accelerator に指示します。[開始日]フィールドには、検索の最初の実行の開始点となる日付を入力します。</p> <p>デフォルトでは、[前回の実行以降]を選択すると、前回の検索が実行された日付 (初回の検索の場合は [開始日] の日付) から現在の日付の 1 日前 (昨日) までの範囲が検索対象となります。必要に応じてこの間隔を変更し、現在の日付の n 日前までを検索できます。1 日に複数回実行する検索で [前回の実行以降] を使うには、間隔を 0 に設定します。</p>
カストディアングループタグ	新しい検索の基準でカストディアングループを入力するときに、 Discovery Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルトは CG です。
カストディアンタグ	新しい検索の基準でカストディアン名を入力するときに、 Discovery Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルト値は C です。
カスタム検索属性 XML	カスタム検索の属性を XML 形式で使うために指定します。
検索結果のプレビューを無効にする (Disable search results preview)	true に設定すると、検索ペインの [結果] タブでのアイテムのプレビューが無効になります。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はユーザーによるこれらのアイテムのプレビューは抑止されません。
インデックスボリュームの自動同期の有効化	Discovery Accelerator が検索の間に不明なインデックスボリュームを検出したときに自動的にアーカイブのインデックスボリュームを同期する必要があるかどうかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はインデックスボリュームを自動的に同期します。
カスタム検索属性の有効化	検索のための基準を定義するときカスタム検索の属性を定義し、選択できるかどうか指定します。デフォルトで、これらの属性を定義し、選択できます。

検索スレッドの有効化	すべての検索機能を有効と無効のどちらにするかを指定します。デフォルトでは、 Discovery Accelerator はこの機能を有効にします。
インデックスが再構築中または失敗した場合は検索エラーとする	インデックスがオフラインであったり、再構築中または失敗した場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルトで、 Discovery Accelerator はこのような状況でエラーを返します。
アイテムまたは内容に対するインデックスがない場合は検索エラーとする	インデックスが、インデックス付け可能なアーカイブ済みアイテムまたはアイテムの内容をインデックス付けできなかった場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルト設定は false (無効) です。
インデックスの幅を正規化する必要がある場合は検索エラーとする	全角文字を正しく処理するためにインデックスが再構築されなければならない場合、特定のアーカイブの検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。デフォルト設定は[無効]です。
電子メールアドレスに検索対象がないときの検索エラー	いずれの対象も電子メールアドレスに解決されず、検索結果が空になった場合、検索からエラーが返されるようにするかどうかを指定します。
アーカイブがコピーまたは移動された場合にアーカイブの検索は失敗する	移動またはコピーされたアーカイブが検索結果に含まれていない場合、それらのアーカイブの検索に失敗とマーク付けするかどうかを指定します。デフォルトは [False] です。この設定では、このようなアーカイブの検索時に Discovery Accelerator は警告を生成しますが、それらのアーカイブに失敗とマーク付けはしません。
フィルタに表示される検索結果の最大数	選択できる検索をリストする Discovery Accelerator の領域でリストに含める検索の最大数を指定します。デフォルトは 250 です。
最大検索再試行回数	Discovery Accelerator が検索を中止する前にアーカイブの検索を試行する回数を指定します。 1 から 50 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。
受け入れ検索スレッドの数	検索結果セットの受け入れに割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 5 では、 5 個までの検索結果セットを同時に受け入れることができます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。

削除検索スレッドの数	検索結果セットの削除に割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 2 では、 2 個までの検索結果セットを同時に削除できます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
サンプリング検索スレッドの数	検索結果セットのサンプリングに割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 5 では、 5 個までの検索結果セットが同時にサンプリングされます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
ボルト検索スレッドの数	インデックスサーバーごとにアーカイブ検索に割り当てるスレッド数を指定します。たとえば、デフォルト設定の 10 では、 Enterprise Vault サーバーごとに 10 個までのアーカイブを同時に検索できます。 1 から 10 の範囲で値を入力します。
最初に選択したメッセージで[このメッセージをリサーチ]のみを許可	[レビュー]ペインの複数のアイテムをクリックし、次に [検索]をクリックする時、 Discovery Accelerator は選択アイテムのそれぞれ、または選択アイテムの最初のものにのみ検索基準を指定することを可能にするかどうか指定します。
最も古いアイテムと最も新しいアイテムに基づく検索の最適化	<p>[True]に設定すると、検索基準で指定した日付範囲にアイテムを含まないと Discovery Accelerator が判断したアーカイブを検索から除くことによって、パフォーマンスが改善されます。デフォルト設定は[False]です。したがって、内容が指定した日付範囲内かどうかに関係なく利用可能なすべてのアーカイブが Discovery Accelerator によって検索されます。</p> <p>この設定は、[ボルトディレクトリの同期]設定オプションの 1 つである[同期スレッドの確認間隔 (秒)]とともに使います。[最も古いアイテムと最も新しいアイテムに基づく検索の最適化]を True に設定する場合は、[同期スレッドの確認間隔 (秒)]を短く設定して、Discovery Accelerator が古くなったデータを検索しないようにする必要があります。たとえば、設定を 3600 秒 (1 時間) と短くすることができます。</p>
検索の受け入れ時にマークを上書き	検索の結果を受け入れるとき、レビューセットにすでにあるアイテムに割り当て済みのマークを上書きするかどうか指定します。すでに生成してしまったアイテムは対象外です。
マーク付けされていない場合にのみ検索の受け入れ時にマークを上書き	他のケースで以前に表示されたアイテムについて、明示的に割り当てられているマークは考慮するが、他のすべてのマークは上書きするかどうかを指定します。

検索の受け入れ時にレビューアを上書き	検索の結果を受け入れるとき、レビューセットにすでにあるアイテムに割り当て済みのレビューアを上書きするかどうか指定します。
割り当てられていない場合にのみ検索の受け入れ時にレビューアを上書き	検索の結果を受け入れるとき、他のレビューアに以前に割り当てられていないアイテムのみを新しいレビューアに割り当てるかどうかを指定します。
[作成者]の指定を要求、[内容]の指定を要求、[開始日]の指定を要求、[受信者]の指定を要求、[件名]の指定を要求、[終了日]の指定を要求	検索を実行する前に、指定基準を入力する必要があるかどうかを指定します。デフォルトでは、この基準は省略可能です。返される検索結果の数が多すぎないように、この基準を必須にすると便利です。
インデックスサービスがビジー状態の場合の再試行時間 (分)	ビジー状態で検索を実行できない Enterprise Vault Indexing Service へのアクセスを Discovery Accelerator が試行する頻度を分単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。
インデックスサービスが実行されていない場合の再試行時間 (分)	利用できない Enterprise Vault Indexing Service へのアクセスを Discovery Accelerator が試行する頻度を分単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 5 です。
検索結果の上部にあるメッセージのみを返す	検索で最上位アイテムのみを返すかどうか指定します。このオプションを[無効]に設定することは、最上位アイテムに付随するすべてのファイルが検索の結果で表示されることを意味します。
ファイル名ではなく SMTP 件名を保存	ファイルシステムアーカイブ (FSA) を使ってアーカイブされたアイテムについて、レビューペインに、FSA ファイル名ではなく、SMTP メッセージの件名を表示するかどうかを指定します。
[検索結果]ページの更新間隔	検索の実行中に Discovery Accelerator が結果の概要ページを更新する頻度を秒単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 10 です。
検索タイムアウト (時間)	Discovery Accelerator で検索に許容される最大時間を時間数で指定します。デフォルトは 4 時間です。
[検索]ページの更新間隔	Discovery Accelerator がケースの検索ペインを更新する頻度を秒単位で指定します。1 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 20 です。

実行中の検索結果を表示	Discovery Accelerator によって検索されたアイテムのレビューをすぐに開始できるように、検索の実行中にユーザーがレビューペインにアクセスできるようにするかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれを許可します。
対象グループタグ	新しい検索の基準で対象グループを入力するときに、Discovery Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルト値は TG です。
対象タグ	新しい検索の基準で対象名を入力するときに、Discovery Accelerator が接頭辞にするタグを指定します。デフォルト値は T です。
ワークスレッドの検索結果の合計	システムの実行に許可される検索結果のワークスレッドの最大数を指定します。これらのスレッドはアーカイブから返される検索の結果を処理します。最大値は 5 で、デフォルト値は 2 です。
検索スレッドの合計	すべてのインデックスボリュームに渡ってシステムの実行に許可される検索スレッドの最大数を指定します。最大値は 500 で、デフォルト値は 100 です。
検索にシーケンス番号を使用	50,000 を超える結果が返される検索のパフォーマンスを最適化します。デフォルトでは、このオプションは有効です。
サービスの起動時にインデックスサービスを同期するまで待機 (分)	Discovery Accelerator が利用可能なインデックスサービスに同期させる前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。 0 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 0 です。
サービスの起動時にボルト検索を開始するまで待機 (分)	Discovery Accelerator がアイテムのアーカイブを検索する前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。 0 から 300 の範囲で値を入力します。デフォルト値は 0 です。

セキュリティの設定オプション

ロールの拒否権限を表示	Discovery Accelerator ロールに関連付ける権限を選択するときに、そのロールを占有するユーザーに対して特定の権限を拒否することもできるかどうかを指定します。権限を拒否すると、その権限を許可する他のロールにユーザーが割り当てられた場合に、ユーザーはその権限を取得できません。権限の許可に加えて拒否も行うオプションは、デフォルトで有効になっています。
-------------	--

スケジュール用に SQL Server SysAdmin サーバーロールを使用する 選択すると、Discovery Accelerator 検索スケジュールの作成者と所有者は SQL Server の sysadmin としてログインします。

SQL Server インスタンスをロックダウンする場合はこの設定をクリアし、Veritas のサポート Web サイトの次の記事で詳細を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100038151

システム設定オプション

このオプションを使って、Enterprise Vault をインストールした日付、データをアーカイブし始めた日付、検索の一時停止に Discovery Accelerator が使うスレッドを設定した日付などを記録します。

Enterprise Vault で最も古いアーカイブ済みアイテムの日付 Enterprise Vault で利用可能な最も古いデータをアーカイブした日付を指定します。

[Enterprise Vault で最も古いアーカイブ済みアイテムの日付]と[Enterprise Vault V5 のインストール日付]が同じである場合、検索基準を入力するときに、開始日を指定せずにメッセージの種類を指定できます。(Discovery Accelerator は 5.0 以前のデータを返しません。)ただし、最も古いアーカイブ済みアイテムの日付が V5 のインストール日付よりも前の日付である場合、V5 のインストール日付以後の開始日を指定した場合にのみ、メッセージの種類を指定できます。

Enterprise Vault V5 のインストール日付 Enterprise Vault 5.0 以降を初めてインストールした日付、またはアップグレードした日付を指定します。

IIS アプリケーションプール Accelerator Web アプリケーションがグループ化されるアプリケーションプールを識別します。アプリケーションプールによって、特定の構成設定をアプリケーションのグループとそれらのアプリケーションで使われるワーカプロセスに適用できます。デフォルトのアプリケーションプールは EVAcceleratorAppPool です。

一時停止キューの初期サイズ 直ちに一時停止できる検索の最大数を指定します。デフォルトは 2 です。

パブリックフォルダボルトストアを含める 検索にパブリックフォルダボルトストアを含めるかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれを含めません。

SPS ボルトストアを含める	検索に Microsoft SharePoint Portal Server ボルトストアを含めるかどうかを指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はこれを含めません。
一時停止検索スレッドの数	一時停止中の検索に割り当てるスレッド数を指定します。1 から 10 の範囲で値を入力し、デフォルト値は 1 です。
一時停止キューのしきい値	一度にキューに投入できる一時停止検索要求の合計数を指定します。10 から 100 の範囲で値を入力し、デフォルト値は 10 です。
一時停止スレッドの遅延	Discovery Accelerator が一時停止中の検索に割り当てるスレッドを初期化する前に、起動時に待機する時間を分単位で指定します。デフォルトでは、Discovery Accelerator はスレッドの初期化前に遅延しません。
検索の一時停止スレッドの確認間隔 (秒)	一時停止中のスレッドを開始する前に待機する時間を秒単位で指定します。デフォルトは 5 です。
ボルト管理オプションを表示	Discovery Accelerator の現在のバージョンの機能は動作しません。以降のリリースでは、このオプションは Discovery Accelerator から削除されます。

ボルトのディレクトリの同期の設定オプション

次の設定を使って、Discovery Accelerator が Enterprise Vault アーカイブと同期するタイミングを設定します。

アーカイブ登録タスクの間隔 (分)/登録解除	<p>アーカイブ登録/登録解除タスクの実行頻度を分単位で指定します。デフォルトは 60 分です。Discovery Accelerator レビューセットまたは検索結果に内容が表示される Enterprise Vault アーカイブを誤って削除するのを防ぐため、このタスクはアーカイブの登録処理を実行します。また、このタスクは、必要なくなつたときに既存のアーカイブ登録を破棄します。</p> <p>[アーカイブ登録タスクを有効にします]および[[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する]オプションも参照してください。</p>
------------------------	---

アーカイブ選択のページサイズ

アーカイブの選択中に単一のページで表示する **Enterprise Vault** のアーカイブの最大数を指定します。デフォルトで、**Discovery Accelerator** は最大 100 アーカイブを一覧表示します。利用可能なアーカイブ数が、ここで指定した値を超える場合、**Discovery Accelerator** は追加のハイパーリンクを表示し、アーカイブに移動できるようにします。

部門またはケース内の新規ボルトストアを自動的に有効化

新しいボルトストアの作成時に、**Discovery Accelerator** が検索にそれを自動的に含めるかどうかを指定します。

オプションは次のとおりです。

- 1. 新しいボルトストアは決して自動的に有効になりません。
- 2. 新しいボルトストアは常に自動的に有効になります。
- 3 (デフォルト値)。同じサイト内にある他のすべてのボルトストアがすでに有効にされている場合は、新しいボルトストアは自動的に有効になります。

[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する

アーカイブ登録タスクを無効にする選択をする場合に、既存のアーカイブ登録を維持するか破棄するかを指定します。デフォルトでは、このタスクを無効にした後に既存のアーカイブ登録が維持されます。

[アーカイブ登録タスクの間隔 (分)] および [アーカイブ登録タスクの間隔 (分)/登録解除] オプションも参照してください。

アーカイブ登録タスクを有効にします

アーカイブ登録タスクを有効にするか無効にするかを指定します。デフォルトでは、このタスクは有効です。このタスクを無効にすると、[[アーカイブの登録タスクの有効化]を無効にしてから既存のアーカイブの登録を破棄する]オプションで必要な設定を選択することを求めるメッセージが表示されます。

[アーカイブ登録タスクの間隔 (分)] オプションも参照してください。

新しいアーカイブを検索で有効にする	<p>新しい Enterprise Vault アーカイブが同期され、ボルトストアに追加されるときに、Discovery Accelerator で検索を実施できるアーカイブのリストにそれが自動的に含まれるかどうかを指定します。</p> <p>オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. 新しいアーカイブを有効にしません。 ■ 1 (デフォルト値)。すべてのケースで利用可能なアプリケーション全体のアーカイブの一覧で、新しいアーカイブを有効にします。 ■ 2. アプリケーション全体のアーカイブのリストにある新しいアーカイブ、または検索可能なアーカイブのリストがケース管理者によってカスタマイズされたケースの新しいアーカイブを有効にします。
検索でアーカイブを同期	<p>新しい検索の実行時に、すべてのアーカイブを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Discovery Accelerator はすべてのアーカイブを同期しません。</p>
検索で保持カテゴリを同期	<p>新しい検索の実行時にすべての保持カテゴリを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Discovery Accelerator はすべての保持カテゴリを同期しません。</p>
同期スレッドの確認間隔 (秒)	<p>Discovery Accelerator が Enterprise Vault アーカイブと同期する頻度を秒単位で指定します。デフォルトは 21600 (6 時間) です。最良の結果を得るには、同期間隔を 3600 (1 時間) に変更します。</p> <p>頻繁に同期すると、Discovery Accelerator データベースの負荷が大きくなります。ただし、同期が頻繁でなければ Discovery Accelerator が新しいアーカイブ、ボルトストアと保持カテゴリを認識するために長い時間がかかることがあります。</p>
部門またはケースのプロパティの表示時にボルトストアを同期	<p>ケースのプロパティを表示するときに、ボルトストアを同期するかどうかを指定します。デフォルトで、Discovery Accelerator はボルトストアを同期しません。</p>

レビューペインの列のカスタマイズ

各レビューアは、列ヘッダーを右クリックして[列を選択してください]をクリックし、レビューペインのアイテムリストの列を表示または非表示するように設定できます。また、列ヘッダーをドラッグアンドドロップして、列の順序を変更することもできます。ただし、この方法で変更した内容は変更したレビューアのみが利用可能です。

すべての **Discovery Accelerator** ユーザーに対してレビューペインに表示される列レイアウトをカスタマイズするには、**XML 設定ファイル**を設定する必要があります。レビューアは列を選択メニューとドラッグアンドドロップを使ってレビューペインの列レイアウトを変更することもできます。

表 A-2 に、表示できる列と XML ファイルの列を参照するときに使う名前を一覧表示します。

表 A-2 列ヘッダーを XML ファイルで識別する方法

レビューペインの列ヘッダー	XML ファイルで使う名前	デフォルト表示
更新日時	NeedCommitting	True
添付ファイル	Attachments	True
ポリシーの処理	PolicyAction	False
存在するコメント	CommentPresent	True
アイテムの削除の状態	ItemDeletionStatus	False
差出人	From	True
すべての受信者	To	False
件名またはファイル名	Subject	True
日付	Date	True
処理状態	Status	True
最終レビューア	ReviewerPrincipalName	False
メッセージの種類	MessageType	True
メッセージの方向	MessageDirection	False
アイテム ID	DiscoveredItemID	False
コメント	Comment	False
コメントの最終作成者	CommentPrincipalName	False
マーク	Mark	False
タグの概略	TagSummary	False
アーカイブ	KVSVaultName	False
元の場所	ItemPath	False

レビューペインのデフォルトの列レイアウトを設定する方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。
- 2 利用可能なオプションを示すために[レビュー]セクションを展開します。
- 3 [グリッドファイルをレビュー]行で[名前を付けて保存]をクリックします。
- 4 グリッドレビューファイルを保存する場所を選択します。
- 5 **Windows** のメモ帳などのテキストエディタでグリッドレビューファイルを開きます。
- 6 必要に応じて、ファイルの先頭にある情報を使ってファイルを編集します。

表示対象の各列には属性 `visible='true'` が必要です。これは、設定ファイル内に属性が指定されているか、`true` が列のデフォルトに設定されているためです。レビューペインの列は設定行の順序どおりに左から右に並びます。

XML ファイルには `<reviewgrid>` タグと `</reviewgrid>` タグの間に少なくとも 1 行の設定行を含める必要があります。
- 7 ファイルを保存します。
- 8 [システム設定]タブの[グリッドファイルをレビュー]行で[参照]をクリックします。
- 9 インポートする XML ファイルを選択します。
- 10 行の右側にある[オープン]をクリックし、ファイルに加えた変更内容を保存します。
- 11 ウィンドウの右下で[保存]をクリックします。
- 12 新しい **Discovery Accelerator** セッションを開始し、列の変更内容を確認します。

XML ファイルからの設定データのインポート

この付録では以下の項目について説明しています。

- [設定データのインポートについて](#)
- [サンプル XML ファイル](#)
- [Dataload.xml ファイルの形式](#)
- [カストディアンマネージャのデータロード XML ファイルの形式](#)
- [設定データのインポート](#)
- [ImportExport コマンドについて](#)

設定データのインポートについて

Discovery Accelerator の設定処理の一部として、ロール、ユーザー、ケースなどの設定データを入力する必要があります。このデータが Discovery Accelerator の外部にすでにあり、XML 形式に変換可能なら、XML ファイルから Discovery Accelerator にインポートできます。これにより、入力すると時間がかかる大量の設定データをすばやくロードできます。

サンプル XML ファイル

Discovery Accelerator サーバーソフトウェアには、多数のサンプル XML ファイルが含まれています。これらのファイルは Discovery Accelerator プログラムフォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault Business Accelerator) のサブフォルダにあります。

表 B-1 サンプル XML ファイル

ファイル	存在するサブフォルダ	機能
Dataload.xml	AcceleratorAdminWeb¥ Installation	ケースデータ、対象データ、ボルトストアデータをロードする方法を示します。
DataloadCustodian Manager.xml	CustodianManagerWeb¥ Installation	カストディアンマネージャのカストディアン、カストディアングループ、カスタム属性の詳細をロードする方法について例を示します。

Dataload.xml ファイルの形式

Dataload.xml ファイルは、Compliance Accelerator と Discovery Accelerator の両方で使えるので、このファイルには両方のアプリケーションに適用できる情報が含まれています。ただし、このファイルには各アプリケーションに適用するセクションがわかるように、十分な解説が付いています。

表 B-2 Dataload.xml ファイルの最初の Discovery Accelerator セクション

セクション	定義
ApplicationVaultStore	検索のすべてのケースに利用可能なボルトストア。
Employee	管理者またはレビューアとしてシステムに追加するユーザーと、これらのユーザーに割り当てられるアプリケーション管理ロール。
ApplicationTarget	対象とその電子メールアドレス。これらはいずれの場合も利用可能です。
ApplicationTargetGroup	対象のグループ。これらはいずれの場合も利用可能です。
Department	ケース。このセクションに含まれる定義は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">■ ケースユーザー■ 個人に割り当てられるケースロール■ ケースのボルトストア■ ケース対象と対象グループ
AttributeDefinition	カスタム検索属性。

ファイルの 2 番目の部分は各 XML エントリを示します。ファイルの最後に Discovery Accelerator システムのサンプルエントリを記載しています。

データロードファイルで非 ASCII 文字を使う場合は、適切な符号化コードを指定する必要があります。たとえば、ヨーロッパのアクセント付き文字を含むファイルを **Unicode** 形式で保存したり、ファイルの先頭に次の行を追加したりすることができます。

```
<?xml version="1.0" encoding="iso-8859-1" ?>
```

カストディアンマネージャのデータロード XML ファイルの形式

DataloadCustodianManager.xml ファイルを使って、カストディアンマネージャのデータをロードして更新します。表 B-3 に、このファイルの主なセクションを示します。

表 B-3 DataloadCustodianManager.xml ファイルの主なセクション

セクション	定義
CustodianAttributeDefinition	Active Directory または Domino LDAP ディレクトリのような外部ソースと同期するカストディアンマネージャのカストディアンとカストディアングループのカスタム属性。 p.80 の「 カスタムのカストディアン属性の設定 」を参照してください。
Custodian	Discovery Accelerator 検索を行なう際の検索対象の個々のユーザー。 p.78 の「 カストディアンの設定 」を参照してください。
CustodianGroup	Discovery Accelerator 検索を行なう際の検索対象の従業員の任意の集まり。これらの集まりには、NT グループ、配布リスト、Active Directory コンテナ、Domino LDAP クエリーおよび Domino グループがあります。 p.79 の「 カストディアングループの設定 」を参照してください。

設定データのインポート

XML ファイルから設定データをインポートするには、設定データインポート権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのディスカバリシステム管理者ロールを持つユーザーにこの権限が割り当てられます。

XML ファイルから設定データをインポートする方法

- 1 **Discovery Accelerator** クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[インポート設定]タブをクリックします。
- 2 [設定ファイル]フィールドで、インポートする XML ファイルへの絶対パスを入力するか、[参照]をクリックしてインポートするファイルを選択します。
パスには最大 250 文字まで入力できます。
ファイルがリモートコンピュータに格納されている場合は、そのファイルへの UNC パスまたは NTFS パスを指定できます。次に例を示します。
`\\\\server2\\\\EVB\\\\import.xml`
- 3 続行する前に以前のインポートの情報を消去する場合は、[インポート前のログをクリア]を選択します。
- 4 [インポート]をクリックします。

ImportExport コマンドについて

ImportExport コマンドは、カスタマーデータベースにデータをインポートするための **Discovery Accelerator** クライアントに代わるコマンドラインインターフェースです。また、データベースから XML ファイルにデータをエクスポートできます。

コマンドは、設定ファイルの `ImportExport.exe.config` とともに **Discovery Accelerator** サーバーの **Discovery Accelerator** プログラムフォルダにインストールされます。

ImportExport を使ってデータをインポートするには設定データインポート権限が、データをエクスポートするには設定データエクスポート権限が必要です。デフォルトでは、アプリケーションのシステム管理者ロールを持つユーザーにこれらの権限が割り当てられます。

新しくインポートされたすべてのケースは、米国政府の連邦情報処理標準 (FIPS) に準拠しています。

メモ: ユーザーアカウント制御 (UAC) を有効にしているコンピュータで ImportExport を使用する場合に最良の結果を導くには、管理者権限でこのコマンドを実行してください。そうしない場合、ImportExport で一部の操作 (カスタマーデータベースから XML ファイルにデータをエクスポートするなど) を実行できないことがあります。

ImportExport の構文

```
ImportExport.exe -F:FileName -C:CustomerID [-I] [-L:LogFile] [-O]
[-NoValidation] [-BypassService] [-LogToDB] [-LeaveDBLog]
[-ShowOnlyErrors] [-CommitOnceOnSuccess] [-?]
```

表 B-4 でコマンドに追記できるパラメータについて説明します。

表 B-4 ImportExport コマンドパラメータ

パラメータ	機能
-F: <i>FileName</i>	データのインポート元、エクスポート先の XML ファイルを識別します。
-C: <i>CustomerID</i>	データのインポートまたはエクスポート対象の Discovery Accelerator カスタマーを識別します。パラメータを指定せずに ImportExport を実行してカスタマー ID の入力を求められた場合、? を入力して、すべてのカスタマーの名前と識別子を表示できます。
-I	-F パラメータで指定する XML ファイルからカスタマーデータベースに設定データをインポートします。指定した XML ファイルにデータをエクスポートする場合は、このパラメータを省略します。
-L: <i>LogFile</i>	ログファイル名を指定します。ファイルのパスを省略した場合は、 Discovery Accelerator サーバーの Discovery Accelerator プログラムフォルダにファイルが作成されます。
-O	XML 出力ファイルとログファイルが存在する場合は、これらのファイルを上書きします。出力ファイルとログファイルが存在する場合にこのパラメータを省略すると、コマンドはエラーメッセージを表示して停止します。
-NoValidation	XML の妥当性検証を無効にして、 XML ファイルからデータをインポートする処理時間を短縮します。データをファイルにエクスポートする場合は、このパラメータは無視されます。

パラメータ	機能
-BypassService	<p>Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスをバイパスしてカスタマーデータベースに直接接続します。これは、非常に大きいデータベースに対してデータをインポートまたはエクスポートしたときにメモリ不足が発生した場合に必要な場合があります。</p> <p>この機能を使うには、以下を確認する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カスタマーデータベースへのアクセス権限があります。 ■ ImportExport.exe.config ファイルで、Discovery Accelerator データベースの SQL サーバーが DSN キーに指定されています。Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを起動するたびに、AcceleratorManager.exe.config と AcceleratorService.exe.config ファイルに指定される値が一致するようにこのファイルの DSN キーの値が自動的に更新されます。そのため、ImportExport.exe.config ファイルに別の値を指定しても、Discovery Accelerator は次のサービス起動時にそれを上書きします。
-LogToDB	ログファイルとカスタマーデータベースの両方にログメッセージを書き込みます。
-LeaveDBLog	-LogToDB パラメータとともに指定すると、以前のインポートとエクスポートに関する情報を上書きせずに Discovery Accelerator データベースに残すことができます。
-ShowOnlyErrors	-LogToDB パラメータとともに指定すると、情報メッセージを除外したエラーメッセージを報告します。
-CommitOnceOnSuccess	コマンドによりデータがエラーなしでインポートされた場合に限り、そのデータを Discovery Accelerator データベースにコミットします。
-?	コマンドのヘルプ情報を表示します。

ImportExport コマンドの例

次のコマンドは、data.xml ファイルから妥当性を検証せずにデータをインポートします。このファイルは、C:\temp フォルダにあります。ログファイルの import.log にはエラーメッセージのみが含まれ、XML データをインポートするとログファイルの以前の内容が上書きされます。

```
ImportExport.exe -C:2 -I -F:C:\temp\data.xml -NoValidation -O
-L:import.log -ShowOnlyErrors
```

次のコマンドは、Discovery Accelerator データベースのデータを XML ファイルの export.xml にエクスポートします。このファイルは、Discovery Accelerator サーバーの %USERPROFILE% フォルダ (C:\¥Documents and Settings¥username) にあります。また、以前にデータベースに記録されたログのエラーメッセージを上書きします。

```
ImportExport.exe -C:2 -F:export.xml -LogToDB -LeaveDBLog  
-ShowOnlyErrors
```


Discovery Accelerator 検索で使う Enterprise Vault のプロパティ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault の検索のプロパティについて](#)
- [システムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ](#)

Enterprise Vault の検索のプロパティについて

Enterprise Vault がアイテムを処理する場合、情報を持つ多数のアイテムのプロパティをポピュレートし、アーカイブ済みアイテムを含むこの情報を格納します。この情報は Discovery Accelerator の検索でアクセス可能です。検索のプロパティペインの[カスタム属性]セクションでは、自由形式の属性として関連したプロパティの詳細を入力できます。

Enterprise Vault の検索のプロパティは次のカテゴリに分類されます。

- 電子メールメッセージの作成者や添付ファイル数などのシステムプロパティ。
 - メッセージの種類または方向のような Enterprise Vault のカスタムプロパティ。
 - ファイルシステムアーカイブの Enterprise Vault が処理したアイテムのカスタムプロパティ。
 - Microsoft 社 SharePoint の Enterprise Vault が処理したアイテムのカスタムプロパティ。
 - Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムのカスタムプロパティ。
 - Enterprise Vault Data Classification Services のカスタムプロパティ。
 - Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ。
- すべてのプロパティがすべてのアイテムに存在するわけではありません。

システムプロパティ

表 C-1 に、Enterprise Vault で定義されているシステムプロパティの一覧を示します。

表 C-1 Enterprise Vault のシステムプロパティ

プロパティ	種類	説明
adat	日付	アイテムをアーカイブした日付。
anum	番号	添付ファイル番号。最上位のアイテムに 0 を指定します。
audn	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の表示名。
auea	文字列	作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の電子メールアドレス。
auot	文字列	作成者の他の電子メールアドレス。
ausm	文字列	作成者の SMTP 電子メールアドレス。wrs、frsm、ppsm のプロパティ値を組み合わせます。
auth	文字列	作成者。

プロパティ	種類	説明
cdat	日付	<p>Veritas Information Classifier エンジンまたはファイル分類インフラストラクチャエンジンがアイテムを分類した日付。アイテムが分類されていない場合は空になります。</p> <p>32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。Enterprise Vault 12.1 以前が分類したアイテムには遡及して追加されません。ただし、Enterprise Vault 12.2 以降を使用してアイテムを再分類するとこのプロパティが追加されます。</p>
cend	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの終了日。
clcn	文字列	アイテムの現在の場所。フォルダのシーケンス。
clon	文字列	カレンダーミーティングなどのイベントの場所。
cnid	文字列	32 文字の 16 進数で表示される対話追跡 ID。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。
cntp	文字列	対話追跡トピック。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。
coid	文字列	アイテムのこのコンポーネントの元の ID。
comr	文字列	<p>消失した内容の理由。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0. 利用可能な理由はありません。 ■ 1. 内容は存在しません。 ■ 2. 内容を入手できませんでした。 ■ 3. 内容が壊れています (または壊れているようです)。 ■ 4. 適した形式に内容を変換できません。 ■ 5. 内容の変換に失敗しました (コンバータエラー)。 ■ 6. 内容の変換がタイムアウトになりました。 ■ 7. 内容の変換が必要ですが、データ形式は変換から除外されています。 ■ 8. 内容の変換が必要ですが、変換のバイパスは設定されています。 ■ 9. 内容が暗号化されています。 ■ 10. 内容の変換が必要ですが、コンバータは利用できないか、初期化されていません。 ■ 11. インデックスに内容を追加できません。 ■ 12. コンバータはファイルの種類を認識しませんでした。 ■ 13. 大きいファイルのために変換が除外されました。 ■ 14. 検出できないコードページのために変換が除外されました。

プロパティ	種類	説明
cont	文字列	アイテムの内容 (デフォルトで 128 文字まで)。
cpid	文字列	拡張コンテンツプロバイダインスタンスまたは Enterprise Vault アーカイブタスクの ID。
cpnm	文字列	拡張コンテンツプロバイダの名前。
crcl	文字列	現在の保持カテゴリ名 (32 文字まで)。 分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。
crct	文字列	現在の保持カテゴリ識別子 (112 文字まで)。 分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。
crre	整数	カレンダー反復の例外。
crrp	文字列	カレンダー反復パターン。
crrt	整数	カレンダー反復の種類。
csrt	日付	カレンダーミーティングなどのイベントの開始日。
cupm	文字列	切り捨てられたカスタムインデックスプロパティ。
date	日付	作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。
dtyp	文字列	アイテムのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。
edat	日付	アイテムの有効期限。 プロパティ値は、アイテムの保持カテゴリを強制変更する保持計画によってアーカイブに適用された値を反映する場合があります。
flag	文字列	メッセージフラグの状態。
fpcn	文字列	アイテムの内容のフィンガープリント。添付ファイルまたは文書の内容に対して一致を検索するために使用できます。
fpdd	文字列	アイテムの重複排除のフィンガープリント。メッセージまたは文書に対して完全一致を検索するために使用できます。このプロパティではワイルドカード検索はサポートされません。
frdn	文字列	差出人: 表示名/フレンドリ名。
frea	文字列	差出人: 電子メールアドレス。frsm と frot のプロパティ値を組み合わせます。

プロパティ	種類	説明
from	文字列	表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
frot	文字列	差出人: 他の電子メールアドレス。
frsm	文字列	差出人: SMTP の電子メールアドレス。
idat	日付	Enterprise Vault がアイテムをインデックス付けした日付。インデックスボリュームを再構築すると、Enterprise Vault は影響のあるアイテムのインデックス付けされた日付を更新します。 32ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。
iden	文字列	アイテムの元の ID。たとえば、送信されたメッセージの SubmissionId。
impo	文字列	数値で表されるメッセージの重要度。0 = 低、1 = 標準、2 = 高。
isrc	文字列	Enterprise Vault がアイテムをレコードとしてマーク付けた (True)かしなかった (False)かを示します。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使用します。「isrecord」または「isrc」で参照できます。
jaen	文字列	メッセージのエンベロープ: 他の作成者。
jrau	文字列	メッセージのエンベロープ: 作成者。Exchange ジャーナルメッセージにのみあります。プロパティ値には存在する電子メールアドレスおよび表示名の両方が含まれています。
jrbc	文字列	メッセージのエンベロープ: BCC: 受信者。
jrcc	文字列	メッセージのエンベロープ: CC: 受信者。
jrcp	文字列	メッセージのエンベロープ: 受信者。Exchange ジャーナルメッセージにのみあります。プロパティ値には存在する電子メールアドレスおよび表示名の両方が含まれています。
jren	文字列	メッセージのエンベロープ: 他の受信者。
jrfm	文字列	メッセージのエンベロープ: 差出人: 受信者。
jrpp	文字列	メッセージのエンベロープ: PP: 受信者。
jrto	文字列	メッセージのエンベロープ: TO: 受信者。
keys	文字列	カテゴリまたはキーワード。
locn	文字列	アイテムの元の場所。フォルダのシーケンス。
mdat	日付	アイテムの最終変更日。

プロパティ	種類	説明
msgc	文字列	アイテムの元の MAPI メッセージクラス (たとえば、IPM.Note)。
nadn	文字列	名前。表示名/フレンドリ名。redn と audn のプロパティ値を組み合わせます。
naea	文字列	名前。Exchange の電子メールアドレス。reea と auea のプロパティ値を組み合わせます。
name	文字列	メッセージの作成者または受信者の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
naot	文字列	名前。他の電子メールアドレス。reot と auot のプロパティ値を組み合わせます。
nasm	文字列	名前。SMTP の電子メールアドレス。resm と ausm のプロパティ値を組み合わせます。
natc	番号	添付ファイルの数。
ndte	番号	アイテムの有効期限までの日数。 プロパティ値は、アイテムの保持カテゴリを強制変更する保持計画によってアーカイブに適用された値を反映する場合もあります。
nrcp	番号	受信者の数。 配布リストは、メンバーの数に関係なく、1 人の受信者としてカウントされます。
ppdn	文字列	PP。表示名/フレンドリ名。
ppea	文字列	PP。Exchange の電子メールアドレス。ppsm と ppot のプロパティ値を組み合わせます。
ppgn	文字列	代理としてドキュメントが作成されるまたはメッセージが送信される人物の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
ppot	文字列	PP。他の電子メールアドレス。
ppsm	文字列	PP。SMTP の電子メールアドレス。
prio	文字列	数値で表されるメッセージの優先度。-1 = 低、0 = 標準、および 1 = 高。
pvid	文字列	アイテムの権限 VaultId (112 文字まで)。
rbcc	文字列	BCC: 受信者。
rbdn	文字列	BCC 受信者の表示名。

プロパティ	種類	説明
rbea	文字列	BCC 受信者の電子メールアドレス。
rbot	文字列	BCC: 受信者。他の電子メールアドレス。
rbsm	文字列	BCC: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
rcat	文字列	元の保持カテゴリ識別名 (112 文字まで)。
rcdn	文字列	CC 受信者の表示名。
rcea	文字列	CC 受信者の電子メールアドレス。
rcid	文字列	アイテムのレコード ID です。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使います。「recordid」または「rcid」で参照できます。
rcot	文字列	CC: 受信者。他の電子メールアドレス。
rasm	文字列	CC: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
recc	文字列	CC: 受信者。
recp	文字列	メッセージの受信者の表示名/フレンドリ名、あるいは電子メールアドレス。
redn	文字列	メッセージの受信者。表示名/フレンドリ名。rtdn、rcdn、rbdn、rndn のプロパティ値を組み合わせます。
reea	文字列	メッセージの受信者。電子メールアドレス。rtea、rcea、rbea、mea のプロパティ値を組み合わせます。
reot	文字列	メッセージの受信者。他の電子メールアドレス。rtot、rcot、rbot、rnot のプロパティ値を組み合わせます。
resm	文字列	メッセージの受信者。SMTP の電子メールアドレス。rtsm、rasm、rbsm、rasm のプロパティ値を組み合わせます。
reto	文字列	TO: 受信者。
rndn	文字列	他のエンベロープの受信者。表示名/フレンドリ名。
rnea	文字列	他のエンベロープの受信者。電子メールアドレス。rasm と rnot のプロパティ値を組み合わせます。
rnot	文字列	他のエンベロープの受信者。他の電子メールアドレス。
rasm	文字列	他のエンベロープの受信者。SMTP の電子メールアドレス。

プロパティ	種類	説明
rsdt	日付	保持の開始日付/時刻。 32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。
rtdn	文字列	宛先受信者の表示名。
rtea	文字列	宛先受信者の電子メールアドレス。
rtot	文字列	TO: 受信者。他の電子メールアドレス。
rtsm	文字列	TO: 受信者。SMTP の電子メールアドレス。
rtyp	文字列	アイテムの、永続または一時などのレコードタイプ。レコードを管理するために Capstone やその他の方法で使います。 「recordtype」または「rtyp」で参照できます。
sens	文字列	数値で表されるメッセージの機密性。0 = 標準、1 = 個人用、2 = 秘密、および 3 = 機密。
size	番号	KB のアイテムのサイズ。
snum	番号	64 ビットの整数として表現されるインデックスシーケンス番号。
ssid	文字列	アイテムの保存セット識別子。最大 72 文字。このプロパティではワイルドカード検索はサポートされません。
subj	文字列	件名またはタイトル。
tcdt	日付	タスクの完了日。
tddt	日付	タスクの期限。
text	文字列	アイテムの内容 (cont) または件名またはタイトル (subj)。
tsts	番号	タスクの状態。0 = 未開始、1 = 進行中、2 = 完了、3 = 一時停止、4 = 遅延。
vpcv	文字列	Veritas Information Classifier ポリシーの現在のバージョン。 Veritas Information Classifier がアイテムを分類したかどうか。 分類している場合、最新のポリシーセットを使用したかどうか。 True = 最新のポリシーセットを使用して分類した。False = 最新のポリシーセットを使用して分類した。空 = Veritas Information Classifier がアイテムを分類していない。
wrdn	文字列	最終更新者。表示名/フレンドリ名。
wrea	文字列	最終更新者。電子メールアドレス。wrsn と wrot のプロパティ値を組み合わせます。

プロパティ	種類	説明
writ	文字列	最終更新者。wrdn、wrea、wrsn、wrot のプロパティ値を組み合わせます。
wrot	文字列	最終更新者。他の電子メールアドレス。
wrsn	文字列	最終更新者。SMTP の電子メールアドレス。

Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 C-2 は Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 C-2 Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
Vault.CopiedFrom	文字列	<p>Enterprise Vault のアーカイブの移動機能がコピーしたアイテムの次の詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイテムをコピーした日時。 ■ アーカイブ元の識別子。 ■ ソースアイテムの保存セット識別子。 <p>次の形式があります。</p> <p><i>UTC_datetime_of_copy、source_archive_ID、source_item_Saveset_ID</i></p> <p>アーカイブが数回移動された場合、各移動に値があります。</p>
Vault.JournalType	文字列	<p>ジャーナルメッセージ用のジャーナルの種類。オプションは次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ E2003 ■ E2007 ■ E2007ClearText ■ E2007RMS
Vault.MsgDirection	文字列	<p>メッセージの方向。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0 - 未定義 ■ 1 - 内部（送信者とすべての受信者が内部） ■ 2 - 外部インバウンド（送信者が外部で、1 人以上の受信者が内部） ■ 3 - 外部アウトバウンド（送信者が外部で、1 人以上の受信者が外部）

プロパティ	種類	説明
Vault.MsgType	文字列	メッセージの種類。オプションは次のとおりです: <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ DXL ■ EXCH ■ FAX.vendor ■ IM.vendor ■ SMTP

ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 C-3 はファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 C-3 ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVFSADLMImport.DLM	文字列	アイテムがレガシーのアーカイブアプリケーション、Veritas データライフサイクル管理 (DLM) からインポートされたインジケータ。これは現在文字列「インポート済み」とポピュレートされていません。
EVFSA.OriginalFileName	文字列	Enterprise Vault がアーカイブしたポイントのファイルのオリジナル名称。

SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 C-4 は SharePoint のアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

これらのプロパティの中には、特定の Enterprise Vault システムプロパティと同様なものがあります。たとえば、SharePoint プロパティ "EVSP.Title" は Enterprise Vault システムプロパティ "subj" と似ています。ただし、Enterprise Vault システムプロパティは、ソーシャルコンテンツアイテムなど、一部の SharePoint アイテムで予測される情報を保持しません。このため、SharePoint アーカイブを検索する場合は、同等の Enterprise Vault

システムプロパティでなく、カスタムの SharePoint インデックスプロパティを使ってください。

表 C-4 SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVSP.AttachmentName	文字列	このアイテムに対するすべての添付ファイルの名前の一覧。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.Comment	文字列	チェックインのコメント。
EVSP.Created	文字列	アイテムの作成日。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.CreatedBy	文字列	文書の作成者のドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.DocId	文字列	SharePoint 文書の識別子。
EVSP.Editor	文字列	文書エディタの表示名。
EVSP.Modified	文字列	アイテムが最後に更新された日付。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。
EVSP.ModifiedBy	文字列	文書エディタのドメイン名 (Windows アカウント名)。
EVSP.ProgId	文字列	アイテムのプログラム ID。
EVSP.Site	文字列	SharePoint のサイトの名前。
EVSP.SiteId	文字列	SharePoint のサイトの識別子。
EVSP.SiteUrl	文字列	SharePoint のサイトの URL。
EVSP.Title	文字列	SharePoint 文書のタイトル。
EVSP.UniqueId	文字列	アイテムを一意に識別する GUID。
EVSP.Version	文字列	SharePoint 文書のバージョン。
EVSP.Attachments	文字列	アイテムに添付ファイルがあるかどうか (true または false)。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。
EVSP.display_name	文字列	アーカイブ済みアイテムの表示名。

プロパティ	種類	説明
EVSP.SharePoint_property_name	文字列	カスタマーが設定可能なプロパティ。任意の SharePoint のプロパティ。

Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 C-5 は Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 C-5 Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
KVSCA.Department	文字列	KVSCA.DeptAuthor と KVSCA.DeptRecips のプロパティ値を組み合わせます。
KVSCA.DeptAuthor	文字列	アイテムの作成者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
KVSCA.DeptRecips	文字列	アイテムの受信者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。
Vault.PolicyAction	文字列	アイテムで取る必要がある全体処理。適用されるポリシーすべての合計の結果。次の定義値があります： <ul style="list-style-type: none"> ■ NOACTION ■ EXCLUDE ■ INCLUDE

ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

表 C-6 に、Enterprise Vault Data Classification Services などの特定のポリシー管理アプリケーションで使われることがあるカスタムプロパティの一覧を示します。

(Data Classification Services は、Veritas Enterprise Vault と Symantec Data Loss Prevention のさまざまなコンポーネントを組み合わせた、旧式のアドオン分類技術です。ここで説明する分類機能とは異なります。)

表 C-6 ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
evtag.category	文字列	いずれの方向のキャプチャにも影響しないポリシーです。アイテムの分類のみを行います。
evtag.exclusion	文字列	レビューセット内でキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進するポリシーです。
evtag.inclusion	文字列	キャプチャを要求または提案するポリシーです。

Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

表 C-7 は、他社のアプリケーションで SMTP メッセージに追加し、Enterprise Vault SMTP アーカイブでポリシーと対象設定を上書きできるカスタムプロパティをリストします。これらのプロパティについて詳しくは、『SMTP アーカイブの設定』を参照してください。

表 C-7 Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

プロパティ	種類	説明
EVXHDR.X-Kvs-ArchiveId	文字列	メッセージを保存するアーカイブの識別子。
EVXHDR.X-Kvs-IndexData	文字列	インデックス付けする Enterprise Vault の 1 つ以上のプロパティ。
EVXHDR.X-Kvs-MessageType	文字列	メッセージの種類。これにより、Enterprise Vault SMTP アーカイブがデフォルトで SMTP.mail に設定する Vault.MsgType プロパティの値が上書きされます。
EVXHDR.X-Kvs-OriginalLocation	文字列	メッセージが存在するコンテンツソースのフォルダ。
EVXHDR.X-Kvs-RetentionCategory	文字列	メッセージに割り当てる保持カテゴリの ID。

トラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- **Discovery Accelerator** クライアントのレビューペインで特定のアイテムをプレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある
- **Windows 8** 以降で **Discovery Accelerator** クライアントを開くときの表示の問題
- **Internet Explorer 10** 以降で **Discovery Accelerator Web** サイトを開くときの表示の問題
- **Discovery Accelerator** クライアントで表示されないボルトストア
- **Discovery Accelerator** の検索で予期しない結果が返される
- **SQL Server** ではデフォルトでフルテキスト検索インデックス作成が無効になる
- **Discovery Accelerator** からアイテムをエクスポートする際のエラー
- インターネットメール (.eml) メッセージをレビューセットからエクスポートした後に、その **TNEF** エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある
- **SQL Server** コンピュータ名の変更後の同期エラー
- **Accelerator** マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー
- カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに **SQL Service Broker** で警告が発生する
- カストディアンマネージャに関する問題
- **Discovery Accelerator** のレポートに関する問題
- 権限がある削除エラーのトラブルシューティング

Discovery Accelerator クライアントのレビューペインで特定のアイテムをプレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある

Discovery Accelerator クライアントのレビューペインで特定のアイテムをプレビューするときにセキュリティ警告が表示されることがある

特定のアイテムの HTML プレビューを表示しようとするときに、Discovery Accelerator クライアントの[レビュー]ペインに次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Content within this application coming from the  
website listed below is being blocked by Internet  
Explorer Enhanced Security Configuration.
```

```
about:security_AcceleratorClient.Exe
```

この問題を解決するには、`about:security_AcceleratorClient.Exe` をご使用の Web ブラウザのローカルイントラネットゾーンまたは信頼済みサイトゾーンに追加します。

Windows 8 以降で Discovery Accelerator クライアントを開くときの表示の問題

Windows 8 以降で Discovery Accelerator クライアントを開くときに、特定の領域に表示の問題が発生することがあります。このような問題が発生した場合、Windows 7 または Windows XP (Service Pack 3) の互換性モードでクライアントを実行することによって問題を回避できます。

Internet Explorer 10 以降で Discovery Accelerator Web サイトを開くときの表示の問題

Accelerator マネージャ、カストディアンマネージャ、Discovery Accelerator API の Web サイトを Internet Explorer 10 以降で開くと正しく表示されない場合があります。この問題が発生する場合、ローカルイントラネットのセキュリティゾーンにアドレスを追加することによって回避できます。その方法については、Internet Explorer のオンラインヘルプを参照してください。

Discovery Accelerator クライアントで表示されないボルトストア

Discovery Accelerator クライアントで、検索を行うボルトストアの選択領域にボルトストアがない場合、Enterprise Vault のディレクトリサービスが実行されていない可能性を示しています。このような場合は、次の手順を実行します。

- Enterprise Vault のディレクトリサービスが実行されていない場合は、起動します。
- Discovery Accelerator と Enterprise Vault サーバーで同じバージョンの Enterprise Vault が実行されていることを確認します。
- Accelerator マネージャ Web サイトで、Discovery Accelerator カスタマーデータベースのディレクトリ DNS エイリアス情報が正しいことを確認します。

Discovery Accelerator の検索で予期しない結果が返される

予想外の結果が返される検索の問題についてベリタスのサポートに連絡する場合、検索基準ファイルが必要となる場合があります。

検索基準ファイルを生成する方法

- 1 Discovery Accelerator クライアントの[設定]タブをクリックし、次に[設定値]タブをクリックします。
- 2 利用可能なオプションを表示するために[診断]セクションを展開します。
- 3 [検索基準を保存]行で、[値]列のオプションを選択します。
- 4 [保存]をクリックします。
- 5 Discovery Accelerator サーバーで Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを再起動します。
- 6 検索を再実行します。

Discovery Accelerator サーバーで、Discovery Accelerator によって Criteria_SearchID.txt というファイルが Discovery Accelerator プログラムフォルダの SearchCriteria サブフォルダに作成されます。フォルダに複数のファイルが含まれている場合は、Discovery Accelerator クライアントの検索名上にマウスポインタを移動することによって関連付けされた検索を識別できます。

SQL Server ではデフォルトでフルテキスト検索インデックス作成が無効になる

最新バージョンの SQL Server は、デフォルトでは全文検索インデックス処理を実行しません。その結果、ケースレビューセット内の自動分類や検索など、Discovery Accelerator の分析機能が正しく働かない場合があります。フルテキスト検索インデックス作成を使うには、SQL Full-text Filter Daemon Launcher サービスを適切に設定する必要があります。

SQL Server でフルテキスト検索インデックス作成を有効にする方法

- 1 SQL Server コンピュータの[コントロールパネル]で[管理ツール]アプレットをダブルクリックします。
- 2 [サービス]をダブルクリックします。
- 3 [SQL Full-text Filter Daemon Launcher]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 4 スタートアップの種類を[手動]に変更し、[OK]をクリックします。
- 5 フルテキスト検索用のサービスアカウントの設定方法については、Microsoft 社の Web サイトの次の記事を参照してください。

<http://msdn.microsoft.com/library/ms345189.aspx>

Discovery Accelerator からアイテムをエクスポートする際のエラー

アイテムのエクスポート時に次のエラーメッセージを受け取った場合、Discovery Accelerator サーバーの mapisvc.inf ファイルのバージョンが不正である可能性があります。

```
Error      Failed to write the file:
The EVPSTAPI COM object has not been initialized
```

MAPI の問題を修正する方法

- 1 Windows エクスプローラで、Discovery Accelerator サーバーの %windir%\system32 フォルダを参照します。
- 2 fixmapi.exe をダブルクリックして、MAPI 修復ツールを実行します。このツールの実行中は何も表示されません。
- 3 Discovery Accelerator サーバーを再起動します。
- 4 問題が解決されたかどうかをテストします。

fixmapi.exe を実行しても問題を修正できない場合

- 1
- Discovery Accelerator サーバーの %windir%\system32 フォルダで、既存の mapisvc.inf ファイルの名前を変更します。
- 2
- Microsoft Outlook に付属しているバージョンの mapisvc.inf を %windir%\system32 フォルダにコピーします。このバージョンは通常、次のフォルダにあります。

C:\Program Files\Common Files\System\MSMAPI\locale_ID

ここで、*locale_ID* は、ロケールの数値識別子です。次の表に一般的なロケール識別子の一部を示します。

簡体字中国語	2052	ヘブライ語	1037
繁体字中国語	1028	イタリア語	1040
デンマーク語	1030	日本語	1041
オランダ語	1043	ポルトガル語	2070
英語 (米国)	1033	スペイン語	3082
フランス語	1036	スウェーデン語	1053
ドイツ語	1031		

- 3
- Discovery Accelerator サーバーを再起動します。

インターネットメール(.eml)メッセージをレビューセットからエクスポートした後に、その TNEF エンコードの添付ファイルが読めなくなることがある

インターネットメール(.eml)メッセージをケースレビューセットから元の形式でエクスポートした後に、メッセージに対する任意の TNEF エンコードの添付ファイルの中身が読めなくなることがあります。

TNEF エンコードの添付ファイルは、Outlook メールボックスフォルダにファイルをドラッグアンドドロップすることによって普通に作成されます。これらは通常、winmail.dat という名前になります。

SQL Server コンピュータ名の変更後の同期エラー

SQL Server コンピュータの名前を変更すると、Discovery Accelerator データベースが SQL Server と同期する際に Discovery Accelerator サーバーのイベントログに次のメッセージが記載されることがあります。

```
Cannot add, update, or delete a job (or its steps or schedules)
that originated from an MSX server. The job was not saved.
```

この問題とその解決方法について詳しくは Microsoft ナレッジベースの次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=281642>

この問題は、SQL Server コンピュータでスクリプトを実行して解決することもできます。

SQL スクリプトを実行して同期エラーを解決する方法

- 1 Query Analyzer で SQL Server に接続します。
- 2 次のコマンドを入力して msdb データベースにアクセスします。

```
USE msdb
```

- 3 次の スクリプトを実行します。

```
DECLARE @srv sysname SET @srv = CAST(SERVERPROPERTY('server_name')
AS sysname) UPDATE sysjobs SET originating_server = @srv
```

server_name は、SQL Server コンピュータの新しい名前置き換える必要があります。

Accelerator マネージャサービス起動時のパフォーマンスカウンタエラー

Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスの起動時に、次のエラーメッセージが Discovery Accelerator サーバーのイベントログに表示される場合があります。

```
Event Type:      Error
Event Source:    Accelerator Manager
Event Category:  None
Event ID:        41978
Description:     APP ATM - Error: deleting Performance Counters
Description:     Input string was not in a correct format.
```

```
Event           Type:Error
Event           Source:Accelerator Manager
Event Category: None
```

カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに **SQL Service Broker** で警告が発生する

Event ID: 41980
Description: APP ATM - Error: Creating Performance Counters
Description: Input string was not in a correct format.

この問題とその解決方法について詳しくは **Microsoft** ナレッジベースの次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=300956>

カスタマーデータベースを異なるサーバーに復元するときに **SQL Service Broker** で警告が発生する

元のサーバーとは異なるサーバーに **Discovery Accelerator** カスタマーデータベースを復元すると、**SQL Server** によって次の警告メッセージがイベントログに記録されることがあります。

```
Service Broker needs to access the master key in the database  
'database_name'. Error code:25. The master key  
has to exist and the service master key encryption is required.
```

次の **SQL Server** コマンドを使ってデータベースのマスターキーを作成することによって、この警告メッセージを抑制することができます。

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = 'password'
```

詳しくは **Microsoft** 社の **Web** サイトで次の記事を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/library/aa337551.aspx>

カストディアンマネージャに関する問題

このセクションでは、カストディアンマネージャを使用する場合に発生する可能性のある問題について説明します。

カストディアンマネージャを使うと複数のカストディアンを同じ **Active Directory** アカウントで同期できる

カストディアンマネージャでは、同じ **Active Directory** アカウントで詳細が同期される複数のカストディアンを設定できます。これにより、同期が発生した場合に予測不能な結果になる可能性があります。

問題が発生しないようにするには、各カストディアンが重複のない **Active Directory** アカウントで同期されるようにします。

カストディアンマネージャで、ユーザーがカストディアングループを削除して Active Directory と同期することによってグループを復元した後に、そのグループのメンバーが一覧表示されない

カストディアングループを削除して、カストディアンマネージャをグループのソースであった Active Directory ドメインと再同期すると、カストディアングループはカストディアンマネージャに再表示されます。ただし、グループに属するカストディアンは一覧表示されなくなります。

この問題を回避するには、カストディアングループのプロパティページに移動して[今すぐ同期]をクリックしてグループとメンバーを強制的に今すぐ更新します。

カストディアンが 1 つの Active Directory ドメインに属していて、別のドメイン内のグループのメンバーである場合に、カストディアンマネージャがその別のドメインと同期するときにカストディアンの詳細を更新しないことがある

次の条件の両方に該当するとき、カストディアンマネージャは、スケジュール設定された、Active Directory ドメインとの差分同期の一部としてカストディアンの詳細を更新しません。

- カストディアンが、カストディアンマネージャが同期している 1 つ以上の異なるドメインに属しているが、ドメイン内のグループのメンバーである。
- カストディアンマネージャがカストディアンが属するドメインと同期するよう設定されていない。

この問題を回避するには、カストディアンマネージャがカストディアンが属するドメインと確実に同期するようにします。または、[ディレクトリ同期]ページで[今すぐ同期]をクリックしてカストディアンマネージャをすべての一覧表示された Active Directory ドメインと今すぐ同期させます。

カストディアンマネージャが特定の 2 バイト文字を名前に含む Domino LDAP ユーザーとグループとの同期に失敗する

カストディアンマネージャ Web サイトでは、Active Directory や Domino LDAP ディレクトリなどの外部ソースと同期することで、いくつかの詳細を入力してから残りの部分をポピュレートしてカストディアンとカストディアングループを設定できます。ただし、Domino LDAP ディレクトリと同期する場合、特定の 2 バイト文字を名前に含むユーザーとグループではこの機能が動作しないことがあります。特に、**ä** などのアクセント付きの文字でこの問題が発生する可能性があります。この問題は、Active Directory との同期には影響しません。

カストディアンマネージャが同期に失敗した各 Domino ユーザーまたはグループでは、次のエラーイベントが Veritas Enterprise Vault ログに記録されます。

```
Source: Accelerator AD Synchronizer
Event ID: 34
Task Category: None
Level: Error
Keywords: Classic
Description:
APP AT - Customer ID: 5 - An error occurred in
ProfileSynchroniser::SynchroniseEmployeeProfile
while retrieving properties. System.Exception:
Domino User has invalid format ...
```

この問題は、IBM Domino が 2 バイト文字を含むユーザー名またはグループ名の LDAP 検索をサポートしていないために発生します。この問題を回避するには、IBM Domino のユーザー名とグループ名にサポート対象文字のみが含まれるように確認します。IBM Web サイトの次の記事に、IBM Domino システムのパーツに最適な名前を付ける方法についてのガイドラインが記載されています。

https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/en/SSKTMJ_9.0.1/admin/plan_dominonamingrequirements_c.html

Discovery Accelerator のレポートに関する問題

Discovery Accelerator クライアントからレポートを生成、印刷、エクスポートするときに多数の問題が発生する可能性があります。

レポートを生成しようとするメッセージ[レポートの作成中にエラーが発生しました]が表示される

レポートを生成しようとするとき次のメッセージが表示される場合は、誤ったログオン資格情報を使ってレポートテンプレートが SQL レポートサーバーにアップロードされた可能性があります。

```
An error occurred creating the report
```

```
An error has occurred during report processing ---> ...
Cannot impersonate user for data source 'CustomerDatabase'. --->
Logon failed. ---> Logon failure: unknown user name or bad password.
(Exception from HRESULT: 0x8007052E)
```

Accelerator マネージャ Web サイトでは、テンプレートをレポートサーバーにアップロードするときに入力したログオン資格情報は認証されません。その結果として、資格情報を省略したり、誤った資格情報を入力すると、その後、レポートを生成する場合にアカウントの妥当性検証問題が発生します。

レポートテンプレートを SQL レポートサーバーにアップロードする方法について詳しくは『インストールガイド』を参照してください。

レポートの初回印刷時に SQL Server のインストールを要求するメッセージが表示される

Discovery Accelerator クライアントから初めてレポートを印刷すると、[セキュリティ警告] ウィンドウに **Microsoft SQL Server** をインストールするように要求するメッセージが表示されます。これは **Microsoft SQL Server Reporting Services** の既知の問題で、クライアントからレポートを印刷するために **ActiveX** コントロールをダウンロードするように要求されます。この問題を解決するには、**Web** ブラウザのセキュリティ設定を、必要なコントロールをインストールできるように設定します。

Internet Explorer のセキュリティ設定を変更する方法

- 1 Microsoft Internet Explorer で、[ツール] > [インターネットオプション] の順にクリックします。
- 2 [セキュリティ] タブをクリックします。
- 3 [信頼済みサイト] ゾーンを選択し、次に [サイト] をクリックします。
- 4 SQL レポートサーバーの URL を入力します。
- 5 [追加] をクリックし、次に [クローズ] をクリックします。
- 6 [レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。
- 7 [ActiveX コントロールとプラグイン] ノードまでスクロールします。
- 8 [署名済み ActiveX コントロールのダウンロード] で [有効にする] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

CSV としてエクスポートしたレポートを Microsoft Excel で正しく開けない場合がある

SQL Reporting Services は、デフォルトでは、ANSI エンコードではなく **Unicode** エンコードを使って CSV ファイルをエクスポートします。**Unicode** でエンコードされた CSV ファイルのデータは、**Microsoft Excel** で開くと正しく表示されません。

問題を回避する方法

- 1 **SQL Reporting Services** のインストール先フォルダで、rsreportserver.config ファイルを検索します。
- 2 **Windows** のメモ帳などのテキストエディタでファイルを開きます。

- 3 次のテキストブロックを <!-- と --> マークで囲んでコメント化します。

```
<Extension Name="CSV" Type="Microsoft.ReportingServices.Rendering.
CsvRenderer.CsvReport, Microsoft.ReportingServices.CsvRendering"/>
```

- 4 次のテキストブロックを追加します。

```
<Extension Name="CSV" Type="Microsoft.ReportingServices.Rendering.
CsvRenderer.CsvReport, Microsoft.ReportingServices.CsvRendering">
<Configuration>
  <DeviceInfo>
    <Encoding>ASCII</Encoding>
  </DeviceInfo>
</Configuration>
</Extension>
```

- 5 ファイルを保存して閉じます。

設定ファイルを編集した後は、SQL Reporting Services では初期レポートに格納された Unicode 文字は無視されます。

Acrobat 形式でレポートをエクスポートするときに日本語で文字化けが発生する

Acrobat (PDF) 形式でレポートをエクスポートするときに Discovery Accelerator レポートの日本語が文字化けしている場合は、次の手順を実行すると問題を解決できる可能性があります。

- SQL レポートサーバーに東アジア言語の補足ファイルをインストールしていることを確認します。ファイルをインストールするには、[コントロールパネル]の[地域と言語のオプション]を開き、[言語]タブで、[東アジア言語のファイルをインストールする]を選択します。
- SQL レポートサーバーに MS ゴシックフォントのバージョン 5.00 以降をインストールします。このバージョンは Windows の最新のバージョンで供給されています。

OData エラーのトラブルシューティング

表 D-1 では、Discovery Accelerator データセットにアクセスしたときに表示されるエラーと該当する HTTP エラー状態コードについて説明します。

表 D-1 エラーメッセージと HTTP コード

HTTP コード	メッセージテキスト	説明
204	このデータセットのコンテンツは利用できません。	アクセスしたいデータセットには情報がありません。 SearchCriteria データセット内で、検索 ID がクエリーで指定されたケース ID に属していない場合、このエラーが発生することがあります。
400	要求の形式が無効です。	OData の URL の形式が正しくない可能性があります。
401	アクセスが拒否されました。このデータセットを表示する権限がありません。	データセットにアクセスするために必要な権限がありません。
501	データセットの情報を取得するときに例外が起きました。	指定したデータセットの情報を取り込むときに内部エラーが起きました。

権限がある削除エラーのトラブルシューティング

表 D-2 では、権限がある削除機能を使用して **Enterprise Vault** アーカイブからアイテムを削除するとき、アイテムの履歴で確認できるエラーの理由と、これを解決するために実行できる処理を一覧で表示します。

表 D-2 エラーの理由と処理

エラーの理由	処理
アーカイブまたはボルトストアが存在しません。	Enterprise Vault からアーカイブまたはボルトストアが削除されているかどうかを確認します。
アイテムを削除できません。アイテムが以前のバージョンの Enterprise Vault に格納されています。	サーバーを Enterprise Vault 12.3 以降にアップグレードします。
削除が許可されていません。アイテムがリーガルホールドの状態であるか、コンプライアンスデバイスに格納されています。	アイテムを削除できないデバイスでアイテムが保留または格納されているかどうかを確認します。
Enterprise Vault Accelerator サービスアカウントが、アーカイブからアイテムを削除する十分な権限を持っていません。	Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスアカウントが、アイテムが所属するアーカイブに十分な権限を持っているかどうかを確認します。

エラーの理由	処理
無効なパラメータが Enterprise Vault API に渡されました。	Enterprise Vault の管理者に問い合わせてサポートを受けてください。
アイテムが見つかりませんでした。	アイテムがアーカイブからすでに削除されているかどうかを確認します。
Enterprise Vault API によって予想外のエラーが返されました。エラー: {0:X}	しばらく待って、後で再度実行します。
Enterprise Vault が実行されていません。 または Enterprise Vault が一時的に要求を処理できません。サーバーがビジー状態であるか、リソースが不足しているか、バックアップが継続的しておりデータを読み取ることしかできません。しばらく待って、後で再度実行します。 または Enterprise Vault サーバーで内部エラーが発生しました。	[権限がある削除の最大試行数]オプションを設定して、Discovery Accelerator が Enterprise Vault アーカイブからアイテムを削除する試行回数を増やします。 p.194 の「 権限がある削除の設定オプション 」を参照してください。